唐突な話ですが、アメリカ大統領は核弾頭ミサイルの発射ボタンを押すことができます。ミサイルを宇宙空間に飛ばす航空力学も、核爆発の原子物理学の知識がなくても、ボタンを押すことが許されています。システムが完全に整備されていれば、素人の大統領にもボタンは押せるのです。

この春、私どもの医師会が准看養成機関を閉鎖しました。他の医師会もいずれはこの方向に向かい、准看制度はいずれ縮小消滅するでしょう。看護婦職の専門性が非常に高まり、大学卒、大学院卒がある職種になります。看護婦職に診療介助を求めてはいけない時代になったのです。看護職には別の仕事があるのです。病人看護と診療介助は別物と認識しなければなりません。

新しい診療介助職を創りださなければならない時代になりました。必要なときに、新しい職種を創設して、時代は進歩してきました。一般診療に必要な作業は、採血、注射、心電図等の臨床検査、胸部単純レ線撮影等々の業務です。現在のコンピューター制御装置の発達は目覚ましいものです。原理の理解は浅くても、ボタン操作で、仕事は安全に遂行できます。アメリカ大統領でも核ミサイルのボタンが押せるのですから、レ線検査のボタンくらい少し教育すれば誰にだって安全に押せます。時代にあった新しい技能職が生まれて当然です。

医療の世界では放射線技士、臨床検査技士、理学療法士、臨床工学技士、歯科衛生技士等々の数々の職種を立ち上げてきました。外来主体の診療機関にもどうしても診療介助者が必要です。看護婦ではなく、もっと広い範囲の能力とその資格を持った人材が必要です。ここでは需要の多いはずの診療介助者——「臨床医療技能士」の養成制度の創設を強く訴えます。
●巻頭言 「臨床医療技能士」の創設を
黑田 健昭………………巻頭

●学術 電話連絡網による緊急連絡および出動訓練
後藤 良顕………………1

●弔辞 石原先生へ、
藤森千葉県医師会長の弔辞代読にあたって
石原静雄先生のご冥福を祈る
石原静雄先生安らかにおねむりください
渡辺善男先生を偲んで
渡辺善男先生を偲んで
藤倉静雄先生のご冥福を祈る
藤倉静雄先生長年にわだちました
川辺 敏…………………5
藤森 宗徳………………5
渡辺 義男………………6
奈良 四郎………………8
佐藤 勉…………………9
井上 幸…………………10
川辺 敏…………………11

●随想 母を偲ぶ
柴 迪子………………13
随想三題
遠山 正道……………14
老害に息む
山崎 義人……………18

●参議院選挙 今回の参議院選挙を振り返って
桑原 久…………………20

●退任挨拶 東邦大学佐倉病院長任期を終了して
小屋 二六………………21

●新入会員紹介 目は心の窓
木村 美佐子……………23
はじめて
村松 信彦……………24
空手道からP.C.まで
大久保 圭雄…………25
地域に密着した医療を
中原 正男……………26
「手の外科」とともに20年
今井 克巳……………27
素敵な佐倉で開業して
黒須 悦樹……………28
「オーキッドクリニック」の開設に際して
浦田 純一……………29
風光明媚な地に開業して
藤田 裕介……………30
ベインクリニックを地域医療に生かして
庄 康秀……………31
医師会入会にあたり
安部 充仁……………32

●同好会 平成12年度佐倉地区医師会ゴルフ大会……………………33
第14回印西地区医師会ゴルフコンペ……………………34
第64回佐倉地区医師会釣り同好会大会……………………35
第65回佐倉地区医師会釣り同好会大会……………………36
第44回印旛市郡医師会ゴルフコンペ……………………37
第15回印西地区医師会ゴルフコンペ……………………39

●表彰 医療従事者の永年勤続者表彰………………………41

●定時総会報告 …………………………………………43

●臨時総会報告 …………………………………………48
目次

協議会報告
三郡医師会航空機対策協議会緊急連絡および出動訓練………………54
三郡医師会航空機対策協議会……………………………………60
三郡医師会とAOCとの懇談会……………………………………64
AOC勉強会……………………………………65
平成12年度三郡医師会研修会報告………………………………66

勉強会記録……………………………………………………72

セミナー・委員会報告
第1回 千葉県災害医療セミナー報告 後藤良顕・塚田正男……83
第2回 救急災害医療対策委員会報告 塚田正男…………………84
第4回 救急災害医療対策委員会報告 塚田正男…………………87
第1回 自賠責・労災医療検討委員会報告 塚田正男………………89
第2回 自賠責・労災医療検討委員会報告 塚田正男………………91

理事報告
印旛市郡医師会の救急体制について 塚田正男・後藤良顕……92
看護学校担当理事報告 椎名芳男……………………………97
学術担当理事報告 岩井 力………………………………99
福祉担当理事報告 岩井 力………………………………100
公衆衛生・予防接種・学校保健担当理事報告 柴田敦夫……101
病院・二次救急輪番制担当理事報告 藤倉國男…………………102
診療情報提供担当理事報告 小林英夫………………………105
産業保健担当理事報告 池 克志……………………………106
救急・三郡空対、地域医療担当理事報告 後藤良顕…………107
介護保険・経理担当理事報告 遠山正博……………………108
保険担当理事報告 鈴木直人………………………………109
広報・医療システム担当理事報告 沢澤晃雄…………………111

ホームページ作成記………………………………………京増芳則………………112

地区だより
佐倉地区……………………………………………………113
四街道地区…………………………………………………114
印西地区……………………………………………………115
八街地区……………………………………………………116
成田地区……………………………………………………117

入退会記録……………………………………………………118

編集後記……………………………………………………120

表紙の言葉…………………………………………………石原薫英………………121
電話連絡網による緊急連絡および出動訓練

三郡医師会

航空機対策協議会

後藤 良顕

三郡医師会航空機対策協議会は、空港内及びその周辺地域において、航空機事故が発生した場合、想定されるすべての航空機事故パターンに対応し、発災後2時間以内にトリガー、応急救護、後方病院への搬送、収容を完了するシステムを確立するため、東京航空局新東京国際空港事務所、成田市及び新東京国際空港公団、三郡市歯科医師会航空機対策協議会など関係機関との密接な協力のもとに救援活動訓練を毎年行っておりますが、より実践的なものとするため12年9月6日緊急連絡出動訓練を行った。

1. 情報受理、伝達は、公団→会長→医師会司令室→各医師会→会員へと三郡医師会航空機対策協議会災害時緊急連絡網による。地域災害訓練を兼ねて、各自治体と共に集結場所への出動とその確認を行い、空港では公団職員による確認を行った。

2. 〇〇空港96便B-747型機が着陸に失敗。火災発生の想定のもと、以下を伝達

「訓練、訓練。12時、〇〇航空機重大事故が発生しました。空港公団より緊急出動の要請がありました。各会員に連絡して下さい。」

3. 伝達の結果。以下の項目について検討。
   1) 連絡到達率。 2) 連絡受信までの時間。
   3) 最終連絡者までの到達時間。
   4) 出動までの要要時間。
   5) 集結場所までの要要時間及び人数。
   6) 空港到着までの要要時間及び人数。
   (a) 集結場所から空港まで。
   (b) 直接空港へ。

4. 訓練の考察と反省

三郡医師会は、自治体と公団と協力して、緊急連絡出動訓練を行った。地域災害出動訓練を兼ねるという立場から、自治体職員は集結場での出動会員のチェックを行った。また公団は、医師会の訓練に呼応して、公団職員の緊急出動訓練を行った。三郡医師会会員294名に連絡して261名、88.7％
に連絡可能であった。印旛市郡医師会では、226名中200名に連絡できた。地区毎によ
る差は殆ど認められない。佐原市香取郡医
師会17名中16名、94％、山武郡医師会で
は、51名中45名、88％に連絡できて、各医
師会ともよく連絡できた。これは事前の打
ち合わせが徹底していたことによると思わ
れる。

連絡受信までの時間についてみると、印
旛郡では平均14.4分ですが遅いところは
40～60分かかっている。佐原市香取郡で
は、平均16.2分で遅い所は23分です。印旛
は広いこと、また連絡網の1班の人数が多
いことなどが関係していると思われる。ま
た最終連絡者までの到達時間は、平均22分～
27.4分で医師会による差は認められませ
ん。

出動までの所要時間の平均は、印旛は
17.4分、佐原は3.8分で山武は9.6分です。
遅い人は約50分かかっている。これは日頃
からの出動の準備ができていないことを示
していると判断する。結集場所までの所要
時間の平均は、印旛で21.5分、佐原では4.
6分、山武では18.4分でした。地区によっ
ては遅い人は47～60分かかっている。結集
場所まで出動した人数は、印旛で76名、佐
原で11名また山武では17名でした。

空港到達までの所要時間は、4分～55分
まで様々でした。高速道路を利用できる場
所からは、30分以内に到着できている。事
故発生時には高速道路を利用するように
配慮されることは大切である。空港に出動
した人は、印旛で21名、佐原で11名また山
武で15名でした。

5. 今後の課題

1）緊急連絡網の整備

今回の訓練では、90％近くの会員に連
絡できたが、訓練を重ねて連絡が滞りな
くできるようにしたい。電話連絡網は自
宅と診療所に置いておく配慮が必要でし
よう。また連絡到達まで時間がかかった
所があることは、連絡網で連絡する1班
の人数が5名程度が良いことと、また班
筆頭者が班の全員に連絡するようにす
ることが必要なことを示しています。

2）出動訓練の準備について

出動準備に時間がかかる人がいる。日
ごろから出動準備をチェックしておくこ
とが求められる。

出動装備、救急キットなどをキャスタ
ー付きキャリアーにじやしておくような準
備を会員にお願いできるようにしたい。

（注記：平成13年4月7日第4回千葉
県救急医療研究会で発表した内容を要
約したものです。）
三郡医師会航空機対策協議会 災害時緊急連絡網

新東京国際空港公団
三郡医師会航空機対策協議会 会長

追川 孝雄

副会長 坂村 公道
常任委員 中島 克己
不在時
常任委員 後藤 良顕
不在時
常任委員 真鍋 博
国保 能彦 佐久間将夫

司令室（印旛郡医師会内）
国保 能彦 佐久間将夫

印旛郡医師会

成田地区
佐倉地区
四街道地区
八街地区
印西地区

山武郡医師会

会長 伊藤 俊夫

佐原市香取郡医師会

会長 龟谷 秀夫

(1) 通報内容を、落ち着いてしっかりメモすること。
(2) 市村、坂田、中島の各先生へ至急電話すること。
   1人へ電話したら、他の2人の先生へ追川から電話することを伝える。
   これは緊急の場合の重複をさけるためです。
(3) 3人の先生へ連絡後、指令室へ報告すること。
(4) 時間経過後の情報連絡は司令室へ行う。
(5) 連絡がつかない先生があれば、他の先生に、○○先生に連絡つきませんと報告すること。
出動訓練報告書集計（平成12年9月6日実施）

以下の項目について検討
1. 連絡到達率  2. 連絡受診までの時間。12時30分より  3. 最終連絡者までの到達時間。
   12時30分より 4. 出動までの所要時間。  5. 集結場所までの所要時間及び人数。
6. 空港到着までの所要時間及び人数。
   1）集結場所から   2）直接空港へ

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
<th>6</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>成田</td>
<td>84%</td>
<td>9分〜40分</td>
<td>6分〜40分</td>
<td>0分〜25分</td>
<td>3分〜20分</td>
<td>1) 12分〜17分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>59名</td>
<td>平均19.4分</td>
<td>平均22.8分</td>
<td>平均8分</td>
<td>平均8分</td>
<td>平均13分、6名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>70名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 4分〜25分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 4分〜25分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 4分〜25分</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>94%</td>
<td>2分〜45分</td>
<td>18分〜45分</td>
<td>9分〜17分</td>
<td>9分〜47分</td>
<td>1) 15分 2名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>61名</td>
<td>平均17分</td>
<td>平均31分</td>
<td>平均17.8分</td>
<td>平均17分</td>
<td>2) 0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>65名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四街道</td>
<td>100%</td>
<td>9分〜55分</td>
<td>20分〜55分</td>
<td>17分〜55分</td>
<td>28分〜65分</td>
<td>1) 17分〜23分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>33名</td>
<td>平均22分</td>
<td>平均31分</td>
<td>平均22分</td>
<td>平均35分</td>
<td>平均20分 2名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>33名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 0</td>
</tr>
<tr>
<td>印西</td>
<td>74%</td>
<td>0分〜12分</td>
<td>5分〜30分</td>
<td>1分〜19分</td>
<td>6分〜24分</td>
<td>1) 48分 1名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>31名</td>
<td>平均4.1分</td>
<td>平均16.3分</td>
<td>平均5.1分</td>
<td>平均10.7分</td>
<td>2) 28分 1名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>41名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>八街</td>
<td>94%</td>
<td>2分〜60分</td>
<td>14分〜89分</td>
<td>10分〜15分</td>
<td>15分〜60分</td>
<td>55分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16名</td>
<td>平均9.3分</td>
<td>平均36分</td>
<td>平均12分</td>
<td>平均37分</td>
<td>1) 2名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>17名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 0</td>
</tr>
<tr>
<td>印総計</td>
<td>88.5%</td>
<td>14.4分</td>
<td>27.4分</td>
<td>17.4分</td>
<td>76名</td>
<td>1) 13名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>200名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 8名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>226名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
<th>6</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>佐原</td>
<td>94%</td>
<td>9分〜23分</td>
<td>21分〜23分</td>
<td>3分〜5分</td>
<td>3分〜7分</td>
<td>1) 27分 9名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16名</td>
<td>平均16.2分</td>
<td>平均22分</td>
<td>平均3.8分</td>
<td>平均4.6分</td>
<td>2) 25分 2名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>17名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>山武</td>
<td>88%</td>
<td>14分〜57分</td>
<td>2分〜23分</td>
<td>2分〜23分</td>
<td>平均18.4分</td>
<td>1) 38分 2名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>45名</td>
<td>平均27分</td>
<td>平均9.6分</td>
<td>平均18.4分</td>
<td>17名</td>
<td>2) 0 15名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>51名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三郡合計</td>
<td>88.7%</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1) 47名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>261名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 47名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>294名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
石原先生を偲んで

藤森千葉県医師会長の弔辞代読にあたって

本日私は、千葉県医師会長藤森宗徳先生の弔辞を、つつしんで、代読させて戴きますが、一言お別れの言葉をお許し願います。

私は今、先生と二度と御会い出来ない、これから日々を考えますと、荒野の中にただ一人たたずむ、浄化と悲しみが、先生の最愛の御家族の皆様方の深い深いお嘆きと共に、万感胸に迫って居ります。

思えば公私には、今日迄大変御世話にあいながら。その日々の思い出が、今も走馬灯の様に浮かんだ事消えて居ります。有り難うございました。

では、石原先生、千葉県医師会長藤森宗徳先生の弔辞に入らせて戴きます。

藤森県医師会長は、よんどころない事情により本日の葬儀に参列出来ません。私御紹介を戴きました、川辺敏ですが、弔辞をお預かりして参りましたので、謹んで代読させて頂きます。

ご冥福を祈る

千葉県医師会長 藤森宗徳

千葉県医師会顧問 元千葉県医師会副会長、前千葉県医師団組合理事、石原静雄先生のご逝去を悼み慎んで弔辞をささげます。

先生は、昭和47年4月、高木会長のときはじめて千葉県医師会理事に就任されました。

以来、高木、小林、桜井と三代の会長を16年の永きにわたり支え、桜井会長時代には副会長として、その手腕を発揮され Patients.

最初の2年間は公衆衛生を担当されておられましたが、3年目からは保険担当になられております。

石原先生を語る時、多くの会員が「保険の石原」と、親しみと尊敬をこめた詞をつけて話すのをよく耳にしました。この一つの言葉が石原先生のご功績を最も端的に顕してい
安らかにおねむりください
日本産婦人科学会功労会員
前成田市教育委員長
渡辺義男

私が先生と親しくお話ししたり、気軽に御相談したり、時には反抗的なことまで言ったり始めのは昭和34年5月に妻と共に東京から成田に帰ってからでした。先生が釧路市郡医師会付属成田准看護婦学校理事の頃です。

先生についての記憶の第一は、石原先生の次から准看護学校理事や成田地区理事については「成田地区医師会会員が順次必ず交代でやるべきものである」と私の説言を石原先生や川辺先生が賛成して下さって、10年先までの5期10名の先生方を指名させて頂くことが出来ました件です。それが計を変えながらも今日まで続いて居ります次第で有難う存じました。お礼申し上げます。

次は先生について、私が抱かせた件です。昭和38年に釧路市郡医師会から内科系の社会保険診療報酬支払基金審査委員を1名出してくれるとも話があたられた時のことで、どなたも受けて下さる方を無く、石原先生に番を廻りましたから心良くすぐに御引き受けて頂いたからです。

千葉市内まで月に何回も自分の午後の診療を休んででも往復しなければならない役職です。時には会員に恨まれたりすることさえあるのですからね。
弔辞

しかも、それ以来まっしぐら、平成11年5月-martoの35年を越す永い年月をです。最後の4年間はその委員長として、そして頼まれると県内各地区での保険講習会にまでも出向され、それも地区によっては愚口や文句が出て来ることすら有るのも何のそので、頑張って来られたのですから。本当に御苦労様でした。

先生は私などの無礼な物言いに対しても陽性に受け止めて下さって居られましたが、頑固さもかなりだったし、根気強いものたちでありはっきりした方で、何よりも真っ直ぐな人柄だったと思っております。

成田赤十字病院に勤務されて居られた頃、麻薬中毒などの乱暴者に対して、堂々と玄関払いを何度もなされた先生だったとも聞き及んでおります。心が強くのですね。とても私などには出来ないことです。

そのまますっぐに永い間の御努力が多くの人に認められて、推され、受けられた県医師会理事であり、県医師会副会長ではなかったのかと考える者1人もおります。また一方では皆の地区医師会内での仕事をも気軽に引き受けられ、同僚後輩同様におやり下さり続けました。全く感謝いたします。

昭和60年11月3日には顔色喪を、太平洋年の11月3日には勲五等勲章日章を授与されたのは當然のことと存じます。ここであたる先生らしさを味わわれた私です。それは成田市主催の歓送祝賀会を強く辞退しなかった件でした。（前回に1度やって頂いて居るからがその理由でしょう。）

これまでの40余年の間には、御長女幸子さん

の御夫、近藤恭平先生が、昭和56年に、10年間も勤務された成田日赤病院を辞めて、石原医院を手伝い守って来て下さいましたし、平成10年の5月には私の長女と成田小学校同級の御令息、輝英君も立派な一人前の医療人となって成田へ帰られたのです。

そういう先生！聞いて下さってますよね先生！ やっと親兄弟が3人揃って石原医院も何一つ心配も無くなったのではないでしょうかと申し上げたいのです。

それに加えて先生ご自身も役職を少なくされたり、辞退なさったりで、心身共にやっと余裕も出来はじめて、これからこそめて永年ご苦労ばかりが続けの令夫人敏子さんと少しはのびるとなさるべきではなかったんです。それをなんですか、勝手に1人旅立たれるなんて、私は残念でたまりません。御家族は皆御苦労の苦です。

先生はこれまでに2回もの大病すら乗り切ってここまで頑張ってやって来て下さったのに、どうして今度もそうしてはくれなかったのですか。そうやれなかったんだ。私には残酷に思えてなりません。

安心されたからですか。

疲れ切ったからですか。

それでも御自分の生涯に御満足されたからですか。

生者必減、会者定顔。

悲しいことですもうあきらめます。さようなら。

静雄先生どうぞゆっくりと 安らかにおねむり下さい。

平成12年8月17日
渡辺熨斗男先生を偲んで

佐倉医師会釣り同好会 奈 良 四 郎

昨年10月1日の第64回秋の釣大会には、御元気で参加され、見事、釣り上げられた先生が本年1月末急逝され、全く驚きました。

実は昨年12月末の退会届を頂戴し、慌てて御伺いしましたが、お会い出来ず、様子が分らず、非常に心配して居りました。その後本年1月中旬「慈大病院に入院中」との佐藤義男先生の御知らせがあり、早速御見舞に上りました。先生はベッドで上半身を起きさせられ、「骨組体節で3月次には退院予定」の旨お話をあり、ひとまず安心して帰りましたが、1月末亡くなられ非常に残念でした。

そもそも佐倉医師会釣り同好会の始まりは、佐藤義男先生と共に当時御元気で張り切って居られた先生御自身の往復運転による葉山港での釣行が発端動機となり、第1回（昭和44年5月）も上総湊沖の大会で先生が優勝されたのが始めです。春秋2回行なわれ、本年は33年目に入った次第です。釣り場所は主として県内ですが、県外では浜名湖・秋田沖・宇和島沖・瀬戸内等に転戦して来ました。この間道に外されることなく、純粋に釣りを追い求めたことは県内の医師会としては稀有の事であると思います。これも下情に通じ面倒見の良かった先生の御努力に負ふ処が大であると確信しています。

先生は大分県生まれの九州県民で幼少時より釣りが大好きで、体力には可成りのものがあり、為に若いときの多くの手術の際の感染によるC型肝炎が原因での肝癌の由、83歳で不帰の客となった事は実に残念の極みです。然しながら先生の無き後、新人の内田兼生先生等の活躍が始まり、ついに先日の春の大会（平成13年6月3日）には、夫々、見事に真鯨を釣り上げ優勝並びに準優勝された。この事はなき先生にも喜んで戴けるものと信じて疑いません。

最後に長い間会長として御苦労された先生の御冥福を祈って止みません。

平成13年6月8日
渡辺熾斗男先生を偲んで
佐倉順天堂医院 佐藤 強

昨年暮れ近く、重い植木鉢を持ち上げた拍子に腰を痛められたとか、その後ご家族から的情報も乏しく、失礼をも顧みず捜し当ててお見舞いした。発熱と若干黄ばんで衰弱されたご様子だったが、この痛みを何とか克服したいと生への強い意欲を見せられたのには、その後もなく卒然と世を去られた。主因は慢性肝炎→肝ガン→骨転移と伺った。外科医は肝炎に罹れば一人前などと言われたパカげた時代、つい先頃まで無防備だった肝炎ウィルスの医療従事者への汚染は今も我々の周囲にさまざまな深刻な後遺症を残している。恐らく先生もこの犠牲者だったのだろう。それにしても長年にわたり外科医・産婦人科医として病める患者を切り捗き地域医療に尽くされた聖職者に対してなんとすごい天の仕打ちであろうか！

竹を割ったような剛直かつ細心な九州男児・渡辺熾斗男先生は医師会に入会したでの青二才の私にとって威厳に満ちた近寄りがたい存在だった。開業間もなく、その渡辺先生の号令一呼、佐倉在住の開業医の釣り好きの会が誕生し（佐倉釣メ会）以来30数年間親しくお付き合いを積んだ。

公的には2期4年間を含む市郡医師会理事会をなさった時に参加としてお手伝いしたが、国際医科大学進出阻止・今年廃校した印旛高等専修看護学校建設等の諸問題に真剣に対処され、また医療事故対策委員長として、年々増加する会員の医療事故の円滑な処理に豊富な知識とご経験を生かして力尽くされた功績は大だった。

酒・タバコ無し、釣りにドライブ以外はスポーツは苦手？とお見受けしたが、市会報にしばしば投稿された「診療コメレ話」や喜寿の折の記念講演など文筆・話術ともに軽妙、カルタ取り（百人一首）は得意とする分野で、骨董品類、特に日本刀をこよなく愛され、その鑑定は天下一品、或るときは熱っぽく語る文化人だった（佐倉市教育委員2期）。

その他政治・経済に明るく、釣行の夜話に、門外漢の我々に向かって一くさり薙ぎを傾け訓話をするのが常だった。渡辺流錬金術の恩恵に浴せぬままに師に先立ち、弟子一同落胆中、誠に残念である。

渡辺熾斗男先生は釣りを求めて日本中をのばった日々が星馬灯のように眩ってくるが、昨年9月の釣りの例会で、死の陰裡もみせず、小ちゃん釣りを釣り上げて目を細めて喜ばれていたお元気な姿が今も鮮明に脳裏に焼き付いている。先生、お安らかにお休み下さい。

ご冥福を心よりお祈りして、合掌。
藤倉静男先生を偲んで

今は亡き藤倉病院理事長藤倉静男先生の御霊前に謹んで最後のお別れの言葉を申し上げます。

26日の朝10時からの本会議の日程調整の最中、成田の藤倉先生から議長への直接の電話ですとの事、何か予感あり、自分が直接秘書から受話器をとると、国男院長から「今朝7時に父が亡くなりました。」との事、悲しいお知らせを頂きました。

1日の公式日程を終えて、直ちに夕方お宅へ駆けつけました。

安らかなお顔を拝見して、今今は長い間御世話になりましたが手を合わせてひたすらに御冥福をお祈りするばかりでした。

藤倉理事長先生、本当に長い間御世話になりました。お兄様の藤倉武男先生は、私の政治の師でした。

私が印旛の隣村に開業したのが昭和25年そして27年からは印旛郡市町の歯科医師会の役員として、当時印旛郡市町医師会長としての藤倉武男先生の所に伺い、種々御配慮を頂きました。それから約50年の間、大変御世話に相成りました。藤倉武男先生がその後、貴男と孝次郎先生と力を合わせて藤倉病院を設立され、近郊近隣の中核病院として不動の地位を築かれていました。

その後藤倉武男先生が、昭和31年市長に立候補され昭和46年4月30日まで実に4期に亘り名市長として成田国際空港の開港に向けて大変な時期がありました。

その市長も病院には何等後顧の憂いも無く、成田市政に精進出来たのも、貴男のお陰でございます。

貴男は自分の病院だけではなく今日の成田市発展の陰の力となった大木昌一さん、日暮久弥先生等とゴルフをした事等思い浮かべ成田に行くと必ず私はお宅を訪問致しました。その時の喜んだ笑顔は今も忘れません。此の所議長になってからは外交行事等が重なり、訪れる事が出来なくて、特に私が議長になった時は大層喜んで下さったとの事、本当に就任報告ができなかった事を今悔やんで居ります。
弔辞

数年前に奥様が病気で倒れられ、又貴男御自身声が不自由になりましたが、或る時には黒板とチョークを持って東京の議員会館にも尋ねて頂きました。長い長い御言葉と言うか弟の様に可愛がって頂き本当に感謝いたせません。温厚篤実にして人間味豊かな理事長先生にはもはや幽明界を異にされ、ただただ残念言うすべを知らず、哀悼痛惜にたえません。

しかし御令息國男先生は立派に貴男の後継者としてふさわしい、しかもこれからも医師会を背負って行く方です。御安心下さい。

國男先生の奥様お娘様「峰子さん」又「厚子さん」と良く優しく孝養を尽くして居られます。

立派なお孫さんにも恵まれて何らの心配なく、好きなビールをたしなまれ、この世を送られた貴男は日本一の幸福な人かも分かりません。どうぞ御安心下さい。私も國男先生の御相談に乗り、それが貴男に対する御恩返しと思って居ります。

どうか先に逝かれた藤倉武男市長様とも黄泉の旅路で「井上へどうやら心配していたが、何とか一人になったよ」と尽きせぬ話を御報告して下さい。

心より御冥福をお祈り申し上げ、私の弔辞といたします。

平成13年3月3日

有難うございました

千葉県医師会参与
印旛郡医師会顧問
川辺　敏

本日ここに、藤倉静男先生の御霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

昨年12月14日、恒例の成田空港のAOCのクリスマスパーティーがありました。例年いつも先生でお優しいお娘様のお付き添いで、私に元気で明るく手をあげて呼んでくれるのを楽しみに出席致しましたが、御会い出来ず淵く早く帰って参りました。

本年2月26日の早朝、突然先生の御診察に接し、誠に驚くと共に深い悲しみに沈みました。

藤倉先生は、戦後の医療の中、情熱をたぎらせ、新生医師会の信条構想の中で医師として、役員としての使命を実践しました。

また私を初めとして、後輩の育成に御尽力を賜りました。

その業績は誠に枚挙に暇がなく、また地域医療のため医療行政に、市民の健康福祉の対策に、大変な御努力を賜りました。

また空港の設営期間中闘争問題が起こり、そのため多数の負傷者の方がありました時、温かく始め入、藤倉病院に収容し、院長としてすべての人を手厚い治療を行い感謝されました。

また空港内の航空機事故に対しては照空クリニックにていち早く救護活動を充分に行ない、多数の人命を救助なさいました。

誠に我々の尊敬する真の医療の人、医人でありました。

昭和53年、医師会で、私が会長で、蜂谷、池副会長、理事の桑原先生、追川先生等と共に、
一、成田看護高等専修学校の新築施工工事完成の件

一、印籠香取山武三郎医師会で成田空港の航空機対策協議設立の件

がり、藤倉先生はこの仕事は地元医師会長が適任であり協力すべきであると、力強い発言があり、現在もその路線が続いて居ます。

県医師会に戦後しばらくして、各医師会との野球試合がありました。

本チャンは先生と長谷川操祐先生のみでしたが、先生の守備と打撃のファインプレイがある度、私どもがヤンヤと拍手すると、右手を高々とあげて答えてくれました。

ゴルフコンペには、石原、長谷川、内川、小倉、橋、鈴木先生等々、多士多彩の方々の笑いがいつもありました。

先生は宴会の席などで新入会員が入ってくるとすぐ上の方に席を作ってやり、渡辺義男先生とのお酌のやりとりで、酔いが充分に醒って来ると、秩父長瀬岩畑と静かに口ずさんで居りました。

私にはあの大戦中、颯風吹く中国大陸で若くして陸軍軍医大尉の要職にあり、多数の部下の生活への思いやり、また中国の人々に温かい配慮等、遠くなった日々を懐かしく思い出す様でした。

本年2月28日、私は千葉大学医学部の四金会に出席致しました。その折り、藤倉先生が昭和25年まで博士論文研究のため熱心にお通いになった大学の長い連絡道路は、先生、春一番の風の中で、懐かしい桜並木の桜の蕾はまだまだ硬く、春爛漫がまだ待遠しい日でした。

さて先生最後のお別れを申し上げなければなりません。

只今、先生最愛の奥様を中心に、お子さまご家族の方々が深い悲しみの中にお集まりになって居ります。

また先生日頃御業に當たる方々のお嘆きも、察するにあたりあるものがございます。

今日、先生の御人徳をお慕いする方々が、沼山お集まりなさって居ります。

私はここに謳んで先生の御霊前に、医師会を代表して感謝と敬意を表してみ、お別れの言葉と致します。

どうか蒼天雲霧なる処、お休み下さい。

藤倉静男先生、長年にわたり本当に有難うございました。

平成13年3月3日
母を偲ぶ

杉山トミ子長女
柴眼科
柴 迪 子

故 杉山トミ子先生

母が逝った。享年90歳であった。83歳で退いて1年程は元気にしていたが、それ以降は、病の連続であった。脳梗塞、大腿骨頚部骨折、肺炎、そして脳梗塞と次第に弱ってきていた。そして3ヶ月前に意識を失った。約7年、母との付き合いだった。しかし今は良い時代であって、人様の手を借り、肩を張ることもなく、辛い事は無かったと言えば嘘になるが、笑顔で母と過ごすことが出来た。感謝以外の何者でもない。

しかし杉山トミ子は、私の母であるだけでなかったのである。彼女の死が突然であったため、私は、お世話になったたくさんの人々への連絡を怠った。彼女は長いこと四街道に根を下ろし医業に携わってきた医者であった。たくさんの人々の胸の中に彼女は活きていたのである。お手紙を頂き、電話を頂き、そのかたがたの記憶の中の母の有りようを知った。そこには私の知らない母がいた。

老いてからの母の心の願いをどこに、桜井先生ご夫妻との交流がある。季節の折々に美しい字を手紙を頂きとても喜んでいた。母の計報をお知らせすると直ぐに書簡の美しいお手紙を頂いた。元気で関達な時代の母の事を記憶に留めていて下さっている事を知った。母、苦、患者でいらっしゃった方で、その後もお付き合い頂いていた方は、電話の向こうで、着られていってはみません、と幾度もおっしゃられた。申し訳ないのは、私の方である。多くの人々に愛して頂いた人を、ただ自分の母としてだけ扱い、彼女の周囲を見ると余裕がなかったのか。でもその結果、母の病、麻痺で体躯れた母ではなく、元気で美しかった母の姿を記憶に留めて頂ける事になって、少し、悔しきしているのである。

母は、医業に携わる事を誇りにしていた。意識を失う少し前迄、もう一度、白衣を着たと云い、と何度も言っていった。遺影は、仕事を退く少し前私が撮り、大切にしていた白衣姿の写真であった。長い、ただ生活を送っていたにも拘わらずたくさんの医師会の先生方や友人に見送られて、母は、花々に囲まれ静かに美しく眠っていた。

母、杉山トミ子への積年のご厚情に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成12年9月
随想三題

不得要領

院長歴も30年になり、引退に備えて、自分のことは自分で言うよう心がけている。

まず自宅の送迎を辞退し、朝家を出て1時間半かけて電車で出動にしたが、駅売機で刻符を買う段になりました。1日から問題が生じた。社員あるいは駅より料金を入れる穴の形や位置がまちまちである。とりあえず千円札を差し入れたが何度やっても戻ってきてしまう（まだ原因不明）。500円硬貨も同様だったが、この方は同様の外国コインの不正使用対策で削り中止と理解できた。結果100円玉を2つ入れて刻符を買ったが、この混乱で時間の予定が狂ってしまった。次日に回数券を買うため1万円札を入れたらやはり受け付けない。色試してもだめ、5千円札でも同じだった。よく見たら千円札挿入口と書いてあり、そこである機械ではそれ以上の紙幣が使えない。結果回数券は買えなかった。

都営地下鉄の回数券は料金が同じなら方向は問わずに使えるが、京成電車は途中で都営地下鉄と別れるため、駅名が合わないと折り出す駅からの差額を計る。正しく買うためにには、運賃の家が並んでいるプラスチックの蓋を上げ、その下にある駅名を押すという難しい問題が待っているのだ。Ｔカードは都営と営団地下鉄と共通で、両者間の移動時間が30分以内なら乗り継ぎが安くなる（10月14日から近郊新線に拡大された）。残高が最低区間以下になると自動改札を通れないが、清算機では使えるなど複雑だ。最近ごく一部の駅では自動改札に清算機能が追加された。そこでとくに、バスの共通カードは東京都以外の近県でも通用し、残りが半端になっても次の新しいカードとつなげて使える。しかしカード挿入口の位置が正面または左あるいは右側と一定せず、右利きの人には使いにくいことが多い。

このように、折角の文明の利器も老人がな
じむまでには相当の時間がかかり、提供側独自の使用方式が多くなかなか要領を掴めない。また、一見不利そうな道具や制度でも、従来の習慣から抜け出るの大変で急に変わると戸惑うことになる。しかもこれが一国の制度ともなると、生涯設計まで変えなければならなくなり、国民にとっては重大問題である。

今まで、おんぶにだっこだった日本の医療制度が、極端なケチケチ作戦で大きく変わりつつあるが、これも時間をかけてやってもらわないと国民は当惑するばかりである。

介護保険が始まっても、今まで通り病院へ行けば何とかなると思っている人も少なくない。新医療・介護体制について、いくら説いたって正しい受け止め方はしてくれない。

すでに法案が成立し国民に納得させておいてから、65歳以上の保険料を土壌場になって半年無料・1年半額にした。健康法改正を廃案にして2号被保険者保険料の医療保険上乗せ徴収が混乱したり、訪問介護の料金体系を中途で乱粋して業者を尻込みさせたり、一旦家族給付は行わないと決めたのに一部復活したりする。その他懸案の医療改革が次々と骨抜きや先送りになっているのも、全てが総選挙対策といえるだろう。総選挙は議員を減らしつつも与党が制したが、果して政府や官僚が胸をなで下ろせただろうか。それとも来年夏の参院選までは同じことの繰り返しなのでだろうか。

話は戻るが、前払いのようにＴカードやイオニックカードには割引がなく、パス共通カードやオレンジカードにはあるのはなぜ？コンピュータなのに土曜日は銀行の通帳記入ができないのはなぜ？ついでに、予定納税に延滞料がつくのはなぜ？介護保険は地方分権のモデルなので国の場当たり的指導で現場が困るのはなぜ？大病院を治す是正するといいながら、診療所より病院の料金が多いのはなぜ？いらしいと説明されても、納得できないことが多く、よろず不得要領な世の中である。

ある写真展

「癒しのアート」という言葉が使われたて長い。私の病院でも、色々な絵画や書を壁に掲げて患者さんに安らぎを提供している。ある時には、「昼下がりの音楽会」と名づけて国立音楽大学出身のポランティアによるピアノ演奏会を開催し、車いすのお年寄りなど多くの患者さんに喜んでいただいた。さらに、ヒーリングアートで知られるクミコ・クリスフさんが招いて、ピアノの演奏つき「癒しの講演会」を催し、また彼女のデザイナーをいたエプロンを、食事のお世話をする時看護婦さんに着て讓他們っている。

日本医大の北総病院には、開院当初から多くの絵画が展示しており好評であった。

I氏は、肺ガンで同病院に入院し困難な手術に耐え、後に声帯の半分が働かず1年半話をすることも出来なかったが、大変な努力の末にガムを噛みながら話すことによく成功した。
こうして病を克服した彼は、趣味の写真を生かして、療養中の人々の心を癒し、闘病への意欲をかきたてたいという希望を持っていった。北総病院の院長先生がこれに共鳴され、多くの写真を院内に提示することができ、それがまた1氏自身の心の支えともなってきた。

彼を支えるボランティアを通じて、地元の私の病院にも写真を掲示したいと申し出られた。私も二つ返事で引き受け、ホールの目抜きの場所を提供し、次第に写真の数も増え、季節による入れ替えもあり、患者さんの心を慰め、病院を訪れる人々の話題にもなってきた。

1氏の数々の風景写真は、昨年秋モスクワで開かれたロシア政府教育省主催の作品展「自然の心」で「太陽の光と被写体のやさしさが見るものの心を和らげる」と多くの見学者に感動を与えられたもので、さらに「病んでいる心を癒し、熱き想いが体中に駆けめぐり、心の青春を感じさせる」とも評されている。

私も、もっと多くの人々にこの写真を見て欲しくなり、市の美術館での展示を思いついた。市長さんにこの希望を伝えたところ、幸い市の美術館長に意向を通してくれた。

絵画と違って写真的扱いには問題があったが、館長の計らいで美術館のロビーに展示するという形で40日近い長期の写真展が実現した。それぞれに自作の詩を添えた、美しい写真の数々に多くの人々が魅せられ、大評判を呼んで、何と4,133人という熱烈な募集を達成したのである。たまたま1,000人目の入館者は難病の患者さんだったが、「かんは近代医学で治るからまだ幸せですね」と言って、感動の涙を流してくれたという。

写真展のオープニングセレモニーで、去来する想いに男泣きする1氏と、涙の如く常に寄り添う奥様の姿に心を打たれた。美術館長も、写真を通じて市民の輪を結ぶことができたと大変喜んでくれた。今春も恒例の園長講話の中で、この話を職員に伝えておいた。

「放題」論議

元来、どちらかといえば無制限な感じで、やり放題、とり放題、したい放題など、〇〇放題という言い回しが色々あった。ところが昨今では、食べ放題、飲み放題、携帯電話やインターネットの使い放題など、利用者の満足感を極める一方、実は定額制・包括性を売り物にしているのが流行している。その他、1,000円マッサージ、1,000円カットなど10〜15分を1コースとして客を呼ぶものも増えており、時間による定額制も言える。

これらは、制限付きであるが故に事業として採算がとれているのであろう。

わが国では、昭和36年の国民皆保険以来、医療へのアクセス、安価、制限の少なさなど、殊に昭和47年の老人医療無料化以降、国民の医療への依存を助長する一方であった。

つまり、保険証1枚で、いつでも、どこでも、好きな医療機関で診療を受けられ、これほどほとんど制限なしで、医療機関への「かかぶり放題」なのであった。
しかし、政府は高齢者の増加、医学の進歩などによる医療費の高騰に目を上げ、国民医療費の抑制に本腰を入れるようになった。そこで登場してきたのが様々な形の定額制・包括性であるが、これは国民の満足感とは程遠いものである。

大人気の小泉内閣も医療費抑制を念んでおりが、長年に医療を受けやすくしておいて、ここへきて医療費が高まるからといって、総枠で高齢者の医療費を抑制するのは納得できない。

医療を受ける側の大半は、今後もっと負担で良質の医療を従来通り受けられると思っていている。高齢者の過剰受診を制限したいのなら、はっきりと国民に説明し、また節約ムードのもとでは、医療の受け方にも制限があることを理解させてほしいものである。

医療の質向上、医療の効率化の美辞麗句と呼ばれるにもかかわらず、もはや合理化の余裕がない病院に追い打ちをかけ、医療費抑制で生じた不足分を負担させるとなどとならない。原価割れが続いて、人間にも物的にも十分なサービスは出不来なくなるのは当然である。

アメリカの民間保険によるマネージメントケアも行い過ぎに気がつき改善しつつあるという。

わが国の健康保険にも、制限があることをわかりやすく指導すること、使い方に特色ある保険を編み出すことも必要かと思う。例えば病気の種類、時間、薬価、入院・外来の別、受診や入院の回数、食事、部屋代で差をつけ、一定の免責を設けるなどである。

昨年始まった介護保険は、正に制限つきで、決して介護の「受け放題」はいかないので、ずるずるの自己負担からして、従来の福祉の意味にはなじめないため、ホームヘルパーの利用が伸びず、業者が撤退が続き、社会福祉法人でさえ縮小や廃止を考えている。

最近、わが病院のMRSAが減ってきたので、感染防止委員会の成果かなと思ったら、実は大病院からの転送を受ける余裕がなくなったりと分かった。入所施設に空きがなく、高齢の要介護者が療養型病棟に滞り、この2ヶ月で1件も入れないという異常事である。これでは大病院から退院を追られている長期療養者の行き先がないことになる。

病院に受け入れる余地が少なく、最近は要治療の病人が老健施設や特養ホームに入れてくる。そして施設の高齢者が急性疾患になっても、大病院は受けてくれず、関連病院のないところでは、施設で見殺しということにもなりかねない。かくして、高齢者は刻々と医療から遠のいて行く。少し前まで世界に冠たる経済大国といわれたわが国で、高齢者だけが戦時中に戻って、「はがりません死ぬ（？）までは！」では困るのである。

さてこんなことを並べ立てると、それこそ「いいたい放題」といわれるのだろうか。
老害を戒む

私は、この7月27日で満73歳となってしまった。私の青少年時代は、人生が50年といった時代だ。又、戦争中、特攻隊で出陣した若人達は、20歳その年の年齢で、敵艦船がて突進し、真言者としている。何と現時代とは隔世の観がある。

抜けて、一寸古い話になってしまったが、日本最古の某デパートの元会長は、90歳過ぎても、強欲のとどまる所を知らず、欲の皮をつつぶり続け、飽くなき強欲がこうして、余りにも無計画に広げすぎて、私物化したデパートをつぶしてしまい、現在、被告の身であまり無罪を主張し続けているという。40数年の長い間居ずわり続け全国に支店を作り、そのトップにのし上がり絶大なる権力を握り、悪の限りをつくした結果が、会社の倒産であり、それでも尚、年間数億円という、庶民には想像もつかない程の多額の報酬を、要求して居ったというのだから、呆れ果てて物が云えない。あの世の地獄まで、背負って持っていくつもりなのか、誠にみっともない話だ。

日本は、この狭い国に、1億2000万から3000万の人間が、ひしめきあって住んで居る。現在、人気絶好調の小泉純一郎総理は、昭和17年1月8日生まれの午年だ。時代は正に、昭和20年生まれの時代に入っている。イギリスのプレアー首相も、ロシアのプーチンさんも、40代後半の若い年代であり、小泉総理は、この2人より10歳位年上だ。この様に世界中の指導者達が非常に若返って居るのだから我が国の指導者も、ぐっと若返らなければ、世界的の流れについていけない。

そこで、人間70歳も過ぎたら、余り出しゃばらず、過去の業績をふりかざさず、謙虚な気持ちをしっかり抱きしめて、若き亜途有望な人々を育成する度をもつ事が、現在、非的な窮地に立たされて居る日本を、立てなおす唯一の道であろうかと思う昨今である。

小泉総理は、今迄のマンネリ化した旧態依
然とした政治態勢を、ガラリと変え、聖域な
き構造改革の断行を、打ち出した日本の救世
主である。その実現を、一日も早く、強く、
強く望むものである。

小沢さん、改革日本の救世主。

平成13年8月18日（成田市）
今回の参議院選挙を振り返って

桑 原 久

小泉人気に乗って、自民党から出た候補者は地方区でも全国区でも票をのばして当選し、自民党は勝利した。医師会の推薦をする武見敬三氏も見事当選した。（全国区）

選挙戦が始まるや、日本医師連盟からの指示で、講演会の名簿作り、講演会出席者、患者さんへのお願いで、我々が良く奨励した。来る患者さんには一人残らず、2度も3度も、しっかりお願いした。患者さんとの信頼関係が良かったのか、どの患者さんも快く支援投票を約束してくれた（実際はどうか分からない）。当院の職員は私も含めて僅か3人だが、その家族も含めると13票である。これは確かである。あとはどの位患者さんが票を入れてくれるかである。

開票の結果が30日知らされた。千葉県医師連盟印旛支部長の追川先生からのFAXによれば、栄町は比例区有効投票数10,312、武見氏得票数86（0.83％）、A1会員数5であるから、医師1人辺り17.2票集めたことになる。

日本医師連盟の目標の1人20票には少々及ばなかったが、郡内他市町村の1～6票に比べればダントツである。

「よくやった、よくやった」と自負するものである。日本医師連盟からのFAXを家族や従業員にも見せて、共に喜んだ。受付窓口でよく協力してくれたからである。選挙は水ものである。当初の私の予想では栄町で150から200票とみていたのである……。

さて、実際に投票してくれた患者には、これで借りが出来てしまったわけである。借りを返す意味ではないが、今後もこれまで以上に患者サービスに専念するしかないだろう。

（H13.7.31 栄町）

第19回参議院通常選挙結果

<table>
<thead>
<tr>
<th>市町村</th>
<th>日医A1会員数</th>
<th>武見敬三得票数</th>
<th>日医A1会員1人当たり</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>佐倉市</td>
<td>77</td>
<td>210</td>
<td>2.73</td>
</tr>
<tr>
<td>佐市</td>
<td>47</td>
<td>221</td>
<td>4.70</td>
</tr>
<tr>
<td>四街町</td>
<td>33</td>
<td>90</td>
<td>1.73</td>
</tr>
<tr>
<td>八街市</td>
<td>18</td>
<td>56</td>
<td>3.11</td>
</tr>
<tr>
<td>酒々井町</td>
<td>8</td>
<td>11</td>
<td>1.38</td>
</tr>
<tr>
<td>高里町</td>
<td>18</td>
<td>28</td>
<td>1.56</td>
</tr>
<tr>
<td>印旛村</td>
<td>3</td>
<td>20</td>
<td>6.67</td>
</tr>
<tr>
<td>印西市</td>
<td>22</td>
<td>55</td>
<td>2.50</td>
</tr>
<tr>
<td>本横村</td>
<td>3</td>
<td>7</td>
<td>2.33</td>
</tr>
<tr>
<td>白井市</td>
<td>13</td>
<td>32</td>
<td>2.46</td>
</tr>
<tr>
<td>栄町</td>
<td>5</td>
<td>86</td>
<td>17.20</td>
</tr>
<tr>
<td>小計</td>
<td>247</td>
<td>816</td>
<td>3.30</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：日医A1会員数（老齢・疾病による会費免除会員を除く）は、2001.7.20現在の所属する医療機関所在地を基準に算出しています。
この度、印旛市郡医師会応援担当の長谷川隆先生より印旛市郡医師会報の寄稿依頼がありましたのでお受けすることに致しました。

さて、私が東邦大学佐倉病院開設準備室副院長予定者として、建設委員会において選任されたのは、昭和63年12月23日のことでした。

皆様ご存知の如く東邦大学佐倉病院は、昭和62年11月4日に佐倉市総合病院誘致促進協議会が、市民有権者8万6千人の64％にあたる5万5千人が署名した署名薄を添えた総合病院誘致の陳情書を佐倉市長および佐倉市議会に提出したことより話が発展しました。その後千葉県議会において、千葉県地域医療計画の審議が紛糾したり、印旛市郡医師会の佐倉地区が反対したりして紆余曲折ありました。が、当時の菊間市長の大変なご尽力で、佐倉市議会医療対策特別委員会が東邦大学病院の誘致決定を採択したと聞いております。

昭和63年3月18日には東邦大学と佐倉市との間に基本協定が締結されました。主なる内容は、佐倉市が新地の土地、及びその土地まで上下水道を引くことを提供し、東邦大学が病院、看護宿舍等付属設備の建設と教職員を配置する、病院の運営については佐倉市は関与しない、というものでした。当時、東邦大学佐倉病院が所属した印旛市郡医師会は当地域が大変広く、24時間救急を受けられる総合病院は成田日赤病院と千葉海浜病院だけだったと記憶しております。従って、佐倉市の下志津に24時間救急を受けられる大学付属病院が開院するということに対して、印旛市郡医師会の佐倉地区的先生方以外は比較的寛容であったと感じられました。しかしながら地元佐倉地区の先生方は非常に深刻に受け止め、神経質になっていたと思います。

すぐに地元医師会と千葉大学医学部に東邦大学対策委員会が作られ、印旛市郡医師会から、看護婦・士をはじめ医療関係職員の採用に関してはいわゆる引き抜きは断じてなら
ないと強い申し入れがあり、当時の入江病院長と私、阿部事務部長、鈴木看護部長とが一緒に関係各方面に随分と頭を下げて歩いたことがありました。実際は旭市にある病院を退職していた看護婦2名、鴨川にある病院から2名の4名が東邦大学佐倉病院に就職したというのが真相です。看護婦・士のほとんどは東邦大学をはじめ、千葉県に住んでいるが東京の病院に勤めている又は勤めていた人たちでした。

昭和63年3月に印旛郡医師会長選挙が行われ、柏谷先生が新会長に選出されました。柏谷会長は東邦大学佐倉病院が開院するまで地元医師会（佐倉地区）と東邦大学佐倉病院との東邦大学佐倉病院対策委員会（開院後、東邦大学佐倉病院連絡協議会と改称）の間に入って、大変な苦労をして、地元医師会（佐倉地区）より東邦大学への要望事項や印旛郡医師会への要望事項をまとめられたと拝察し、大変感謝しております。一方、佐倉市側も地元医師会、東邦大学の関係を大変懸念され、平成元年5月、7月に佐倉市議会の主催により、佐倉市、東邦大学、地元医師会の3者会合が開催され、両者の間の宥和を図っていただきました。そのおかげで、同年9月には地元医師会と東邦大学との連絡協議会が開催され、双方の意見交換が行われました。同年12月には非公式ながら忘年会を兼ねた懇談会が開かれたと記憶しております。

平成3年9月2日、東邦大学佐倉病院は開院いたしましたが、医師会の先生方を院方式に出席いただき、それまで何度か開催された連絡協議会を通じて相互理解が進んでいたためかなり友好的だったと感じられました。私は当時、地区医師会と病院は共存できる、そのためには病診連携、病病連携を目的にし、医療連携室を作り情報交換をするべきと主張しておりましたが、10年経過した現在、大変うまく機能していると思っております。

以上、開院時の苦労話を含めて書かせて頂きました。

なお私は平成13年3月末をもって32年間勤務した東邦大学を退職致しました。4月からは日本私立学校振興・共済事業団が事業主となって、平成14年4月1日の東京都江戸川区臨海町に開院する予定の東京臨海病院（400床＋ドッグ）開設準備室室長（病院長予定者）として、西葛西にある開設準備室に勤務しております。

平成13年5月末には江戸川区医師会の先生方との第1回連絡協議会が開催され、病院の説明と医師会側の要望をお聞きいたしました。10年前の印旛郡医師会、佐倉地区の先生方とほぼ同じ様な内容をお聞きして、昔を懐かしく思いました。

東邦大学佐倉病院在籍中は大変お世話になり、ありがとうございました。また今後ともご指導ご交誼の程よろしくお願い致します。

平成13年6月吉日
今度は、印旛郡医師会に入会させて頂いております。大変光栄に思います。

私事で恐縮ですが、私は昭和34年に東京女子医大を卒業いたしまして同大学眼科学教室に入室。その後昭和42年に出産と同時に診療所を中断し家庭に入り子育てに専念しますこと18年間！ よくまあこの年月！ その後また眼科にカムバックしましたような次第でございます。

平成12年11月に成田眼科クリニックを開設いたしました。この地域の患者さんはくれなかったよい人ばかりなので助かっております。最近は、コンタクトレンズ装用者人口も増え又低年齢化も進んでおります。これからは、地域の方々の目の安全性について努力して行きたいと思っております。

医師会の先生方にも御迷惑をおかけすることとと思いますが、御指導下さいますようお願い申し上げます。
はじめまして

むらまつクリニック

村 松 信 彦

辰年生まれの49才です。遠回りが人一倍得意で、今日までずっと不器用な人生を歩んで参りました。歯医者時代からは24年、医者になってからは早18年の月日が経とうとしています。また開業医としては、通算8年目を迎えようとしています。今般、ご縁があってご当地にクリニック（呼吸器科・内科むらまつクリニック）を移設致しました。自己診断ですが、開業医という職業は正直いって性格的に一番不向きな職業と思っています。また本来パソコンなども大嫌いですが、今のクリニックでは電子カルテルなる代物を導入した手前、毎日戦術苦闘の日々が続いています。（ご興味のある先生には詳細にお話を致します）

もっと純粋に自分の本当にやりたいことをやれば、こんな幸せはないのですが、人生思うようにはいかないものです。

さてご当地では、最低限次の点だけは大切にしたいと思っております。
①病診連携・診診連携 ②情報公開 ③呼
吸器疾患（特に気管支喘息）の診断と治療の徹底 ④東洋医学の普及 ⑤禁煙外来の認知
到底私一人の手では達成できないテーマですので、医師会の先生方におかれましてはよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申しあげます。次に簡単に略歴を記述してご挨拶といたします。

［略歴］
昭和27年東京生まれ
その後父の仕事の関係で千葉市に転居
19歳まで居住
昭和45年県立千葉高卒業
昭和52年日本歯科大卒業
昭和58年日大医学部卒業
昭和62年日大大学院卒業
所属の医局は日大一内（呼吸器班）
昭和62年日本歯科大講師
平成5年診療所開設（横浜市）
平成13年5月成田市に移転
新入会員紹介

空手道からP.C.まで

大久保医院
大久保 辰 雄

初めて、栃町の大久保医院で働き一年一度る大久保辰雄といいます。研修医時代より薬
診医大、第1外科教室（現主任教授：山崎
洋次）で診療させていただきましたが、最近実家
の仕事を手伝うようになり、千葉県医師会・
印旛郡医師会に入会させていただきました。
以前パートで藤立病院にお世話になっていたこともあります。大学での専門は肝胆膵
外科で、研究は大学院時代より肺気腫・肺
フィン氏の移植など、細胞移植を主にテーマと
してきました。

特技という程ではありませんが、大学では
医局のコンピュータの管理を任されており、
パソコンはかなり使える方だと思っています。
徐々に診療に役立ててきたいと考えています。
趣味は、子供の頃からぼっチャリしていま
して、もともと運動は苦手なのですが、大学
時代からは空手をやっており、今も時々道場
に通っています。最近では、心掛けて外
に出るべく、大型の二輪免許を取ってバイク
を乗り回しています（留学で、車をもって金
を使い果たしてしまったこともありました）。

小学校まで親しい故郷に帰り医者として
近所の人達に顔を合わせるのは初めて少々照
れ臭くもありましたが、最近では実家の外来
の日を楽しみにしています。開業医の仕事は
大学とはだいぶ違いますが、一関業医として
可能な最良の診療は何かと考えながら、もの
の見方を訓練しています。また父、尚男は患
者さんに膝が低くまったく倹ぶったところが
ありませんでしたが、このことは自分が子供
の頃から尊敬していた点でもあります。医師
を志すに当たって、医学に関しては素人の患
者さんを相手に頭ごなし診療に陥らないよ
うに自分のつねつねそのように心掛けてきま
したが、実際に父と一緒に診療してみると、
内面からにじみ出るものはまだ全然かわからないよ
うです。さらに精進して、父の診療スタイルを大久保医院の伝統にして受け継いでい
きたいと思っています。大学院から留学やら
で臨床を離れていた期間も長く、大きな手術
を覚える機会には恵まれませんでしたが、当
面の目標としては、老弱の手に代わって外来
の検査・小外科手術等を主に受け持ち盛りだ
けていこうと考えています。諸先輩の先生方
とも手を取り合って、地域の健康維持増進を
すすめ、かゆいところに手が届くようなコン
ビニエンスな医院にしたいと思いますのでど
うぞよろしくお願いします。
地域に密着した医療を

中原医院
中原正男

この度は、印旛市郡医師会に入会させて頂きました。誠にありがとうございます。
平成13年4月に、富里町立倉にて、二宮医院の二宮先生の跡で、開業させて頂きました。
昭和56年に浜松医科大学を卒業し、泌尿器科教室に入局し、開業前は、千葉徳洲会病院に
勤務しておりました。泌尿器科一般と透析を
みておりました。

緒あって、富里町にて仕事をさせて頂くこと
とになりました。この地で、もうすぐ3ヶ月
になりますが、人情豊かで自然に恵まれており
り、大変気にいっております。

今後は、当地にて地域に密着した医療を、
実践させて頂きたいと思います。近隣の医師
会の先生方には、色々と御迷惑をおかけする
ことが、多少あるかと思いますが、御指導の
程をお願い致します。
昭和52年千葉大学医学部卒業の今井克己と
もうします。このたび、平成12年4月から印
繋市郡医師会に入会させていただきましたの
で、自己紹介をかねて当院のアピールをさせ
ていただきます。

職歴は、初期研修終了後、昭和55年から平
成元年まで千葉大学整形外科に在籍し、その
間、昭和57年、当時日本において手の外科の
双璧であった新潟大学に、半年間国内留学し
ました。大学を辞した後は、平成13年3月ま
で千葉市立病院に勤務し、平成13年4月より
佐倉整形外科にお世話になっています。

整形外科は運動器官を扱う臨床分野で
すが、私のspecialityは「手の外科」です。卒業前
より神経組織に興味があり、整形外科で扱う
脊髄と末梢神経を学んでいくうちに、究極の
機能外科であり、かつ神経の重要度の高い
「手」に帰着いたしました。

ヒトにとって上肢の末端に存在する「手」は、四足から二足歩行へと進化した過程で、
人類のみが獲得した器官であります。その結
果、手を用いて巧みに道具を操ることによっ
て大脳が発達しました。まさに文化・文明を
作り上げた源であり、人間にとって極めて象
徴的なものといえましょう。

手の複雑な機能は、解剖学的に多様な組織
によって、繊細かつ緻密に作り上げられた構
造に負っています。手に障害をもたらす疾患
は、先天奇形から外傷、腫瘍、炎症と多岐に
渡り、治療にあたっては整形外科のみならず、
神経外科、脳の外科、（微小）血管外科、形
成外科などの総合的な知識が必須です。

難しい、と評される「手の外科」ですが、
極めてに、機能外科としての面白さも体
験できます。この奥深い分野を今後も続け、
地域医療に貢献していく所存ですので、お困
りの症例がありましたら、ぜひ当院にご相談
下さい。
素敵な佐倉で開業して

はじめまして。今回印旛郡医師会に入会させていただきました黒須悦樹と申します。この席をお借りして簡単ですが自己紹介させていただきます。
昭和31年生まれの埼玉県出身です。昭和58年島根医科大学卒業後東京女子医科大学整形外科に入局しました。静岡県立こども病院、救命救急センター、藤田台病院等の出張を経て今年3月京成佐倉駅前に開業させていただきました。佐倉市に住んで7年になりますが緑が多く自然と文化がうまく溶け込んだすばらしい街だと思います。お昼休みは1時間ほど散歩に出る事がありますが、佐倉城址公園、旧堀田邸、印旛沼などおすすめのコースが沢山あります。
開業して3ヶ月あまり、わからないことだらけですが医師会の諸先生方どうぞよろしくお願いいたします。
新人会員紹介

「オックスガーデン クリニック」
開設に際して

ゲットウェル会理事長
浦田 純 一

昨末5月に開設された「オックスガーデンクリニック」（所長 大久保医師（整形外科・消化器外科）は、かねて医療と介護及びリハビリと福祉の一体化を目指っていたゲットウェル会の事業の重要な一翼を担うものです。

その主な目的は介護老人保健施設「ウェルネス四街道」の入居者の方々の緊急時に24時間体制で即応できるということで、ご本人は勿論、ご家族の方も安心して頂けるというところですが、併せて高齢者を対象として地域医療や健康開発のために役に立つことができればと念願しております。したがって高齢者を対象とした循環器、内科、整形外科、リハビリ科を主としています。

ゲットウェル会は訪問看護や在宅介護の事業も併せて運営しており、小生の宿願である「トータルヘルスケア」の実現に微力ながら努めたい所存ですので、諸先生方のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

浦田 純 一略歴
昭和18年9月 東京帝国大学医学部医学科卒業
23年4月 海軍軍医（短期現役）志願
23年9月 復員（海軍軍医大尉）
26年6月 福岡県二日市共立病院（内科）
27年5月 国立公衆衛生院正規医学科
27年3月 労働基準監督官（労働省）
30年6月 厚生技官（厚生省）
40年9月 保険局医療課長
42年10月 統計調査部長
45年6月 環境衛生局長
48年7月 退官
55年2月 労働保険審査会委員
平成元年2月
10年4月 医療法人社団ゲットウェル会、現在に至る

学位 医学士
医学博士 D.P.H.（英国）
賞罰 勲三等旭日中授章（平成元年）
風光明媚な当地に開業して

この度は、福岡市立医師会に入会させていただき、誠にありがとうございます。
平成13年5月に本態村でふじた皮膚科医院を開業させていただきました。
経歴は、平成元年に北里大学皮膚科学教室に入局。北里大学、北里研究所メディカルセンター病院で研修、その後大学で皮膚脈管疾患の研究をし、平成10年労働福祉事業団鹿島労災病院皮膚科に出向しました。鹿島労災病院勤務時代に地域医療の重要性を強く感じ、また、人情に厚く、風光明媚で自然の多く残る当地が大変気に入って今回、開業に至りました。

労力ではありますが、これから一歩、地域への貢献をさせていただければと考えております。今後、医師会の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、いろいろと教えていただければ幸いです。宜しくお願いいたします。
この度は姫路市郡医師会に入会させて頂きまして誠に有り難うございました。この場をお借りいたしまして、深く御礼申し上げます。

私は、平成4年に杏林大学医学部を卒業いたしまして、千葉大学麻酔科学教室に入局いたしました。大学病院を皮切りに、沼津市立病院、千葉県がんセンター、成田赤十字病院などで研鑽を積ませていただきました。そこでは、麻酔だけではなく、ペインクリニック、ターミナルケア、救急医療、在宅医療も担当させていただきました。こういった経験、特にペインクリニックを地域医療に生かせずいかと考えていたところ、志を同じくする当院の副院長と意気投合することとなり二人で八街市に開業する運びとなったわけです。

これからは、今まで培ってきた経験をもとに、微力ながら地域医療に少しでも貢献できるよう努力していく所存でおります。何分若輩者故、今後とも医師会諸先輩方の御指導御鞭撻を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。
医師会入会にあたり

ひじかいクリニック副院長
安部 充仁

この度は岡崎市医師会に入会させて頂きまして誠に有難うございました。この場をお借りいたしまして、深く御礼申し上げます。

私は、昭和63年に千葉大学医学部を卒業いたしまして、同年に同大学麻酔科学教室に入局いたしました。大学病院を皮切りに、千葉県がんセンター、成田赤十字病院、国保松戸市立病院、国保県西総合病院、国立がんセンター、下都賀総合病院などで研鑽を積ませていただきました。そこでは、麻醉だけではなく、ベインクリニック、ターミナルケア、救急医療、在宅医療も担当させていただきました。こういった経験、特にベインクリニックを地域医療に生かせないかと考えていたところ、志を同じくする当院の院長と意气投合するところとなり二人で八街市に開業する運びとなったわけです。

これからは、今まで培ってきた経験をもとに、微力ながら地域医療に少しでも貢献できるよう努力していく所存でございます。何分若輩者故、今後とも医師会諸先輩方の御指導御鞭撻を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。
平成12年度佐倉地区医師会ゴルフ大会

平成12年9月24日（日曜日）、成田スプリングスC.C.にて開催されました。朝のうちは曇りで雨が心配される天気でしたが、午後からは晴れ間もあって、まあまあのゴルフ日和でした。東邦大9人、医師会5人の参加で東邦大の医局コンペに医師会が参加したような形になってしまいましたが、仕事を離れて交流を深めることができたと思います。

今回は11年度大会での小屋先生のご提案もあって、新ベリヤでの競技としました。

成績は以下の通りで、幹事が勝手に優勝してしまいました。

<table>
<thead>
<tr>
<th>順位</th>
<th>なまえ</th>
<th>OUT</th>
<th>IN</th>
<th>GROSS</th>
<th>HD</th>
<th>NET</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>兼坂　俊章</td>
<td>40</td>
<td>41</td>
<td>81</td>
<td>8.4</td>
<td>72.6</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>山口　宗之</td>
<td>51</td>
<td>49</td>
<td>100</td>
<td>26.4</td>
<td>73.6</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>岩崎　裕</td>
<td>47</td>
<td>46</td>
<td>93</td>
<td>19.2</td>
<td>73.8</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>加藤　良二</td>
<td>47</td>
<td>50</td>
<td>97</td>
<td>22.8</td>
<td>74.2</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>遠山　正博</td>
<td>49</td>
<td>54</td>
<td>103</td>
<td>22.8</td>
<td>74.5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>田井　宜人</td>
<td>50</td>
<td>53</td>
<td>103</td>
<td>27.6</td>
<td>75.4</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>田上　恵</td>
<td>42</td>
<td>43</td>
<td>85</td>
<td>8.4</td>
<td>76.6</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>古部　康</td>
<td>51</td>
<td>55</td>
<td>106</td>
<td>27.6</td>
<td>78.4</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>佐藤　泰男</td>
<td>48</td>
<td>50</td>
<td>98</td>
<td>19.2</td>
<td>78.8</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>朴　英進</td>
<td>47</td>
<td>50</td>
<td>97</td>
<td>18.0</td>
<td>79.0</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>蟹田　啓之</td>
<td>51</td>
<td>57</td>
<td>108</td>
<td>26.4</td>
<td>81.6</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>上田　哲郎</td>
<td>51</td>
<td>55</td>
<td>106</td>
<td>24.0</td>
<td>82.0</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>志津　雄一郎</td>
<td>50</td>
<td>52</td>
<td>102</td>
<td>19.2</td>
<td>82.8</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>若林　己代次</td>
<td>52</td>
<td>51</td>
<td>103</td>
<td>19.2</td>
<td>83.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（幹事：兼坂）
雲のかたまりあちらこちらに点在せるも、爽やかな秋の青空雲間より顔をのぞかせ、我々を歓迎しの感ありて気を浮き浮きとスタートせり。ナイスショットが歓声しきり、取らぬ皮算用胸に秘め心づみ、我が身の幸せを感じつつハーフも終らんとせし時、我が目を疑がわしむるごとく一気にかき収り、稲妻一閃雷鳴我が腹をずしんとえぐる感じありき。あまつさえ大粒の雨さえ落ちきたて到達の体にてクラブハウスへ引き上げ、様子をみるも雷には勝てず残念ながらコンペを中止せり。

船橋C.C.の貴賛室にて愛さ晴らしに酒酔み交わし、次回の好天気を祈りつつ解散せり。成績は未発表とする。

尚参加者は写真の如し。右から三人目お顔半分の方は日医大の小林士郎先生です。大変失礼しました。

（大久保 記）
恒例の釣り同好会秋季大会を10月1日（日）に開催致しました。奈良会長以下渡辺・池・佐藤（強）・追川・小林（富）・兼坂各先生を
小生が参加、岩漬薬品の青木・神保両氏に御献力いただきました。（内田先生は所用で欠席、小生三男の真人も参加させていただきます。）

前日9月30日（土）竹岡赤松船宿に集合。地の魚づくしの宴を持ちました。いつも乍ら
この魚料理は絶品であります。当日早朝は
やや風が強く雲もなかなかの早さで流れており
ましたので、30分程遅らせて6時の大船とな
りました。海上も風強く波も少々気になりました
が全員が松栄丸・紋三郎丸・大和丸の三
艘に分かれ、途中で鯖の活海老（サイマキ）
を積んで釣場に向いました。2〜3ヶ所釣場
を替えましたが当日さかかったのは岩井沖
の定置網廃りだった様です。今年は、春の大
会も数がかなり出ましたが、大きさも春より
一回り大きくなり釣り味もなかなかのもので
した。成績は小生9匹・追川7・奈良5・小
林5・佐藤3・兼坂3・池2・息子7と計41
匹。これに赤松船頭の2kgを越す大物を加え
て総数60匹位の近年にない大漁となりました。
当日は各先生共御家族と合併を打った
事と思われます。

新しく医師会員になった先生方で釣に興
味をお持ちの方は是非上記の会員に御連絡下
さいませお願い申し上げます。

（椎葉 記）
第65回佐倉地区医師会釣り同好会大会

“小さくとも鰤”の記

由緒ある佐倉地区医師会釣り同好会に入会させていただいてまだ数回ですが優勝させていただきました。今回は会の創設者の一である渡辺先生が昨年ご逝去され、又池先生がご都合で欠席されたため、少し寂しい会となったようです。

自分は釣れるものなら何でもいいほうですので、正統派鰤釣りにはかなりよく者で河豚を釣ったりしましたが、今回はたまたまマペテランの先生が釣れずに、私の所に極々小さいのが引っ掛かった為に優勝とあいなりました。本来なら逃がすべきだった事を後で知り、鰤釣りの奥深さを知られた次第です。腐らないうちに家族で食し、その旨さも味わいました。

（内田朝彦 記）
当日、平成13年4月8日はもう殆ど忘れかけていましたが、確かに桜の花びらの舞う快適な日で、言訳のきかない日でした。当番は佐倉地区で、幹事は兼坂先生、当日はお疲れ様でした。

場所は大栄カントリークラブ、日本庭園風の造作が随所に見られる丘陵コースでのんびりしたゴルフの出来るコース、十数年前に一度プレーした事があるクラブです。

同伴競技者は実力ナンバーワンの古谷章次先生——随所で参考になるショットやマナーを学びました。幹事の兼坂俊章先生——幹事は大変で大体スコアーは乱れることが多いので安定したゴルフでした。それと豪快なゴルフをする伊東真観先生の三人でした。

このコンペには、20年くらい前より参加し、8割ぐらいは出席して来ました。自分は元々波の多いゴルフをするので、最近はH.Dが上がり優勝は諦めていたのですが、新ペリアでは時々優勝する事があります。今回も12番のロングで4オーバーの9をたたき、これが隠しホールに入り、15番のロングでバーディーを取ったのが隠しホールに入らず等、幸運（？）に恵まれて、私よりもスコアーの良かった古谷先生親子より上に行ってしまいまし
た。しかし優勝できた最大の原因は自分が大だきた後も崩れずにフィニッシュ出来た
ことと思います。更にそれは他の同伴競技者が良いゴルフをしており気持ちの良い、リラックスしたゴルフが出来たためと感謝しています。今回新ペリア方式になった理由が、H.Dがはっきりしなくなった為の様ですので、これ私は私のせいかもしれません。前回私が幹事でしたので、申し送りの書類が不足していたのでしょうか（これは故意はではありません）。今後の目標は勿論、B.G.です。

平成13年8月14日（瓜生 記）
(隠しホール) 2, 4, 5, 6, 7, 9, 11, 12, 14, 16, 17, 18

<table>
<thead>
<tr>
<th>順位</th>
<th>競技者名</th>
<th>OUT</th>
<th>IN</th>
<th>GRS</th>
<th>HDCP</th>
<th>NET</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>瓜生 東一</td>
<td>43</td>
<td>40</td>
<td>83</td>
<td>12.0</td>
<td>71.0</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>古谷 章次</td>
<td>39</td>
<td>38</td>
<td>77</td>
<td>4.8</td>
<td>72.2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>王子 明</td>
<td>41</td>
<td>44</td>
<td>85</td>
<td>12.0</td>
<td>73.0</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>志津雄一郎</td>
<td>49</td>
<td>44</td>
<td>93</td>
<td>19.2</td>
<td>73.8</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>眞鍋 進</td>
<td>40</td>
<td>44</td>
<td>84</td>
<td>9.6</td>
<td>74.4</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>遠山正博</td>
<td>45</td>
<td>47</td>
<td>92</td>
<td>16.8</td>
<td>75.2</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>兼 坂 俊章</td>
<td>41</td>
<td>43</td>
<td>84</td>
<td>8.4</td>
<td>75.6</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>住吉 和夫</td>
<td>43</td>
<td>45</td>
<td>88</td>
<td>12.0</td>
<td>76.0</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>伊藤 眞真</td>
<td>41</td>
<td>47</td>
<td>88</td>
<td>12.0</td>
<td>76.0</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>石毛 俊行</td>
<td>46</td>
<td>44</td>
<td>88</td>
<td>10.8</td>
<td>77.2</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>市村 公道</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>90</td>
<td>12.0</td>
<td>78.0</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>中島 克巳</td>
<td>50</td>
<td>52</td>
<td>102</td>
<td>22.8</td>
<td>79.2</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>古谷 徹</td>
<td>39</td>
<td>42</td>
<td>81</td>
<td>1.2</td>
<td>79.8</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>田井 宜人</td>
<td>49</td>
<td>52</td>
<td>101</td>
<td>20.4</td>
<td>80.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第15回印西地区医師会
ゴルフコンペ

前回、平成12年10月のコンペは雷雨のため、ハーフにて中止の止む無きにいたり残念その極に達したり。今日は連日の晴天に恵まれはしたものの暑さにはほどほどにまいった天候でした。初参加にシングルプレイヤーである大木先生がゴルフはかくやるべしというお手本のような妙技を披露され印西医師会ゴルフまんざらでないと意を強くしました。又、肥田先生、岡庭先生、神吉先生の若さとרהしるプレイあり、或いは石橋先生のようにゴルフをこよなく愛する情熱あり、熱中症にもならずプレイを終えし、成績発表、懇親会に時の経つのも忘れコミュニケーションはかくして出来るものかと頼に何か熱きものの感触を禁じ得ませんでした。当医師会コンペは留守を守るご家族（奥様？）のために持ちされないほど商品あり、やっとのことで抱えもち家路にむく先生方を見送りました。

ゴルフって本当にいいものですね。

（大久保　記）
<table>
<thead>
<tr>
<th>氏名</th>
<th>OUT</th>
<th>IN</th>
<th>GROSS</th>
<th>HD</th>
<th>NET</th>
<th>備考</th>
<th>RANK</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>豊田成</td>
<td>47</td>
<td>49</td>
<td>96</td>
<td>22.8</td>
<td>73.2</td>
<td>優勝</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>神吉耕三</td>
<td>48</td>
<td>49</td>
<td>97</td>
<td>21.6</td>
<td>75.4</td>
<td>DC</td>
<td>準優勝</td>
</tr>
<tr>
<td>大木静夫</td>
<td>43</td>
<td>41</td>
<td>84</td>
<td>8.4</td>
<td>75.6</td>
<td>BG</td>
<td>3位</td>
</tr>
<tr>
<td>角原兼一郎</td>
<td>53</td>
<td>54</td>
<td>107</td>
<td>31.2</td>
<td>75.8</td>
<td></td>
<td>4位</td>
</tr>
<tr>
<td>岡庭信一</td>
<td>51</td>
<td>51</td>
<td>102</td>
<td>24.2</td>
<td>76.8</td>
<td>NP</td>
<td>5位</td>
</tr>
<tr>
<td>大久保鈴司</td>
<td>55</td>
<td>47</td>
<td>102</td>
<td>22.8</td>
<td>79.2</td>
<td></td>
<td>6位</td>
</tr>
<tr>
<td>小桂潔</td>
<td>57</td>
<td>62</td>
<td>119</td>
<td>36.0</td>
<td>83.0</td>
<td></td>
<td>7位</td>
</tr>
<tr>
<td>羽久岳克</td>
<td>54</td>
<td>65</td>
<td>119</td>
<td>32.4</td>
<td>86.6</td>
<td>NP</td>
<td>8位</td>
</tr>
<tr>
<td>豊田玲子</td>
<td>66</td>
<td>55</td>
<td>121</td>
<td>33.6</td>
<td>87.4</td>
<td></td>
<td>9位</td>
</tr>
<tr>
<td>肥田高嶺</td>
<td>56</td>
<td>60</td>
<td>116</td>
<td>25.2</td>
<td>90.8</td>
<td></td>
<td>10位</td>
</tr>
<tr>
<td>鈴木洋一</td>
<td>78</td>
<td>66</td>
<td>144</td>
<td>36.0</td>
<td>108.0</td>
<td>BB</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石橋仁子</td>
<td>85</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>BM</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
医療従事者の永年勤続者表彰

20年の者

<table>
<thead>
<tr>
<th>被表彰者氏名</th>
<th>勤務医療機関名称</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>近藤さつき</td>
<td>池医院</td>
</tr>
<tr>
<td>本澤葉留美</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>長竹哲弘</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>工藤伸一</td>
<td>工藤外科内科</td>
</tr>
<tr>
<td>成田澄江</td>
<td>工藤外科内科</td>
</tr>
<tr>
<td>中田好江</td>
<td>工藤外科内科</td>
</tr>
<tr>
<td>石井純子</td>
<td>佐倉中央病院</td>
</tr>
<tr>
<td>手塚萬里子</td>
<td>東山胃腸科外科医院</td>
</tr>
<tr>
<td>土田孝子</td>
<td>東山胃腸科外科医院</td>
</tr>
<tr>
<td>黒田輝子</td>
<td>成田病院</td>
</tr>
<tr>
<td>松原ふく子</td>
<td>成田病院</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>被表彰者氏名</th>
<th>勤務医療機関名称</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>眞鍋藍子</td>
<td>眞鍋医院</td>
</tr>
<tr>
<td>中島節子</td>
<td>瓜生小児科</td>
</tr>
<tr>
<td>楠千万子</td>
<td>下野医院</td>
</tr>
<tr>
<td>大塚悠子</td>
<td>板倉医院</td>
</tr>
<tr>
<td>小原修</td>
<td>八街総合病院</td>
</tr>
<tr>
<td>杉山喜代子</td>
<td>豊田脳神経外科</td>
</tr>
<tr>
<td>尾坐原十恵子</td>
<td>井出耳鼻咽喉科医院</td>
</tr>
<tr>
<td>深澤佐智</td>
<td>井出耳鼻咽喉科医院</td>
</tr>
<tr>
<td>塩井昌子</td>
<td>白井聖徳会病院</td>
</tr>
<tr>
<td>橋本紀子</td>
<td>白井聖徳会病院</td>
</tr>
<tr>
<td>山内光子</td>
<td>市村外科胃腸科医院</td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上22名

10年の者

<table>
<thead>
<tr>
<th>被表彰者氏名</th>
<th>勤務医療機関名称</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>西村小百合</td>
<td>池医院</td>
</tr>
<tr>
<td>深山春枝</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>土門鉉治</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>齊藤孝雄</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>三浦雪子</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>被表彰者氏名</th>
<th>勤務医療機関名称</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>中川政江</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>野崎咲子</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>芳賀幸一</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>松村二男</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
<tr>
<td>田村千佳子</td>
<td>佐倉厚生園</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 被表彰者氏名 | 勤務医療機関名
|--------------|----------------|
| 千葉 哲也    | 佐倉厚生園
| 滝 邦典子    | 佐倉厚生園
| 吉岡 愛子    | 佐倉厚生園
| 竹林 さとよ   | 佐倉ゆうゆうの里診療所
| 坂本 文子     | 佐倉ゆうゆうの里診療所
| 戸倉 俊枝     | 東山胃腸科外科医院
| 川嶋 直美     | エーカリ眼科医院
| 佐久間 洋子   | 黒田内科診療所
| 山田 みどり  | 塚田外科胃腸科医院
| 吉田 あや子   | 小児科川辺医院
| 青木 明子     | 真鍋医院
| 国谷 美知子   | 聖マリア記念病院
| 椎野 広子     | 藤立病院
| 山岸 よしき子 | 藤立病院
| 平野 豊子     | 成田病院
| 中野 和子     | 成田病院
| 飯田 晃子     | 成田病院
| 崎村 香織     | 成田病院
| 飯岡 静子     | 成田病院
| 酒井 英子     | 成田病院

| 被表彰者氏名 | 勤務医療機関名
|--------------|----------------|
| 山田 里津    | 二葉看護学院
| 藤井 顕       | 藤リハビリテーション学院
| 瓜生 恵子     | 潤生堂医院
| 佐々木 規之   | 大日病院
| 井戸川 環     | 大日病院
| 丸笠 一郎     | 大日病院
| 谷田駒 ヒロミ | 木戸りクリニック
| 鵜田 喜美子   | 八街総合病院
| 鈴木 澄恵     | 八街総合病院
| 寺内 智子     | 八街総合病院
| 宮川 裕子     | 八街総合病院
| 須田 とよ子   | 八街総合病院
| 赤崎 初子     | 八街総合病院
| 和田 博子     | 八街総合病院
| 相馬 せつ子   | 八街総合病院
| 加賀利 昭子   | 八街総合病院
| 小野 禮子     | 白井聖仁会病院
| 大塚 えつ子   | 白井聖仁会病院
| 小幡 くみ子   | 酒々井クリニック
| 太田 裕子     | 印旛市郡医師会

以上50名
定時総会報告

印医第13号
平成13年4月20日

会員各位

社団法人印旛市郡医師会
会長 追川孝雄

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平成13年3月24日（土）ホテル日光ウィンズ成田において、第63回社団法人印旛市郡医師会定時総会が開催されすべて原案通り承認されましたのでご報告致します。

1. 報告事項
① 日本医師会代議員会報告 追川孝雄
② 千葉県医師会代議員会報告 古谷章次
③ 千葉県医師連盟執行委員会報告 湯澤晃雄
④ 千葉県医師国保組合会報告 福田邦雄
⑤ 印旛市郡医師会会務報告 追川孝雄
⑥ 成田看護高等専修学校学事報告 黒田健昭
⑦ 印旛・香取地域産業保健センター活動報告 池克志

2. 議事
第1号議案 平成12年度会計現況報告 市 村 公 道
第2号議案 平成12年度積立金ならびに財産目録報告 市 村 公 道
第3号議案 平成13年度事業計画に関する件 追川孝雄
第4号議案 平成13年度予算案に関する件 市 村 公 道
第5号議案 成田看護高等専修学校に関する件

イ．平成12年度会計現況報告 椎名芳男
ロ．平成12年度財産目録報告 椎名芳男
平成13年度 事業計画

（総務）
行政当局及び関係諸団体との緊密な連携
近隣地区医師会との連携（京葉地区地域医療連絡懇談会）
記録文書の整理と保存、医療情報の収集と活用
定款の見直し（定款改定委員会）
会費規定の見直し
医師会事務所の駐車場の運営
財政健全化の方策の検討
収益事業への対応
印刷三師会との連携・協力
代議員制度の検討

（広報）
印刷市郡医師会報の発行
印刷市郡医師会ホームページの充実
県医師会広報委員会との連携
インターネットの利用（県医師会と電子メールによる通信・情報交換）

（医療）
病院部会の開催
　第二次救急医療機関運営事業（病院群輪番制方式）の運営
　病院長会議の開催
　一次救急体制の見直し
二次医療圏における「地域医療計画」への主体的参加
病診連携の促進
　成田赤十字病院、東邦大学佐倉病院、日本医大千葉北総病院との連絡協議会の開催
病診連携の促進
基幹病院を軸とする糖尿病診療網の立ち上げ
災害医療対策
　航空機災害対策（三郡医師会航空機対策協議会）
　一般災害時の防災医療対策
　各市長との災害時の医療救護協定の締結促進

（学術）
北総医学会（第104回、第105回）の開催
その他学術講演会の開催
各種医会に対しての助成
小児科医会の立ち上げ
日医生涯教育申告制度に協力
市民公開講座の開催
（医療保険）
適正な保険医療の研究と対策
（保険医講習会・保険事務講習会の開催、保険医療研究委員会）
（介護保険）
介護保険制度への対応（介護保険委員会）
介護認定審査に対する協力
介護サービス事業者との連携
（公衆衛生）
感染症新法に対する協力
公衆衛生関連諸機関との連携、協力
（学校保健）
学校医活動の円滑化
各種学校健診への協力
学校保健会活動への協力
小児生活習慣病対策の推進
県医師会学校保健部との連携
全国学校保健・学校医協会への出席
（産業保健）
地域産業保健センター事業の活性化
個別相談の佐倉での開催
日医認定産業医講習会の開催
嘱託産業医の普及と産業医活動への支援（産業医部会）
労働基準監督署との連携
（福祉）
診療情報提供に関しての対応
税制への対応（税務講習会の開催）
医師会旅行
医事紛争への対応（医事紛争処理委員会）
会員の健康増進と福祉向上の活動に対する助成（ゴルフ・テニス同好会への助成）
各種表彰に関する事項（米寿・喜寿会員、永年勤続従業員の表彰等）
（資産管理）
医師会資産の保存・管理と適正な運営
平成13年度 予算書

（歳入の部）

<table>
<thead>
<tr>
<th>種 目</th>
<th>12年度予算額</th>
<th>13年度予算額</th>
<th>備</th>
<th>考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>会 費</td>
<td>23,796,000</td>
<td>24,240,000</td>
<td>下記に記載</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>交 付 金</td>
<td>3,200,000</td>
<td>5,580,000</td>
<td>予防接種研究調査費、県医師会助成金、大規模災害対策補助金</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>委 託 料</td>
<td>38,586,000</td>
<td>38,674,500</td>
<td>二次救急輸番委託料</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>雑 収 入</td>
<td>1,500,000</td>
<td>507,000</td>
<td>産業保険センター賃料等</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学 校 剰 余 金</td>
<td></td>
<td>11,000,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>前 年 縦 越</td>
<td>8,000,000</td>
<td>11,000,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>75,082,000</td>
<td>91,001,500</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

会費内容

\[
13,000 \times 20 \times 12 = 3,120,000 \\
10,000 \times 4 \times 12 = 480,000 \\
7,000 \times 229 \times 12 = 19,236,000 \\
1,000 \times 117 \times 12 = 1,404,000
\]
<table>
<thead>
<tr>
<th>種 目</th>
<th>12年度予算額</th>
<th>13年度予算額</th>
<th>備 考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>会 議 費</td>
<td>3,000,000</td>
<td>3,200,000</td>
<td>総会、理事会、各種委員会</td>
</tr>
<tr>
<td>事 業 費</td>
<td>40,000,000</td>
<td>46,100,000</td>
<td>二次救急輪番制、会報、学术、災害対策、保険症例講習会等</td>
</tr>
<tr>
<td>厚 生 福 利 費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>1,500,000</td>
<td>会員療養旅行、慶弔費、記念品、傷害保険料等</td>
</tr>
<tr>
<td>法 定 福 利 費</td>
<td>1,300,000</td>
<td>1,300,000</td>
<td>厚生年金、労働保険、職員退職金</td>
</tr>
<tr>
<td>印 刷 費</td>
<td>300,000</td>
<td>300,000</td>
<td>コピー等</td>
</tr>
<tr>
<td>通 信 費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>1,500,000</td>
<td>切手、電話料等</td>
</tr>
<tr>
<td>旅 費</td>
<td>1,100,000</td>
<td>1,100,000</td>
<td>各種委員会車代等</td>
</tr>
<tr>
<td>備 消 品 費</td>
<td>600,000</td>
<td>600,000</td>
<td>事務用品等</td>
</tr>
<tr>
<td>会 長 交 際 費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>1,200,000</td>
<td>会長交際費</td>
</tr>
<tr>
<td>理 事 報 酬 費</td>
<td>5,040,000</td>
<td>5,040,000</td>
<td>理事報酬</td>
</tr>
<tr>
<td>給 与 費</td>
<td>8,500,000</td>
<td>8,600,000</td>
<td>常勤2名、会議等手伝い報酬</td>
</tr>
<tr>
<td>租 税 公 課</td>
<td>60,000</td>
<td>200,000</td>
<td>法人税等</td>
</tr>
<tr>
<td>助 成 金</td>
<td>5,000,000</td>
<td>0</td>
<td>看護学校</td>
</tr>
<tr>
<td>支 払 負 担 金</td>
<td>600,000</td>
<td>600,000</td>
<td>税理士顧問料</td>
</tr>
<tr>
<td>事 務 所 管 理 費</td>
<td>100,000</td>
<td>500,000</td>
<td>火災保険料等</td>
</tr>
<tr>
<td>雑 費</td>
<td>500,000</td>
<td>300,000</td>
<td>振込手数料他</td>
</tr>
<tr>
<td>予 備 費</td>
<td>5,082,000</td>
<td>12,000,000</td>
<td>国庫返還、建物メンテナンス、改修、事務所移転等</td>
</tr>
<tr>
<td>次 年 度 総 越</td>
<td>6,961,500</td>
<td>6,961,500</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合 計</td>
<td>75,082,000</td>
<td>91,001,500</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
会員各位

社団法人印旛市郡医師会
会長 追川 孝雄

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
去る平成13年6月30日（土）ホテル日航ウィンズ成田において、
社団法人印旛市郡医師会臨時総会が開催されすべて原案通り承認さ
れましたのでご報告致します。

記

1. 定款改訂に関する件
2. 平成12年度決算に関する件
3. 平成12年度積立金並びに財産目録に関する件
4. 平成12年度成田看護高等専修学校決算に関する件
第1号議案

社会法人印旛市郡医師会定款改訂案

印旛市郡医師会定款（現行）

名称及び事務所
第1条 本会は、社会法人印旛市郡医師会と称し、事務所を成田看護高等学校高修学校内に置く。

会員
第2条 本会は、印旛郡、成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市を区域として、その地域内において就業所（診療に従事しない者については住所）を有する医師は会員になることができる。

目的及び事業
第8条 11. 成田看護高等学校の経営

役員その他の機関
第9条 (3) 成田看護高等学校長1名
(4) 理事（会長、副会長、学校長を含む。以下同じ。）11名以上16名以内

第10条 3. 学校長は、成田看護高等学校を運営する。

会議
第21条 4. 収支予算

印旛市郡医師会基金規定（現行）

第1条 本規定は、印旛市郡医師会定款第40条によりこれを設ける。

印旛市郡医師会
入会会費規定（現行）

第1条 本規定は、印旛市郡医師会定款第39条によりこれを設ける。

改 訂 案

第1条 本会は、社会法人印旛市郡医師会と称し、事務所を成田市加良部3丁目17番地2に置く。

第2条 本会は、印旛郡、成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市を区域として、その地域内において就業所（診療に従事しない者については住所）を有する医師は会員になることができる。

第8条 11. 削除

第9条 (3) 削除
(4) 理事（会長、副会長を含む。以下同じ。）11名以上16名以内

第10条 3. 削除

第21条 4. 収支決算（ミスプリント訂正）

印旛市郡医師会基金規定（現行）

第1条 本規定は、印旛市郡医師会定款第39条によりこれを設ける。

印旛市郡医師会
入会会費規定（現行）

第1条 本規定は、印旛市郡医師会定款第39条によりこれを設ける。

（ミスプリント訂正）

※改訂に伴い、各条、各項の番号の繰り上げを行う。
第2号議案

平成12年度決算書

平成13年3月31日現在

（歳入の部）

<table>
<thead>
<tr>
<th>種目</th>
<th>予算額</th>
<th>決算額</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>会費</td>
<td>23,796,000</td>
<td>24,332,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>交付金</td>
<td>3,200,000</td>
<td>3,411,668</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>委託料</td>
<td>38,586,000</td>
<td>38,586,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>雑収入</td>
<td>1,500,000</td>
<td>3,922,537</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>前年繰越</td>
<td>8,000,000</td>
<td>11,691,586</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>75,082,000</td>
<td>81,943,591</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（歳出の部）

<table>
<thead>
<tr>
<th>種目</th>
<th>予算額</th>
<th>決算額</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>会議費</td>
<td>3,000,000</td>
<td>3,004,417</td>
<td>理事会、各種委員会</td>
</tr>
<tr>
<td>事業費</td>
<td>40,000,000</td>
<td>39,110,898</td>
<td>会報、各種講習、二次輪番委託料</td>
</tr>
<tr>
<td>厚生福利費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>1,223,736</td>
<td>会員レクレーション、療養費、傷害保険等</td>
</tr>
<tr>
<td>法定福利費</td>
<td>1,300,000</td>
<td>1,132,317</td>
<td>従業員法定福利費負担金</td>
</tr>
<tr>
<td>印刷費</td>
<td>300,000</td>
<td>205,811</td>
<td>コピー費</td>
</tr>
<tr>
<td>通信費</td>
<td>1,500,000</td>
<td>958,743</td>
<td>切手、電話料等</td>
</tr>
<tr>
<td>旅費</td>
<td>1,100,000</td>
<td>1,060,160</td>
<td>各種委員会車代等</td>
</tr>
<tr>
<td>備品費</td>
<td>600,000</td>
<td>219,504</td>
<td>事務用品等</td>
</tr>
<tr>
<td>会長交際費</td>
<td>1,200,000</td>
<td>617,461</td>
<td>会長交際費</td>
</tr>
<tr>
<td>理事報酬</td>
<td>5,040,000</td>
<td>5,040,000</td>
<td>14名</td>
</tr>
<tr>
<td>給与費</td>
<td>8,500,000</td>
<td>8,221,060</td>
<td>常勤2名</td>
</tr>
<tr>
<td>租税公課</td>
<td>60,000</td>
<td>763,600</td>
<td>法人県税、消費税</td>
</tr>
<tr>
<td>助成金</td>
<td>5,000,000</td>
<td>5,000,000</td>
<td>看護学校</td>
</tr>
<tr>
<td>支払負担金</td>
<td>600,000</td>
<td>519,589</td>
<td>税理士出張料他</td>
</tr>
<tr>
<td>事務所管理費</td>
<td>100,000</td>
<td>252,610</td>
<td>水道光熱費、火災保険料等</td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>500,000</td>
<td>247,580</td>
<td>振込手数料他</td>
</tr>
<tr>
<td>予備費</td>
<td>5,082,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>次年度繰越</td>
<td>0</td>
<td>14,366,105</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>75,082,000</td>
<td>81,943,591</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
平成12年度資産現況報告

平成13年３月31日現在

<table>
<thead>
<tr>
<th>基 金</th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>前年度より繰越</td>
<td>153,213,219円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>積立金（平成12年度分）</td>
<td>9,276,000円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>入会金</td>
<td>3,870,000円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>利息</td>
<td>177,238円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>166,536,457円</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>支 出</th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学校改修工事</td>
<td>9,039,450円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学校特別助成金</td>
<td>10,335,490円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>雑費（振込料）</td>
<td>1,890円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>19,376,830円</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

差引残額 147,159,627円

内 訳

| 千葉銀行普通預金 | NO.3127191 | 16,105,132円 |
| 千葉銀行普通預金 | NO.3120790 | 300,000円   |
| 千葉銀行定期預金 | NO.3120790 | 110,171,549円 |
| さくら銀行定期預金 | NO.5217946-1 | 10,530,157円 |
| 京葉銀行定期預金 | NO.6932431 | 10,052,789円 |
| 計          | 147,159,627円          |

財産目録

1. 土地
   成田市加良部3-17-2
   成田市看護高等専修学校 1,550.10㎡

2. 建物
   鉄筋コンクリート造り 4階建 1棟
   建物面積 1,105.80㎡
平成12年度決算書

平成13年3月31日現在

(単位：円)

### （歳入の部）

<table>
<thead>
<tr>
<th>種 目</th>
<th>予算額</th>
<th>決算額</th>
<th>備</th>
<th>考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>入学者金</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受験料</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>賞金</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>納付金</td>
<td>1,188,000</td>
<td>1,122,000</td>
<td>(20,000×12×35名) + (18,000×12×1名) + 240,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>教材費</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>県運営費補助金</td>
<td>6,928,000</td>
<td>6,810,000</td>
<td>(2,000×12×30名) + (5,000×12×6名) + 42,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>県単独援助金</td>
<td>1,471,000</td>
<td>1,772,000</td>
<td>(14,400×39名) + 6,249,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>県医師会助成金</td>
<td>714,500</td>
<td>714,500</td>
<td>(15,000×39名 + 1,500,000) × 0.85</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>市立医師会助成金</td>
<td>15,335,490</td>
<td>15,335,490</td>
<td>(5,500×39名) + 500,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>市町村補助金</td>
<td>4,910,000</td>
<td>4,910,000</td>
<td>(690,000×5月) + (250,000×4町) + (230,000×2村)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>預金</td>
<td>15,000</td>
<td>5,248</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>金利子</td>
<td>100,000</td>
<td>100,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>雑収入</td>
<td>300,000</td>
<td>759,097</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>前年度より繰越金</td>
<td>2,000,000</td>
<td>8,134,290</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>42,297,990</td>
<td>48,518,625</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### （歳出の部）

<table>
<thead>
<tr>
<th>種 目</th>
<th>予算額</th>
<th>決算額</th>
<th>備</th>
<th>考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>職員給与、諸手当</td>
<td>264,000</td>
<td>23,839,826</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>法定福利費</td>
<td>3,800,000</td>
<td>3,766,216</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>賃金</td>
<td>250,000</td>
<td>259,902</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>高齢者生倉費</td>
<td>150,000</td>
<td>391,399</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>負担金</td>
<td>85,000</td>
<td>69,800</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>謝金</td>
<td>1,572,000</td>
<td>1,553,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福利厚生費</td>
<td>2,000,000</td>
<td>1,942,781</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>教員研修費</td>
<td>100,000</td>
<td>349,965</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>研修費</td>
<td>200,000</td>
<td>200,935</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>講師講評費</td>
<td>2,100,000</td>
<td>2,070,513</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>預金</td>
<td>3,800,000</td>
<td>5,673,781</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>電気、ガス、水道、下水料代</td>
<td>400,000</td>
<td>136,266</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1・2階トイレ沿用補修、換気扇交換、便所交換代</td>
<td>800,000</td>
<td>888,382</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>電話料、ファクシミリ、郵便料</td>
<td>2,000,000</td>
<td>1,942,781</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>火災保険料</td>
<td>159,490</td>
<td>159,490</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>電気設備、修繕補助金</td>
<td>250,000</td>
<td>395,164</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>会計期末発行費</td>
<td>1,572,000</td>
<td>1,553,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1・2階トイレ沿用補修、換気扇交換、便所交換代</td>
<td>100,000</td>
<td>349,965</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>納金課費用</td>
<td>200,000</td>
<td>425,355</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>教材費</td>
<td>450,000</td>
<td>329,421</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>生徒教材費</td>
<td>250,000</td>
<td>318,688</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>事業用教材費</td>
<td>200,000</td>
<td>10,733</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>管理費</td>
<td>600,000</td>
<td>215,607</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸借料</td>
<td>207,144</td>
<td>203,000</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>雑費</td>
<td>400,000</td>
<td>237,535</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>校舎維持積立金</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>予備費</td>
<td>424,356</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>次年度へ繰越金</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>42,297,990</td>
<td>40,913,214</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

残高 7,605,411
平成12年度積立金現況報告

平成13年3月31日現在

校舎維持積立金

千葉銀行 成田支店
定期預金 No.172315

(単位：円)

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>金額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>過年度分</td>
<td>2,401,581</td>
</tr>
<tr>
<td>利子</td>
<td>270</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2,401,851</td>
</tr>
<tr>
<td>残高</td>
<td>2,401,851</td>
</tr>
</tbody>
</table>
三郡医師会航空機対策協議会

三郡医師会航空機対策協議会 緊急連絡および出動訓練
平成12年9月2日（水）実施

1. 訓練の目的
航空機事故が発生した場合、公団から医師会へ、また会員へ情報の伝達及び出動を円滑に行うため、また医師会と会員、公団と自治体の密接な連携を図ることを目的にする。

2. 訓練の内容
(1) 情報受理・伝達訓練
三郡医師会航空機対策協議会災害時緊急連絡網による伝達
公団から会長、会長から医師会司令室、各医師会から会員への伝達
(2) 各地区集結場及び空港への出動訓練
地域災害訓練も兼ねて、各自治体とともに集結場への出動とその確認を行う、また空港では公団職員による確認を行う。

3. 訓練の日時
平成12年9月6日（水）
12時30分～15時30分

4. 訓練の想定
ABC航空96便B－747型機が着陸に失敗。火災発生。

5. 訓練の伝達内容
「訓練、訓練。ABC航空96便B－747型機が着陸に失敗。滑走路東側の芝地（新東京国際空港グリッドマップR－20付近）に突っ込み、火災発生。多数の負傷者が発生している模様です。出動願います。こちらはNAA消防課の○○です。」

6. 伝達結果
別紙の通り

7. 訓練の考察と反省
三郡医師会は自治体と公団と協力して、緊急連絡訓練と出動訓練を行った。地域災害出動訓練を兼ねるという立場から、自治体職員は集結場での出動会員のチェックを行った。また公団は医師会の訓練に呼応して、公団職員の緊急出動訓練を行った。

三郡医師会では、緊急連絡訓練を抜き打ちに行いたいという意向もあったが、昨年の成田市で行った連絡訓練の経験から、事前に十分な打合わせをしてどの程度主催が会員の先生方に理解されたか訓練を通じて見極めたいと考えた。昨年の成田市の訓練では、防災無線による連絡で31.9%しか確認できなかった。直接に直接電話で確認したところ89.7%が確認できた。この経験から今回の訓練では、緊急連絡網を使用して直接連絡する方法を採用した。

今回の緊急連絡訓練では、三郡医師会会員294名に連絡して261名88.7%に連絡可能であった。印旛郡医師会では、226名中200名に連絡できた。印旛郡各地区による差はほとんど認められない。佐原市香取郡医師会17名中16名94%、山武
郡市医師会では51名中45名88%に連絡でき、各医師会とも良く連絡できた。これは事前の打ち合わせが徹底していたことによると考えている。実践的な訓練を出来るようにしていきたい。

連絡受信までの時間についてみると、印旛市郡医師会では平均14.4分ですが遅い所は40分〜60分かかっている。佐原市香取郡医師会では、平均16.2分で、遅い所では23分です。印旛は広いこと、また連絡網の１班の人数が多いことなどが関係していると思う。

また最終連絡者までの到達時間は印旛市郡医師会では平均27.4分かかっている。佐原市香取郡医師会は平均22分、山武郡市医師会では27分かかっている。医師会による差は認められません。遅い所は55分〜89分かかっている。その理由は前述したのと同じです。

出動までの所要時間の平均は、印旛は17.4分、香取は3.8分で山武は9.6分です。遅い人は約50分かかっている。これは日頃から出動の準備が出来ていないことを示していると判断する。

集結場所までの時間の平均は、印旛では21.5分、香取では4.6分まで山武では18.4分でした。佐倉市、四街道市と八街市では遅い人は47分〜60分かかっている。災害時の集結場所は近くにあると思いますが、事故で出動するときは他の場所を考慮すべきでしょう。集結場所まで出動した人数は、印旛で79名、香取で11名まで山武では17名でした。

空港到着までの所要時間は、4分〜55分まで様々でした。高速道路を利用できる場所からは、30分以内に到着できている。事故発生時に高速道路が利用できるように配慮されることが大切になる。空港に出動した人は、印旛で21名、香取で11名まで山武では15名でした。

出動できない理由は、平日昼間のため診療中や他の公務に出張することなどであった。

8. 今後の課題

(1) 緊急連絡網の整備

今回の訓練では、90%近くの会員に連絡できたが、実際の事故時にはどのようにかかるのか心配です。訓練を重ねて連絡が思案できるようにしたい。電話連絡網は自宅と診療所に置いておくような配慮が必要でしょう。また連絡が着くのに時間がかかる所があるときは連絡網で連絡する1班の人数は5名程度が良いことを、また班の首頭者が班の人全員に連絡するようにすることが必要なことを示しています。これまで連絡が途中で止めることが防げます。訓練を重ねて、不意打ちに連絡訓練をしてみたいと考えています。

(2) 出動訓練の準備について

出動準備に時間がかかる人がいる。日頃から出動準備をチェックしておくことが求められる。出動装備、救急キットなどをキャスター付キャリアに詰めておくような準備を会員にお願いできるようにしたい。
出動訓練報告書集計（平成12年9月6日実施）

1. 連絡到達率
2. 連絡受診までの時間。12時30分より
3. 終え連絡者までの到達時間。12時30分より
4. 出動までの所要時間。
5. 集結場所までの所要時間及び人数。
6. 空港到着までの所要時間及び人数。

1）集結場所から  2）直接空港へ

<table>
<thead>
<tr>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
<th>6</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>成田</td>
<td>84%</td>
<td>6分〜40分</td>
<td>0分〜25分</td>
<td>3分〜20分</td>
<td>1）12分〜17分</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>59名</td>
<td>平均18.4分</td>
<td>平均8分</td>
<td>2）4分〜25分</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>70名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>平均13.8分</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>94%</td>
<td>2分〜45分</td>
<td>9分〜47分</td>
<td>9分〜47分</td>
<td>1）15分</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>61名</td>
<td>18分〜45分</td>
<td>17分〜55分</td>
<td>2）0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>65名</td>
<td></td>
<td>平均31分</td>
<td>平均22分</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四街道</td>
<td>100%</td>
<td>9分〜55分</td>
<td>17分〜55分</td>
<td>28分〜65分</td>
<td>1）17分〜23分</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>33名</td>
<td>20分〜55分</td>
<td>22分〜22分</td>
<td>2）0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>33名</td>
<td></td>
<td>平均31分</td>
<td>平均22分</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印西</td>
<td>76%</td>
<td>0分〜12分</td>
<td>1分〜19分</td>
<td>6分〜24分</td>
<td>1）48分</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>31名</td>
<td>5分〜30分</td>
<td>5.1分</td>
<td>2）28分</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>41名</td>
<td></td>
<td>平均4.1分</td>
<td>平均16.3分</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>八街</td>
<td>94%</td>
<td>2分〜60分</td>
<td>10分〜15分</td>
<td>15分〜60分</td>
<td>55分</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>16名</td>
<td>14分〜89分</td>
<td>37分〜2分</td>
<td>1）2名</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17名</td>
<td></td>
<td>平均9.3分</td>
<td>平均12分</td>
<td>2）0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>88.5%</td>
<td>14.4分</td>
<td>17.4分</td>
<td>21.5分</td>
<td>1）13名</td>
</tr>
<tr>
<td>名</td>
<td>200名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2）8名</td>
</tr>
<tr>
<td>226名</td>
<td></td>
<td>27.4分</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>----</td>
<td>-----</td>
<td>---------</td>
<td>---------</td>
<td>---------</td>
<td>---------</td>
</tr>
<tr>
<td>佐原</td>
<td>94%</td>
<td>9分~23分</td>
<td>21分~23分</td>
<td>3分~5分</td>
<td>3分~7分</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16名/17名</td>
<td>平均16.2分</td>
<td>平均22分</td>
<td>平均3.8分</td>
<td>平均4.6分/11名</td>
</tr>
<tr>
<td>山武</td>
<td>88%</td>
<td>14分~57分</td>
<td>2分~23分</td>
<td>平均9.6分</td>
<td>平均18.4分/17名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>45名/51名</td>
<td>平均27分</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三郡合計</td>
<td>88.7%</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>261名/294名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1) 38分 15名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2) 0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1) 47名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>2)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
三郡医師会航空機対策協議会 災害時緊急連絡網

新東京国際空港公団

三郡医師会航空機対策協議会 会長
追川 孝雄

副会長 市村 公道
常任理事 塚田 正男
常任委員 中島 克已
不在時
常任委員 後藤 良顕
不在時
常任委員 真鍋 博
国保 能彦
佐久間将夫

司令室（印旛郡医師会内）
国保 能彦
佐久間将夫

印旛郡医師会
成田地区
佐倉地区
四街道地区
八街地区
印西地区

山武郡医師会
会長 伊藤 俊夫

佐原郡香取郡医師会
会長 龜谷 秀夫

(1) 通報内容を、落ち着いてしっかりメモすること。
(2) 市村、塚田、中島の各先生へ至急電話すること。
　1人へ電話したら、他の2人の先生へも追川から電話することを伝える。
　これは緊急の場合の重複をさせためです。
(3) 3人の先生へ連絡後、指令室へ報告すること。
(4) 時間経過後の情報連絡は司令室へ行う。
(5) 連絡がつかない先生があれば、他の先生に、〇〇先生には連絡つきませんと報告すること。
協議会報告

三郡医師会航空機対策協議会による緊急連絡及び出動訓練に係る
空港公団の対応について

1（初動通報）
12時30分に空港公団消防司令室から下記の通報内容を、追加会長へ通報する。
通報内容
「訓練、訓練、ABC航空96便B-747
型機が着陸に失敗。
滑走路東側の芝生（新日新国際空港グリ
ッドマップR-20付近）に突き込み、火災
が発生。多数の負傷者が発生している模様。
出動願います。
こちらは、NAA消防課の〇〇です。」

2（空港入場口の案内について）
＊訓練当日の空港への入場口は、第2ゲー
ト、第6ゲー、第7ゲー、第6警備
所の4ヶ所とし、高速道路を利用した場
合は第2ゲートからの入場とする。ただ
し、第1ゲートから入場した場合は、入
場後、左側にある排除道路から第2ゲー
トへ向かってもらうこととする。
＊空港入場口（第2ゲート、第6ゲート、
第7ゲート、第6警備所）までの到着時
間の記録については、腕章を着けた案内
係が実施することとし、医師会の報告書
に確認の署名をするとともに公団におい
ても、入場記録をする。
なお、案内係の対応は、12:30 〜 15:30
とする。
＊空港への各入場口から退場までのルート
は、次の通りとする。
○第2ゲート
第1レーンから入場→入場記録及び報告
書確認→（注）→時待機→第10警備所→北
連絡橋→場周道路→医師等仮設駐車場→
解散→第7ゲートから退場
（注）時待機は、4 〜 6 台の車両が集結

後、公団が医師等仮設駐車場まで先導す
ることとする。
○第6ゲート
第1レーンから入場→入場記録及び報告
書確認→第3〜1警備所手前の医師等仮
設駐車場→解散→第6ゲートから退場
○第7ゲート
第7ゲート→入場記録及び報告書確認→
第5警備所→医師等仮設駐車場→解散→
第7ゲートから退場
○第6警備所
第6警備所→入場記録及び報告書確認→
場周道路→医師等仮設駐車場→解散→第
7ゲートから退場
○第7ゲートからの退場後の高速道路まで
のルート

3 その他
○訓練出動の参加者に対する保険について
毎年実施している空港内の総合訓練と
同様、空港救急医療従事者労働者保険制度
を適用。
なお、訓練実施後、参加者の氏名及び
職名（医師・看護婦）を通知することに
なっていますので、訓練後、参加された
方の名簿の提出をお願いしたい。
○その他、医師用識別ベスト及び看護婦様
式別腕章の写真を添付。
○連絡先：空港公団保安警備課航空保安対
策課　T E L 0476〜34〜5569
湯浅 090〜3103〜7545
土屋 090〜3220〜2924
（栄町：後藤宜頼）
三郡医師会航空機対策協議会

日時　平成12年10月30日（月）
ウインズホテル
出席者　追川、伊藤、亀谷、市谷、中島、
後藤、国保、野村、伊藤、藤倉、
太田、岡谷、真鍋、古川、鈴木、
今井、金子、布施、小林、塚田
東邦大笙間
日本医大工広
成田赤十字病院　小川
県立佐原病院　岡田
歯料医師会　日暮、岡本

議題

第19回航空機事故消火救難総合訓練の反省

(1) 事前準備について

1）準備開始時期は例年通りで良い。
しかし、救護班編成表を配布する時期は10月初旬に合わせたい。
2）千葉大への依頼と準備について
出動活動服、ヘルメット、ベスト、靴を3組渡してある。しかし、サイズが合わないことがあるので、事前に打合わせをしておく。
3）消防、成田市、公団との事前打合わせについて
搬送指揮、ヘリコプター搬送先の選定、
市職員の依頼などは、訓練打合わせの委員会に2回出席してもらい調整できた。
4）救護班編成表作成の問題について
直前の参加者の変更は避けられないの
で、出来るだけ早く決定して10月初旬には配布したい。
訓練目的、訓練概要、医療機器、機材のリストアップ、傷病者のメイクアップとバイタルサイクルの関係などを付記して事前に良く理解してもらうようにする。
5）メイクアップの問題点について
傷病を良く表すような派手なメイクアップにしたい。また演技を付ける方が良い。今年は公団の希望で、控えめなメイクアップにした。メイクアップするための準備時間が不足したので、次回は配慮したい。
6）出動装備の不足と補充について
看護婦のヘルメットが不足している。
補充して渡しておけるようにしたい。
7）出動要領、車両の登録、集結場所などについて
ハム班の車両の入場許可証が配布されるのが遅れた。

(2) 合同調整本部の問題
訓練会場の様子の音声が入る臨場感が出た。
(3) 現場調整所（コマンドカー）の課題について
節目節目の情報は伝えられたが、リアルタイムの情報は伝えられない。医師会のハム班のリアルタイムの情報が有効であった。自衛隊と消防がハムの隣に来て情報を
得ていた。

（4）現地指揮本部（ワンボックスカー）の課題について

1）出動登録について

名札の準備がされていない。公団、或いは成田市で準備する。

2）班編成について

事前に班の組み合わせの確認をするため、班長がハンドマイクを使用して各チームの理解合わせをする。

理想的にはチームを固定すると、チームワークが良くなる。しかし、実際には誰が来るのか分からないので、同じ医师会員同士にすると顕見知りでチームワークが良くなると思う。

3）その他

ワンボックスカーに事務員を配置すると、情報が整理され効率的な活動が出来る。

（5）トリアージ班について

1）軽症者の取り扱いは、調整者がテント前で誘導して混乱を回避できた。無傷者、軽傷者の集結場にトリアージタッグがなかった。

2）メイクアップとバイタルサインの問題点について

よく分かるように派手なメイクアップが必要である。

3）搬入、搬出について

調整者はテントの混み具合を考慮して、搬入させていた。

また救護テントの様子を見て、搬出させていた。

4）トリアージの基準について

時間的に余裕のない状況では、歩行できるか否か、呼吸数と爪で毛細血管再充満時間が2秒以内かなどから（A、B、Cから）重症度を判断する。このトリアージ簡便法を用いて判断するのが良い。

少し時間が取れるときには、生理学的方法Triage Revised Trauma Score T. R. T. S.（意識、呼吸数、収縮期血圧）で優先度を決定する。

（12年3月三郡医師会航空機対策協議会研修会講演会「航空機災害時の救護活動とトリアージ」講師 日本医大 益子邦洋先生、印旛郡医師会雑誌 27号参照）

（6）救護班について

1）負傷者誘導係、乗客身元確認係、通訳の活動について

出来るだけ協力して、活用することでこの業務の必要性が理解される。

2）医療機材の活用と欲しい機材について

テントを膨張させてから、医療機器を揃えるので時間がない。

班長が指揮して、機の上に機材を整理整頓して利用しやすくする。

医療機器、機材の係を配置して、利用しやすくしたい。

医療機器、機材をリストアップして、医師が事前に把握できるようにしておく。メーカーにより機器の利用に慣れない必要で、機器、機材の習熟訓練をしたい。

3）テント内の救護活動マニュアルを作る。

負傷者のリストにバイタルサインが付いているが、救護テント内で再度バイタ
ルサインを確認すると言う立場から、二重になっているバルサインを剥がし確認をする。死亡例で身元確認班へ転送する者か、歯科用負傷者か判断する。

傷病による救護マニュアルを作成しておくことで、外科系以外の先生方にも協力を求めやすくなる。

負傷者の搬送は、救急隊が担当して、死亡者は担架隊が担当する。テントへの搬入、搬出について、班長は調整する。

4）身元確認班へ行く負傷者、歯科用負傷者の確認とヘリコプター用負傷者の確認については、バイトサインの確認で判断できる。

5）テント内が暗い。照明が欲しい。

(7) 搬送班について

1）消防との連携について

事務員を配置したので、搬送先が把握できた。

2）搬送先後方病院、ヘリコプター搬送の問題

訓練で、負傷者が出たため救急車による搬送するのか、ヘリコプターによる搬送するかトラブルがあった。

3）時間的課題について

実際の負傷者搬送があったが、15分遅れですんだ。

(8) ヘリコプター搬送の課題について

1）日本医大、旭中央病院への搬送での課題について

旭中央病院は、受入態勢を整えて待っていてくれた。

ビニールハウスへの影響もなく搬送先病院として十分期待できる病院です。

2）担架、毛布などの問題が昨年指摘されたが、今年は公団の担架と毛布を利用したので解決できた。公団の担架は自衛隊チヌークヘリに固定できる。その着脱は瞬時にできる。日本医大へ実際の負傷者を搬送したので消防の担架を利用したが、ヘリの固定ベルトにつけられないので床置きにした。実践的に考えるとこの点の解決が待たれる。

(9) ハム班について

1）各班にて情報収集の課題

出動できたハム班員の不足で、ワンボックスカーに配置できなかった。会長名で、院長さんに協力依頼をだす。これについて岡谷先生に依頼する。

2）負傷者のnumberingの問題

消防連絡協議会では、各機関ごとにnumberを付けているので問題ないと回答してきた。

3）搬送者の名前を、消防の無線で言っているが、プライバシーの点で配慮したほうが良い。

4）日本医大、旭中央病院に無線局の設置をお願いしたい。

5）ハム班の増員を。

6）ハム班独自の連絡網をつくる。

歯科医師会会員との連携を図る。

身元確認班との連携にハムを使いたい。

(10) 身元確認班について

1）県警検視班、警察医と歯科医との連携

警察医の参加で死亡確認がされ、警察
の立会いのもと身元確認作業が行われ当初の目的が達成できた。これを7都県防災訓練でも達成できなかったことである。
作業現場に感染対策のためのゴミ箱などの用意が大切である。
また、作業現場が暗いため、確認作業がしにくかった。
開口に協力してもらえない人がいた。
2）テントへの搬入が遅れた件と対策
担架隊の協力を得るのに手間取った。
(11)総合的に
1）メイクアップについては、派手にして一見して傷病名が分かるようにしたい。
2）バイタルサインを二重にする為の工夫については、おり返しを大きく取って欲しい。
3）医療機材の活用と習熟訓練については、各医师会で開催を計画する。
4）班长の固定とテント内の救護活動について検討する。
　マニュアルを作成して理解を深める。
5）その他
　多くの会員の参加を求める努力をする。
6）9月6日に行った緊急連絡および出動訓練報告を会員に伝える。
　（成田市：塚田正男 記）
三郡医師会とAOCとの懇談会
平成13年1月16日 PM7:00 ガーデンホテル成田

（1）懇談会
医師会資料 （1）協議会について
   1）協議会の歩み  2）協定書  3）研修会
   4）航空機事故とその対応  5）訓練
   6）緊急連絡網について  7）出動
   8）救護  9）搬送指揮  10）ハム班  11）今後の課題

（2）第19回航空機事故訓練反省について

（3）三郡医師会航空機対策協議会 緊急連絡訓練と出動訓練
   AOC出席者7名に手渡し、医師会側は協議会の活動と懸念材料について説明した。
   AOC側も同様な認識で、緊急活動マニュアルが実践的でなくままた具体的でないことを懸念していた。この点について公団に前出を申し入れているが、なかなか実現しない。国内空港の危機管理マニュアルをみると、航空機事故対策だけでなく爆発その他の不測の事故対策についても記載されている。またファイル式でマニュアルを作成している。外国空港の緊急活動マニュアルについても検討を始めている（シドニー空港では、ボランティアの人を集め警備の先導で現場に出動する体制が出来ていることは、興味深い）。

航空会社も、事故発生時には乗客の対策があり、何人出動できるか明らかでない。各航空会社に何人と割り当てられても実際でない。しかし、ボランティアとして空いている人が出動できるので、集会所を明確にして欲しいと公団には申し入れている。

医師会、AOC共に事故発生時にこの体制で、十分な救護活動が出来るので心配している。合同の勉強会を発足し、各段階について具体的な対策を共に決めていくことに同意した。その過程で必要なら、公団、消防、成田市などの出席をもとめることとした。

（2）隔月に開催

（3）議長と事務局
   議長
   医師会 中島 克己
   AOC 早川
   事務局
   塚田 正男
   杉田

（4）次回開催日
   3月を予定
医師会・AOC勉強会
平成13年3月22日 PM7:00 ワシントンホテル

＜出席者＞
AOC 早川 三上 星野 元田
三郡医師会 追川 龟谷 市村 古川 布施 中島 後藤 柊田

＜議題＞
(1) 機内搭載救急薬リスト（日航）
(2) 機内救急患者に対する医師の応援について
   大きな過失がない場合には、当該航空会社が訴訟の負担をする
(3) 航空機事故緊急活動計画について
   (1) 成田空港の計画について
      諸機関との連携の具体的な関係が明確でないので関係機関を網羅した緊急連絡協議会
      を立ち上げることを提案した。
   (2) 佐賀空港の緊急活動計画について。
      ＊範囲が決定されている。空港から9 kmまで。
      ＊緊急連絡協議会が決められている。
      ＊県が主導して開港された経緯があるためか、県が前に出て計画を設定している。
      ＊シドニー空港とともに、参考にすべき緊急活動計画で、日本の空港では一番よくできている。
(4) 次回開催
   5月24日（木）予定
緊急連絡協議会設置にむけて
緊急時の関係機関との連携について
事前対策、事故当初段階の、事故時の各活動と関係機関との連携について確認しておること。
早川氏より航空機内のドクターコールについて
Med Link でコンサルテーションして、ドクターコール要請を決める。
ドクターズキットは備えている（内容は不明）。
平成12年度 三郡医師会研修会報告

日時　平成13年3月13日（水）　PM 6:30

場所　ホテル日航ウインズ成田

出席者
国土交通省新東京国際空港事務所　空港長他　2名
千葉県　1名
千葉県救急医療センター長　角田興一先生　1名
新東京国際空港公団　保安警備部長他　9名
成田市　6名
三郡歯科医師会航空機対策協議会　6名
消防連絡協議会（公団消防を含む）　31名
警察関係　8名
自衛隊下志津駐屯地高射学校　2名
航空会社　7名
成田赤十字病院　院長他　6名
日本医大北総病院　2名
東邦大佐倉病院　2名
国立下志津病院　1名
県立佐原病院　1名
空港クリニック　1名
日本医大クリニック　2名
薬剤師会　2名
印旛郡医師会　25名
佐原市香取郡医師会　7名
山武郡医師会　7名
合計　127名
＜研修内容＞

（1）式次第 別添参照

（2）「救護活動の実技講習会」

（1）三角巾の使用法

講師 成田赤十字病院救急救護指導員（看護婦） 4名

準備 「三角巾の使用法」のパンフレット
三角巾 100枚

内容
1）三角巾の折り方
2）頭部の包帯法
3）胸部の包帯法
4）膝の包帯法
5）三角巾の囲み方

評価
三角巾の使用は実践で大変有用であるが、講師の指導が丁寧であったにも拘わらず、直接手を取っての指導でないため皆さんは戸惑っていた。
次回は30人はどのグループごとに1時間ほどの実技で確実に身に付ける訓練をしたい。

（2）トリアージ訓練

医師 9名（外科 3名、整形外科 2名、内科 4名）
救急救命士 1名
看護婦 5名（追川外科 1名、市村外科 1名、塚田外科 2名、成田市）
事務員 10名（成田市職員）
負傷者 10名（消防連絡協議会）
講評者 日本医大千葉北総病院救急救命センター
益子 邦洋 先生
工場 紀行 司 先生
東邦大佐倉病院救急部
笠間 昭彦 先生
山崎 孝正 先生
成田赤十字病院外科
菅谷 芳樹 先生

訓練要領 別添参照
トリアージ訓練

＜訓練要領＞

1. 負傷者数 5 名×2 回＝10名（患者役は消防職員）
2. トリアージチーム：10チーム（A～J）
   ・1チーム 3 名編成：医師 1、看護婦 1、事務 1
   ・医師：印藤 4 名、山武 3 名、佐原 3 名
   ・看護婦：成田市 1～2 名、医師会 3 名
   ・事務：成田市 5 名
3. 傷病者は 5 時 30 分よりホテル 3F の部屋においてメーシャップ施行
   ・メーシャップ担当：ノルメカエイシア 林さん他
   ・この時同時に演技指導を行う（演技指導担当：北総病院 工廣紀斗司）
4. 訓練会場設定ならびに訓練方法
   ・会場中央にストレッチャーを 5 台並べ、この周囲に見学者のスペースを確保
   ・模擬患者は予め、ストレッチャーに寝ている状態で訓練開始
   ・傷病者のバイタルサイン等は各ストレッチャー毎に用紙に記載し、見学者にも見えるようにしておく
   ・訓練開始の合図があったら、各グループは傷病者の観察を実施し、トリアージ結果をトリアージタグに記載して傷病者の右手首にかける。
   ・3 分経過したら合図の笛が鳴るので、各グループは次の傷病者に移動して同じようにトリアージを行い、計 5 名のトリアージを実施する。
   ・時間配分：前半、後半共に 30 分ずつ（トリアージ訓練 15 分、講評 15 分）
5. 講評
   ・講評担当者（5 名）
     成田赤十字病院 管谷芳樹
     東邦大学佐倉病院 笠間晃彦、山崎孝正
     日本医科大学付属千葉北総病院 工廣紀斗司、益子邦洋
   ・1 回目は患者番号 1～5、2 回目は患者番号 6～10 のいずれかを担当し、A～J グループのトリアージの様子をつぶさに観察すると共に、トリアージタグを回収してチェックし、その後を最後に講評する。
   ・講評の持ち時間は前半、後半共に、1人 3 分間
   ・トリアージのチェックポイント
     １） 傷病者の観察及び診察の適否
     ２） トリアージ（重傷度判断）の適否
     ３） トリアージタグ記載方法ならびに「もぎり方」の適否
## 訓練成績

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>患者番号</th>
<th>NO 1</th>
<th>NO 2</th>
<th>NO 3</th>
<th>NO 4</th>
<th>NO 5</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>顔面、頸部</td>
<td>顔面、気道、熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>左手、脇熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>腹部開放性</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>上半身熱傷、気道熱傷</td>
<td>右下肢骨折</td>
<td>過呼吸症候群</td>
<td>損傷出血</td>
<td>内臓損傷</td>
</tr>
<tr>
<td>116/70 P130 呼吸28</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>左足関節骨折</td>
<td>左上肢熱傷</td>
<td>左上腕切断</td>
<td>内臓破裂</td>
</tr>
<tr>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>頭面、気道熱傷</td>
<td>拘束症候群</td>
<td>頭面、脇熱傷</td>
<td>腹部開放性</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>気道熱傷</td>
<td>腹部、内臓熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腹部、腸管熱傷</td>
<td>腫管熱傷</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>患者番号</td>
<td>F 班</td>
<td>G 班</td>
<td>H 班</td>
<td>I 班</td>
<td>J 班</td>
</tr>
<tr>
<td>---------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外科医</td>
<td>整形外科医</td>
<td>内科医</td>
<td>外科医</td>
<td>救急救命士</td>
</tr>
<tr>
<td>NO 6 開放性気胸</td>
<td>右胸部挫創</td>
<td>開放性肋骨骨折</td>
<td>右肺挫傷</td>
<td>右肺挫創</td>
<td>胸腔内挫創</td>
</tr>
<tr>
<td>144/80</td>
<td>血気胸</td>
<td>肺破裂</td>
<td>右肋骨骨折</td>
<td>右胸部裂創</td>
<td>肺挫創</td>
</tr>
<tr>
<td>P125 呼吸30</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>緑</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>NO 7 頭部挫創</td>
<td>頭部外傷</td>
<td>頭部挫傷</td>
<td>脳挫傷</td>
<td>頭部挫傷</td>
<td>頭部裂創</td>
</tr>
<tr>
<td>頭蓋骨</td>
<td>頭蓋骨開放骨折</td>
<td>頭盖骨開放骨折</td>
<td>脳挫傷</td>
<td>意識障害</td>
<td>脳挫傷</td>
</tr>
<tr>
<td>P66 呼吸18</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>赤</td>
<td>黒</td>
<td>赤</td>
</tr>
<tr>
<td>NO 8 右下腿骨開放骨折</td>
<td>右下腿骨開放骨折</td>
<td>下腿骨開放骨折</td>
<td>右下腿</td>
<td>右下腿</td>
<td>右下腿</td>
</tr>
<tr>
<td>126/62</td>
<td>開放骨折</td>
<td>開放骨折</td>
<td>開放骨折</td>
<td>開放骨折</td>
<td>開放骨折</td>
</tr>
<tr>
<td>P88 呼吸18</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
<td>赤</td>
<td>黃</td>
</tr>
<tr>
<td>NO 9 頭面両上肢多発挫創</td>
<td>両下肢挫創</td>
<td>前額部挫創</td>
<td>左下肢挫創</td>
<td>両下肢骨折</td>
<td>両下肢開放</td>
</tr>
<tr>
<td>134/70</td>
<td>両腕頭部挫創</td>
<td>下肢挫創</td>
<td>左腕部挫傷</td>
<td>疑い</td>
<td>議</td>
</tr>
<tr>
<td>P84 呼吸20</td>
<td>緑</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
</tr>
<tr>
<td>NO 10 両上肢2度熱傷</td>
<td>両上肢熱傷</td>
<td>両上腕熱傷</td>
<td>右上腕熱傷</td>
<td>両上腕熱傷</td>
<td>両上腕熱傷</td>
</tr>
<tr>
<td>138/82</td>
<td>2度</td>
<td>2度</td>
<td>2度</td>
<td>2度</td>
<td>2度</td>
</tr>
<tr>
<td>P114 呼吸20</td>
<td>黄</td>
<td>緑</td>
<td>黃</td>
<td>黃</td>
<td>黄</td>
</tr>
</tbody>
</table>
<講 評>

＊全体として正解率が高く、的確な判断がなされていた。
 日ごろの訓練などによる研鑽の成果を表している。

＊トリアージタッグの裏面に記入するのを忘れている例があった。
 また、タッグは右手首につける。不可能な例には左手首、右足首、左足首の順につける。

＊症例についてみると
 挫減症候群では、正解率が悪く赤と判断したのは救急救命士の人だけでした。
 阪神淡路大震災で、多数のクラッシュ・シンドロームの負傷者がでて、大阪大学特別救急センターでの調査では7割の負傷者が人工透析を受けた。そのため重傷度は赤になります。

＊過換気症候群の負傷者の診断に変わられないようにしましょう。

＊上腕切断例は圧迫止血を十分にする中等症の症例にしてもよいでしょう。

＊多発挫創は、全身状態の悪化を伴わないので軽傷（緑）でいいでしょう。

＊救急救命士の人は、日ごろの訓練のとおり的確に判断されていました。

＊内科の先生は、判断に迷われたと思いますが、医師としての先生の判断基準でよろしいと思います。血を見て慌てないで判断して下さい。
 挫減症候群などもあることを考慮していきますと、判断に役立ちます。

＊今回の研修会には、関係機関のおおるの方々に参加していただきました大変有意義な研修会になりました。
勉強会記録

脳卒中市民公開講座
日時：平成12年5月27日 土曜日
15：00から16：30まで
会場：日本医科大学 千葉看護専門学校 講堂
講師名：斎藤 勇
講師役職：第25回日本脳卒中学会会長
演題名：脳卒中の診断と治療 ～最近の進歩～

四街道地区講演会
日時：平成12年6月7日 水曜日
19：00から20：40まで
会場：四街道市保健センター
講師名：龍野 一郎
講師役職：千葉大学医学部 第2内科講師
演題名：高血圧治療のビットホール
～血圧管理の意義と薬剤コンプライアンスについて～

第40回東葉臨床医学セミナー
日時：平成12年6月9日 金曜日
18：30から19：30まで
会場：ウィシュトンホテル ユーラリ
講師名：本間 菊夫
講師役職：東京慈恵会医科大学付属柏病院
演題名：経過観察が必要な血尿・蛋白尿

佐倉・四街道地区学術講演会
日時：平成12年6月16日 金曜日
18：50から20：30まで
会場：佐倉市健康管理センター
講師名：小寺 重行
講師役職：みつお記念クリニック 院長
演題名：在宅酵素療法の実際

第15回日医大C P C
日時：平成12年6月20日 火曜日
18：00から20：00まで
会場：日本医科大学付属千葉北総病院
演題名：慢性閉節リウマチ及びアミロイドーシス外来フォローコードに、急激なる不全、呼吸不全で死亡した一部検査

第102回北総医学会
日時：平成12年6月24日 土曜日
18：30から19：30まで
会場：成田ビューホテル
講師名：中島 伸之
講師役職：千葉大学医学部第1外科教授
演題名：動脈硬化と血管瘤
～動脈瘤と下肢阻血を中心に～

印旛市郡医師会学術講演会
日時：平成12年6月13日 火曜日
19：00から21：00まで
会場：成田全日空ホテル
講師名：水野 杏一
講師役職：日本医科大学千葉北総病院内科教授
演題名：積極的脂質低下療法の意義

第80回国立佐倉病院臨床病理検討会
日時：平成12年6月26日 月曜日
18：00から20：00まで
会場：国立佐倉病院
講師名：平澤 博之
講師役職：千葉大学医学部救急医学 教授
演題名：重症急性肺炎に対する持続的血液濾過透析を用いた新しい治療法
第9回成田地区
小児科疾患クリニカルカンファレンス

日時：平成12年6月28日 水曜日
19：00から21：00まで

会場：成田赤十字病院

講師氏名：1) 島野 洋一 2) 菊池 哲
3) 闇根 邦夫

講師役職：1) 成田赤十字病院産婦人科
2) 成田赤十字病院小児科
3) 国立療養所下志津病院小児科医長

演題名：1) 当院における母体搬送症例の検討
2) 当科新生児センターにおける最近
5年間の検診状況
3) 気管支喘息の診断と治療

四街道地区勉強会

日時：平成12年6月28日 水曜日
19：00から21：00まで

会場：四街道市保健センター

講師氏名：木村 征夫

講師役職：大塚製薬（株）徳島研究所医学第一研究所
応用研究部長 医学博士

演題名：病的血栓と抗血小板療法

印旛郡市医師会日医認定産業医研修会

日時：平成12年6月29日 木曜日
19：00から22：30まで

会場：成田ビューホテル

講師氏名：1) 菅原 拓徳 2) 加藤 繁夫
3) 国保 能彦

講師役職：1) 前産業保健推進センター所長
2) 産業保健推進センター所長
3) 印旛郡市医師会産業医担当理事

演題名：1) 今回の法改正と産業医活動
2) 産業医の立場からみた労災保険
3) 職域におけるメンタルヘルスをいかに考えるか

第35回印旛市郡内科小児科医会

日時：平成12年7月3日 月曜日
19：00から21：00まで

会場：日本医科大学付属千葉北総病院

講師氏名：1) 上杉 竜太 2) 藤井 正大

講師役職：1) 日本医科大学付属千葉北総病院
内科
2) 日本医科大学付属千葉北総病院
胸部外科

演題名：1) 冠動脈疾患のカテーテル診断と治療
2) 冠動脈疾患の外科治療

成田地区勉強会

日時：平成12年7月18日 火曜日
19：00から21：00まで

会場：リーガロイヤルホテル成田

講師氏名：山田 和夫

講師役職：横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
精神医療センター部長

演題名：身体科領域における新しい抗不安薬治療

第3回成田糖尿病研究会

日時：平成12年7月21日 金曜日
18：30から21：00まで

会場：成田ビューホテル

講師氏名：樫田 正也

講師役職：成田赤十字病院 内科

演題名：DM治療のストラテジー2000
第49回東邦大C P C

日 時：平成12年7月27日 木曜日
18：30から20：30まで
会 場：東邦大学医学部附属佐倉病院

演 題 名：糖尿病性腎症に起因する慢性透析患者
にみられた心筋病変の一例

佐倉・四街道地区学術講演会

日 時：平成12年9月25日 月曜日
19：00から21：00まで
会 場：佐倉市健康管理センター

講師氏名：屋嘉比 康治
講師役職：帝京大学医学部付属市原病院 第3内科

演 題 名：H. Pylori 除菌と酸分泌

第50回東邦大C P C

日 時：平成12年9月28日 木曜日
18：30から20：30まで
会 場：東邦大学医学部附属佐倉病院

演 題 名：肺高血圧症を合併した自己免疫性胆管
炎と思われる一例

印旛市郡医師会学術講演会

日 時：平成12年9月29日 金曜日
19：00から21：00まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ

講師氏名：SUNGYUL KIM
講師役職：太平洋リハビリテーション病院

演 題 名：ハワイにおけるリハビリテーションの
実際

第16回日医大CPC

日 時：平成12年9月19日 火曜日
18：00から19：30まで
会 場：日本医科大学附属千葉北総病院

演 題 名：77歳女性 肺機能異常
（肺炎？心不全？）

第80回消化器病研究会

日 時：平成12年9月20日 水曜日
19：00から21：00まで
会 場：成田赤十字病院

講師氏名：黒澤 進
講師役職：帝京大学医学部附属市原病院
第三内科 講師
演 題 名：GERD（逆流性食道炎）の診断・治療
の現状と新たな展開

印旛市郡医師会学術講演会

日 時：平成12年10月5日 木曜日
19：00から20：30まで
会 場：ホテル日航成田

講師氏名：山口 武人
講師役職：千葉大学医学部 第一内科

演 題 名：消化管運動機能異常の診断と治療

74
千葉県医師会生涯教育講座
「血液製剤の適正使用」「感染症の治療」

日時：平成12年10月12日 木曜日
19:00から20:30まで

会場：成田全日空ホテル

講師名：①浅井 隆善 ②石川 信泰

講師役職：①千葉大学医学部附属病院
輸血部副部長
②千葉市立病院 小児科副部長

演題名：①血液製剤使用適正化について
②感染症の治療
—呼吸器感染を中心に—

第41回東葉臨床医学セミナー

日時：平成12年11月10日 金曜日
18:50から20:45まで

会場：ウィシュトンホテル ユーカリ

講師名：菊池 典雄

講師役職：千葉市立浜浜病院 内科部長

演題名：急性肺炎
—外来管理の実際と問題点—

第36回印旛市郡内科小児科医会

日時：平成12年11月13日 月曜日
19:00から21:00まで

会場：四街道市保健センター

講師名：末石 眞

講師役職：国立療養所下志津病院 臨床研究部長

演題名：膠原病について
—最近の話題を中心に—

第17回日医大CPC

日時：平成12年11月14日 火曜日
18:00から20:00まで

会場：日本医科大学附属千葉北総病院

演題名：胸水検査中に急激なる血小板減少をきたし死亡した82歳男性－例検査

第81回国立佐倉病院臨床病理検討会

日時：平成12年10月30日 月曜日
18:00から20:00まで

会場：国立佐倉病院

演題名：胃・腸管系の粘膜下腫瘍－最近注目される腫瘍GISTの症例報告を中心として－

印旛市郡医師会学術講演会

日時：平成12年11月15日 水曜日
19:00から20:30まで

会場：ウィシュトンホテル ユーカリ

講師名：岡田 真一

講師役職：千葉大学医学部 精神医学 助手

演題名：高齢者のうつ病の診断と治療
第51回東邦大CPC
日時：平成12年11月16日 木曜日
18：30から20：30まで
会場：東邦大学医学部附属佐倉病院
演題名：急性呼吸不全にて死亡した原発不明癌の一例

第1回千葉県北総地区脳卒中フォーラム
日時：平成12年11月24日 金曜日
18：30から20：30まで
会場：成田全日航ホテル
講師氏名：平田 幸一
講師役職：獨協医科大学 神経内科 教授
演題名：第一線で役立つ脳卒中最新の知識

第82回国立佐倉病院臨床病理検討会
日時：平成12年11月27日 月曜日
18：00から20：00まで
会場：国立佐倉病院
演題名：感染症で発症した急性進行性腎炎

第10回成田地区小児科疾患クリニックカンファレンス
日時：平成12年11月30日 木曜日
19：00から21：00まで
会場：成田赤十字病院
演題名：①本年度経験した急性腎炎の8症例
②肝機能障害を伴った再生不良性貧血の1例
③成田赤十字病院小児科で管理中の心臓疾患と川崎病について
④本年度経験したインスリン依存性糖尿病の2例
⑤小児麻疹に関する質疑

第103回北総医学会
日時：平成12年12月2日 土曜日
17：30から18：50まで
会場：ホテル日航ウィンズ成田
講師氏名：小野 正敏
講師役職：国立歴史民族博物館 考古研究部 助教授
演題名：陶器が語る中世の富と権威

第7回成田地区循環器勉強会
日時：平成12年12月5日 火曜日
19：00から20：30まで
会場：ガーデンホテル成田
講師氏名：小沢 優
講師役職：船橋市立船橋医療センター 副院長
演題名：狭心症、心筋梗塞の病理連携
一部の疾患に求められ
プライマリーケアを中心に

八街地区勉強会
日時：平成12年12月7日 木曜日
19：00から20：30まで
会場：「やまとも」
講師氏名：国保 龍彦
講師役職：国保医院 院長
演題名：外来における心身症的な患者の診察、及び取り扱い
基本的な考え方について

印旛郡医師会学術講演会
日時：平成12年12月11日 月曜日
19：00から20：30まで
会場：成田ビューホテル
講師氏名：大久保 公裕
講師役職：日本医科大学 耳鼻咽喉科 助教授
演題名：アレルギー性鼻炎の治療
第42回東葉臨床医学セミナー
日 時：平成12年12月12日  火曜日
   18:00から20:30まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：小室  一成
講師役職：千葉大学医学部内科学第三講座 助教授
演 題 名：心臓リモデリングにおけるアンジオテンシンⅡの役割

第1回脳卒中勉強会
日 時：平成12年12月16日  土曜日
   19:00から21:00まで
会 場：日本医科大学付属千葉北総病院
演 題 名：症例検討・一過性脳虚血発作（TIA）

印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年1月12日  金曜日
   19:00から21:00まで
会 場：ウィシュトンホテル
講師氏名：古部  勝
講師役職：東邦大学医学部付属佐倉病院 内科講師
演 題 名：H. pylori 除菌療法
            一H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン一

印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年1月16日  火曜日
   19:00から21:30まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：藤野  修
講師役職：日本医科大学付属千葉北総病院
            小児科部長
演 題 名：インフルエンザの診断と治療

四街道地区講演会
日 時：平成13年1月17日  水曜日
   19:00から21:00まで
会 場：四街道市保健センター
講師氏名：多部田  弘士
講師役職：四街道市立医療センター 外来部長
演 題 名：外来を中心とする呼吸器感染症の診断と治療

印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年1月22日  月曜日
   19:00から21:00まで
会 場：成田全日空ホテル
講師氏名：小室  一成
講師役職：千葉大学 第三内科 助教授
演 題 名：心不全治療におけるアンジオテンシン
            Ⅱ受容体拮抗薬の有用性

印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年1月23日  火曜日
   18:30から21:30まで
会 場：ホテル レッツ成田
講師氏名：伊藤  博之
講師役職：聖路加国際病院  産婦人科部長
演 題 名：中高年齢女性の健康
            ～HRTとスポーツを中心に～

第81回消化器病研究会
日 時：平成13年1月24日  水曜日
   19:00から21:30まで
会 場：成田看護高等専修学校
講師氏名：林  学
講師役職：千葉県対がん協会 理事
            検診センター長
演 題 名：症例検討
第43回東葉臨床医学セミナー
日時：平成13年1月24日（金）18:50から20:30まで
会場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：三本博
講師役職：コロンビア大学 神経内科 教授
演題名：“ALS”のトピックス及び米国の医療事情について

第43回東葉臨床医学セミナー
日時：平成13年1月25日（木）19:00から20:30まで
会場：ホテル日航ウィンズ成田
講師氏名：①佐々木徳秀、②今増純孝
③井上雄一
講師役職：①千葉県社会保険事務局
保険課 指導医療官
②千葉県社会保険事務局
保険課 医療事務指導官
③千葉県医師会保険担当理事

第42回東邦大CPC
日時：平成13年1月25日（木）18:30から20:30まで
会場：東邦大学医学部附属佐倉病院
演題名：急性腹症を呈した大動脈炎症候群の一例

印旛市郡師会学術講演会
日時：平成13年2月8日（水）19:00から20:40まで
会場：成田全日空ホテル
講師氏名：篠田博光
講師役職：国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 消化器科 部長
演題名：B型・C型慢性肝炎の将来の展望

第18回日医大CPC
日時：平成13年2月13日（火）18:00から20:00まで
会場：日本医科大学付属千葉北総病院
演題名：MPO-ANCA陽性で急激に多臓器不全を呈した一症例

佐倉地区講演会
日時：平成13年2月13日（火）19:00から20:30まで
会場：佐倉市健康管理センター
講師氏名：平野道人
講師役職：慶應義塾大学医学部内科学 講師
演題名：リウマチ性疾患の診断と治療—最近の動向—慢性関節リウマチを中心に

第44回東葉臨床医学セミナー
日時：平成13年2月16日（金）18:50から21:00まで
会場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：坂本要一
講師役職：東京慈恵会医科大学附属柏病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 助教授
演題名：糖尿病診断・治療の進歩
第4回成田糖尿病研究会

日時：平成13年2月16日 金曜日
18:30から20:30まで

会場：成田ビューホテル
講師氏名：黃 重毅
講師役職：成田赤十字病院
演題：糖尿病性腎症と高血圧

主治医研修会

日時：平成13年2月27日 火曜日
19:00から22:00まで

会場：佐倉市健康管理中心
講師氏名：①遠山 正博 ②国保 能彦
講師役職：①印旛郡医師会介護保険担当理事
②国保病院 院長

第82回消化器病研究会

日時：平成13年2月21日 水曜日
19:00から21:00まで

会場：成田赤十字病院
講師氏名：鈴木 康夫
講師役職：千葉市立医学部付属病院
第二内科 助手
演題：便通異常の病態について

第45回東葉臨床医学セミナー

日時：平成13年3月2日 金曜日
18:50から21:00まで

会場：ウィシュティホテル イーカリ
講師氏名：野原 修
講師役職：東京慈恵会医科大学付属病院
演題：スギ花粉症発症のメカニズムと治療について

四街道地区講演会

日時：平成13年2月21日 水曜日 19:00から20:30まで

会場：四街道市保健センター
講師氏名：岡崎 亮
講師役職：帝京大学医学部附属病院
第三内科 講師
演題：骨粗鬆症の薬物療法

第37回印旛市内科小児科医会

日時：平成13年3月7日 水曜日 19:00から3:30まで

会場：八街総合病院
講師氏名：中尾 雄二
講師役職：荻窪総合病院 耳鼻咽喉科 医長
演題：睡眠時間無呼吸症候群の診断と治療

第83回国立佐倉病院臨床病理検討会

日時：平成13年2月26日 月曜日 18:00から20:00まで

会場：国立佐倉病院
演題：多発性転移で発見され急速に進行した甲状腺癌の一例

三郡医師会航空機対策協議会研修会

日時：平成13年3月13日 火曜日 18:30から21:00まで

会場：ホテル日航ウィンズ成田
演題：救護活動の実技講習会
①三角巾の使用法
②トリアージの実際
第19回日医大C P C

日時: 平成13年4月17日 火曜日
18:00から20:00まで

場所: 千葉看護専門学校

演題: 中年者の突然死

第2回佐倉地区講演会

日時: 平成13年5月22日 火曜日
19:00から20:30まで

場所: 佐倉市健康管理センター

講師氏名: 古部 勝

講師役職: 東邦大学医学部附属佐倉病院 内科 講師

演題: H. pylori 除菌療法の経験

第46回東邦臨床医学セミナー

日時: 平成13年4月10日 火曜日
18:50から21:00まで

場所: ウィステット・ホテル ユーダリ

講師氏名: 伊藤 晴夫

講師役職: 東京厚生病院整形外科部長

演題: 変形性関節症の成因と治療

第83回消化器病研究会

日時: 平成13年5月23日 水曜日
19:00から21:00まで

場所: 成田赤十字病院

講師氏名: 山森 秀夫

講師役職: 国立習志野病院 副院長

演題: 脳の診断と治療

第54回東邦大C P C

日時: 平成13年5月24日 木曜日
18:30から20:30まで

場所: 東邦大学医学部附属佐倉病院

演題: SLEと抗リン脂質抗体症候群の治療

中に腹部腫瘤と虚血性心疾患を併発した一例

--治療の優先順位の決定--
印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年5月29日 火曜日
19：00から20：30まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：柳下 次雄
講師役職：東邦大学医学部付属佐倉病院
泌尿器科 講師
演 題 名：前立腺癌の早期診断
～PSAの意義と評価～

第47回東葉臨床医学セミナー
日 時：平成13年6月19日 火曜日
18：50から21：00まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：畑 典武
講師役職：日本医科大学付属千葉北総病院
集中治療部 部長代理
演 題 名：虚血性心疾患との識別が必要な胸痛について

印旛市郡医師会学術講演会
日 時：平成13年6月12日 火曜日
19：00から21：00まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：林 泉
講師役職：癌研究会付属病院 呼吸器内科
副部長
演 題 名：市中感染症の最前線

第104回北総医学会
日 時：平成13年6月30日 土曜日
18：00から19：30まで
会 場：ホテル日航ウィニス成田
講師氏名：山崎 修道
講師役職：元国立感染症研究所所長
演 題 名：輸入感染対策—世界ポリオ接種を目指して

第20回日医大CPC
日 時：平成13年6月12日 火曜日
18：00から20：00まで
会 場：日本医科大学付属千葉北総病院
演 題 名：慢性心不全による乏血性心不全
に多臓器障害を合併し、突然死した一例

第48回東葉臨床医学セミナー
日 時：平成13年7月5日 木曜日
18：50から21：30まで
会 場：ウィシュトンホテル ユーカリ
講師氏名：新海 汊
講師役職：千葉大学大学院医学研究院
基礎代謝治療学 教授
演 題 名：結合組織異常症

第2回八街地区講演会
日 時：平成13年6月14日 木曜日
18：30から20：30まで
会 場：八街市総合保健センター
講師氏名：村上 正人
講師役職：日本大学医学部付属板橋病院 講師
演 題 名：内科疾患とうつ
～内科で心の問題をどう診るか～

第84回国立佐倉病院臨床病理検討会
日 時：平成13年7月9日 月曜日
18：00から20：00まで
会 場：国立佐倉病院
演 題 名：腸管系にβ 2ミクログロブリン沈着をきたした長期透析例
第5回成田糖尿病研究会

日時：平成13年7月13日 金曜日
18：30から21：30まで

会場：成田ビューホテル

講師名：①浅山 千加志 ②渡部 美博

講師役職：①浅山眼科医院院長 ②成田赤十字病院眼科部長

演題名：1.内科－眼科との病診連携
——眼科開業医よりの提言——
2.内科医に必要な糖尿病性網膜症の知識
——内科医と眼科医の連携——

第55回東邦大CPC

日時：平成13年7月26日 木曜日
18：30から20：30まで

会場：東邦大学医学部附属佐倉病院

演題名：当院における喘息死

印旛市郡医師会学術講演会

日時：平成13年7月18日 水曜日
19：00から21：30まで

会場：成全日空ホテル

講師名：藤田 優

講師役職：浦崎市立医療センター皮膚科

演題名：最近の蕁麻疹の問題点
第1回千葉県災害医療セミナー報告

担当委員 後藤 良顕
塚田 正男

日 時 平成12年7月29日
場 所 旭中央病院
出席者 追川 孝雄 後藤 良顕
塚田 正男 伊藤 俊夫
古川 玄教

(1) 第1部 基調講演
＊災害医療における国、県、災害拠点病院、医師会の役割と連携
厚生省健康政策局指導課
課長補佐 原口 弘幸
国、県の対応について、災害拠点病院の役割について具体的にまた積極的意味について説明。実践的に災害救助を考えると自体、災害拠点病院、地域基幹病院、医師会との協力が求められる。この会に病院長の出席が少ないことは、災害医療に何が求められるか、何が必要か理解できないので問題です。
＊災害時のconfined space medicine（瓦礫の下の医療）

防衛庁統合幕僚会議事務局
二等空佐 山田 憲彦
FEMAの紹介。 阪神淡路大震災で瓦礫の下の医療が必要なことがよく指摘され、対策がいろいろなされている。アメリカのconfined space medicineでは、種々の救助器材が用意されている。二次災害には十分な対策が取られている。二次災害で、医療従事者や救助者が負傷した場合は第一優先順位にな

(2) 第2部：旭中央病院見学
＊災害医療研修棟、災害備蓄倉庫、ヘリポート、救命救急センター
＊救助資器材の展示、

(3) 第3部：実体験セミナー
＊confined space medicine（瓦礫の下の医療）
＊トリアージ
トリアージに正解はない。
場所、状況、条件によりトリアージの等級は変わる
＊消防ヘリによる患者搬送

(4) 懇親会
自治体総務課など災害担当者の参加がなかった。
消防に任せているだけでは、実践が理解できない。
地域基幹病院長の出席が少ない。
医師会救急担当者の参加が少ない。

県、災害拠点病院、地域基幹病院、医師会、自治体、消防、警察、自衛隊との連携を実践的に図るために、各機関の意識の改革と緊密な意思の疎通が求められる。医師会として、各機関に積極的にアプローチして意識改革を図る必要を感じた。
第2回救急・災害医療対策委員会報告
担当理事 塚田 正男

日時 平成12年9月14日
場所 医療センター
議題
（1）報告
1. 第1回千葉県災害医療セミナーについて
県主催のこの種のセミナーの開催は全国的にも例をみない画期的な会である。
350名以上参加 ビデオ鑑賞
2. 千葉県教急・災害医療連絡協議会について
平成12年8月2日開催
議題 1. 会長、副会長選出
2. 部会構成
3. 部会長選出
4. 救急・災害医療に係わる調査の実施について
平成13年度からスタートする県の新保険医療計画の施策を具体的に実行に移し、救急・災害の体制を充実・強化するアクションプランを策定するため、救急・災害医療の状況を調査する。
調査時点 平成12年10月1日
救急医療協議会の設置状況について
全国の状況報告
千葉県では、保健所・消防を中心に協議会が持たれているが、その実態は不明。

（2）議事
1. 本会主催防災医療研修会
放射線汚染事故対策について
放射線研究所の報告 千葉市医師会で講演してもらった
東大 前川教授の講演
12月9、10日 或いは 1月20、21日予定
2. 救急医療マニュアル等の見直しがについて

各委員の意見
＊震災編、風水害編、大規模事故編の内容にする
＊地区医師会においても大規模事故項目を入る
＊行政無線回線図を新たなものに
＊費用弁償に関する覚書を新しいものに
＊災害拠点病院の表示とアクセス方法についてホームページ、Eメールアドレスなど各地区から拠点病院までの所用時間を把握しておく
＊情報網と命令系統図
＊国立病院などの救護班
＊医薬品の調達先一覧
＊日赤県支部の活動、機材
＊中央防災センター備蓄物質一覧
＊県下救急告示病院一覧表
＊地区医師会が自治体と災害医療活動の協定を結ぶに当たり障害になること
　① 大規模事故に新東京国際空港大事故を明記する
　② 死亡時の補償「災害救助法」の規程について明記されていない
　③ 災害時出動時および訓練参加時の費用弁償について、予防接種などの出勤費との兼ね合いを考慮すべき
　④ 班編成について
　　救護所への出動と、災害現場への出動では、班編成に差が出る
　⑤ 品材調達および災害災害の整備については、益子先生のご意見を参考にする
＊トリージタッグの付ける位置について
　右手、左手、右足、左足の順にかける
＊傷病者識別札をトリージタッグとする、選別をトリージとする
　罹災地は被災地、罹災者は被災者にする
＊優先度３の処置について
　仲間同士の処置を追加する
＊その他により出動する場合、この場合にも補償を求めるとはボランティア活動の意義が失われるのではないか。
＊薬品の変更、追加
県医療整備課 石渡氏の意見

（1）死亡時の補償について
   公的機関の医師の死亡時補償に準じる

（2）出動時の費用について
   保険福祉共済課が毎年基準額を検討しているが、国の補助金であり各県との兼ね合いもあり他県と同様になる。千葉県はその額に1.25倍にしている。0.25分は千葉県の補助額である。この時短大きな変化は期待できない。これより増額することは、地方自治体の負担になり、災害が長期化すると負担が多額になるので増額は困難でしょう。

3. 小児科救急医療体制について
   専門部会で検討されており、当委員会で検討する筋ではない。
第4回救急・災害医療対策委員会報告

担当理事 塚 田 正 男

日時 平成13年2月8日

1. 報 告

（1）平成12年度千葉県医師会防災研修会について
1. 「緊急時被爆医療について」
   東大教授 前川和彦
2. 「緊急時被爆医療と東海村臨界事故について」
   放射医学総合研究所 明石真言

（2）第1回千葉県救急・災害医療協議会小児救急医療体制検討部会について
平成13年1月31日
1. 県民の要望としては、一次医療から小児科専門医に診察して欲しい県当局は、この要望にこたえるために実態調査をした。

一次救急は小児科医師の絶対数の不足なため、千葉市以外でのこの要望を満足している地区はない。

松戸市立病院は一次から二次まで面倒をみる。このような体制を全県的にしてはどうかと提案された。大学は出張先病院の問題があり小児科医の不足なため協力はできない。

2. 1. 問題について
   航空機事故対策について
   航空事故対策については、全く検討されていないので、2月末に三郡医師会航空機対策協議会、歯科医師会協議会、公団、消防連絡協議会、成田市に現状を伺いに行く予定。
   県として何が出るか検討したい。現実には県に通報されるシステムになっている。

② 放射線災害について
   原子力安全委員会の指針に沿う対策を検討する

③ 協定書
   医師会、歯科医師会、薬剤師会と締結されているが、それ以外の団体と締結する

1. 看護協会 2. 接骨師
3. 労働福祉協会（労災病院等）
4. 国立、県立、市立以外の病院

2. 議 事

（1）救急・災害医療対策事業計画案について
   医療・防災等活動計画
このなかで、災害時の死体検案、検視体制について質問したところ、県警察医師会では検討されていない（守理事）。
名古屋空港墜落事故時の活動に付いて報告して、可及的に速やかに体制を確立するように守理事にご要望した。
三郡医師会の検安体制確立に向けての活動においても報告した。
(2) 災害医療マニュアルの見直し
＊ファイル形式は費用がかかるので、連絡網などの変更することが多い箇所は、別刷りにする。
＊費用弁償
国の災害救助法により定められる。2年ごとに改正される。千葉県はこれの1.25倍になっている。改正されると500円はどのアップになる。
＊トリアージタグは右手首、左手首、右足首、左足首の順に掛ける。
＊優先度３：
余裕がない場合は以下を削除する
看護婦、接骨師などの医療行為について、医療法との関連で疑問がある。
仲間同士についても同様で、これらは取り扱い細則などで記載してい

＊情報伝達
関連官庁、ＮＴＴなどについて変更をする
これ以外の公的通信ネットワークの整備されている3病院も記載する
＊医師会の情報伝達について
本部長、支部長間などの伝達について、実質的に検討すること
災害時の役に立つ通信手段について検討しておくこと
＊第一線にストックすべき医薬品の種類及び数量
救護所は市町村が責任をもって当たる。これについては、保健所にストックされている。500人から1,500人分のストックがある。
救急セットとして5から10セット用意されている。
薬品棚が備蓄基地になっている
救護活動用の医薬品対策は地区医師会が準備する
県医師会に備蓄しても役立たない。
医薬品の管理は向精神薬など管理上の問題があり、医師会で備蓄できない薬品もある。
小学校などに、家庭備蓄医療薬剤などを備えておくことも有用だ。
第1回自賠責・労災医療検討委員会報告

担当理事 塚田正男

平成12年11月9日

医師会長顧問
「新基準採用率を高めるための方策の検討」

(1) 委員長・副委員長選出
委員長 三橋 稔
副委員長 三枝 一雄

(2) 会長顧問について
事故は外傷の17％で、自動車事故はその内5％で、全外傷の1％です。そのため、会員の関心が大変低いのが現状です。
関東では、神奈川県、山梨県、埼玉県、群馬県が新基準を採用していません。全国的には、その他京都、兵庫、岡山、愛媛、沖縄県で採用していません。しかし、北京、4月までには、兵庫県、愛媛、沖縄県では採用されます。京都、岡山は強く反対しています。
新基準は、別添のように入院では減額になるため病院で採用しているところが少なくです。現在千葉管内では24％から28.4％です。
新基準採用を高める方策として、ポスターを作成する。A4判で、文面は下記のようにする。

(3) 自賠責での問題点について
○損保会社によっては、120万円以上かかる重傷の入院患者に障害診療を受けるように勧めている。被害者に取り分が少なくなってると説明しているようです。この件について、次回委員会までに調査して各委員から報告してもらう。
過労相殺の場合と自転車事故の場合には、障害診療が可能だろうというのが、医師会の立場です。損保会社は障害診療3割部分を、支払い方針のようです。
○朝日新聞の「自動車事故には障害診療が使えます。自由診療は割高になります。」という記事に対し、医師会は、抗議した。その後、訂正記事がでたが、不十分なもので、
○警察に提出する診断書に、コピーを使う損保会社がある。
（4）自賠責診療費に関する疑義について

1）「頚椎捻挫」で、理学療法（簡単）算定できますか。

算定できます。複雑と簡単の差は時間の長さです。

算定できるのは、どのような場合でしょう。事故から一週間後の急性期が過ぎていなければよい。時期を明記してあると良い。

算定できる場合、さらに消炎鎮痛処置の併施は如何でしょうか。

保険診療では、同一部位については認められていません。しかし、異なる部位例えば、肩なら認められます。部位を明記することが求められています。

ここでは、自賠責診療ですので困く考えないで、1事故で、他の部位にまで、波及するのは当然ですので、認められると考えたい。

2）「頚椎捻挫、頸部肩関節痛」または、「外傷性頸肩関節症候群」の傷病名で、介護支援142点と消炎鎮痛処置35×1.5倍（肩）の両方算定できるでしょうか。

同一部位でなければ算定可能です

3）受傷当初からの入院外患者で「頚椎捻挫、腰椎捻挫」の傷病名にて、理学療法（複雑）と消炎鎮痛処置の両方を算定できるでしょうか。

受傷後1週間以上経った慢性期であって、適応があれば理学療法（簡単）が算定できます。なお、部位を記載して下さい。

4）再診時療養指導管理料は、傷病名・治療内容などにかかわらず、通院の都度毎回請求できるでしょうか。

医療上必要があって指導した場合は、その都度算定できます。

5）H12.5.1改正で理学療法を1日2回以上実施した場合、1回目の所定点数に10点を加算して算定できるようになりましたが、この加算は外来患者に対して、どのような場合に適用できるでしょうか。

理学療法を計画して、医学上の1プログラム1クールを1日2回行う必要があつて実施した場合は加算できます。なお、1プログラムを午前半分、午後半分に分けて実施した場合には、1日2回とはなりません。

（5）今後の予定

1）損保会社で、保険診療を薦めているケースを報告

2）次回委員会開催は、次年度にする。
第2回自賠責・労災医療検討委員会報告

担当理事 塚田正男

平成13年4月5日

1．挨拶　鈴木副会長
自賠責任と通勤労災の適用になるのか、損保会社と見解の相違のあるケースを経験した。これからはこのような例が増えるでしょう。

2．議題
(1) 千葉県損保保険医療協議会について
（報告）：別添参照
1．ポスター作成について
損保保険会社は公取委員会に取り上げかねないと判断して保留になった。これは文案に「この損害保険で治療を受けるよう公平な機関によって取り決められた制度ですので安心しておらかり下さい」があることに、損保会社側が反対したのが真相です。そこで、県医師会として日本医師会高瀬理事に全国的にアピールする文面を作成してもうように要望する。
新基準の採用を促進するために、文案の「損保保険会社」を削除して、「公平な機関によって取り決められた制度です。安心しておらかり下さい」というポスターを作成してアピールする。

2．健保の強要について
各約款の内容が少しずつ異なるため、個々の対応にならざるを得ません。東京海上火災「T A P」については、別添のとおりで努力義務で強制ではない。代理店あるいは現場担当者の問題です。

スピード違反、追い越し、センターラインオーバー以外は、自賠責で100％近くカバーされます。
問題の会社は、日産、日動、大東京、農協です。
過失相殺も自賠責では関係しないです。

3．交通事故治療費請求に関し診断書のコピーの扱いについて
損保の方からは、コピーの要請していない。
自用の場合は押印不要、ゴム印の場合は署名が必要になる。

4．新基準案採用についてのQ＆Aについて
次回はこの件について、検討したい。
Q＆A（7)、（9)、（30）は検討すべき項目です。

5．新基準案の採用状況について
初年度26％は良好な数値です。今後の課題として、ポスターなどで、向上を図りたい。
自算会は問題ないが、損保会社は、新基準を採用したいとは本音のところでは思っていない様子です。

(2) 医師会長からの質問事項について
ポスターなどを作成して向上を図る。
請求の簡素化については、次回検討とする。

(3) その他
むち打ち症の1年8ヶ月後に脳梗塞の因果関係をみとめる。CTをする。
印旛郡医師会の救急体制について

担当委員 塚 田 正 男
後 藤 良 幹

(1) 印旛郡は、5市・6町村から成り立っている。
その守備範囲は広大である。また多くの市町村に跨っているので、その対応も一様でないことが複雑にしている。

(2) 一次救急体制について
*夜間休日病診療所は、18年ほど前5市に開設された。
しかし、印西、八街では病院が開設され、特に日本医大病院や八街総合病院の開設により急病診療所の利用者が少なくなった。さらに、市当局の積極的な支援が得られなかったこと、また会員の高齢化も関係して印西、八街の夜間休日急病診療所は閉鎖された。
*受診状況をみると、表の通り成田、四街道では、在宅内科の当番医制度がないため受診者がすくない。全体としても住民の信頼に応えているのか疑問です。
*一次救急の問題点として、医療設備が最低限のものが準備されていないこと、また医師1名、看護婦1名では対応できる医療が制限されることなどである。これでは住民の求めている医療に対応出来ていない。
また、受診者の大部分を占めている小児救急には専門医が少ないため住民の要望に応えられていない状況です。

(3) 二次救急病院輸番制について
*二次救急体制についてみると、3年前より救急病院の輸番制を開始した。
11年度の利用状況は10,890人である。急病診療所からの紹介が殆どないことは、住民は地元の病院に直接受診していることを示している。特に成田赤十字病院では30,000人、東邦大佐倉病院では4,210人、日本医大千葉北総病院では2,308人受診していることが、印旛郡の救急体制はこの3病院を中心にして支えられていることを示している。

(4) 一次救急体制の有り方について
*多くの会員は、この程度の医療レベルでは基幹病院の救急患者の受診者数の削減にならないので急病診療所の意義について懸念的である。
*どの程度医療のレベルを上げるべきなのか検討するべきだと思う。成田市では、3年後に急病診療所が新築されるのに伴い設備も少し充実する予定で、内科、外科、歯科で診療します。平日夜間の診療と休日昼間の内科診療など検討していきたい。
*基幹病院の医師も一次救急診療所での診療は病院の救急患者数の減少に繋がらないので、補助金をもらって病院で全部面倒を見たほうが病院の経営改善につなが
ると考えていた。しかし、病診連携が病院経営に重要な要素になってきたため、一次救急診療所に期待していると言うようになった。
※このような意味でも、先ほどの3基幹病院を核にした救急体制を構築することが期待される。
　特に小児救急体制を考えると、開業小児科医の絶対数が不足している現状では3病院を中心にした体制を巡討すべきでしょう。
　このためにも、病病連携、病診連携を深め、相互の意思疎通を図りたい。
　京酪地区医師会懇談会が平成13年2月24日に開催され、その席で各医師会の救急体制について話された。
※千葉市では外科系二次救急病院の体制を構築の為に努力している

※市原では、帝京大市原病院が一次から三次まで取り扱っていたので帝京大病院が収縮してきている現状では各科で問題が発生してきており苦感している。
※八千代市では東邦大、日本医大などの先生の応援を得て一次救急体制を整えている。二次については女子医大病院が平成16年に開設されそうなので期待している。
※習志野市は、活動できる会員が少ないので一次救急とくに小児救急について対策が立てられない。
※小児救急については、千葉市と船橋市では体制が整っているとされているが、千葉市では2箇所の市立病院の努力で対応できているのが実状です。船橋市では、4病院で対応しているが全て小児科医が診療しているわけではない、やはり問題がある。
# 印旛市郡医師会の救急体制

## (1) 一時救急体制

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>佐倉地区</th>
<th>成田地区</th>
<th>四街道地区</th>
<th>印西地区</th>
<th>八街地区</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>在宅当番</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>診療日</td>
<td>日曜・祭日</td>
<td>日曜・祭日</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>診療科</td>
<td>内科系 1</td>
<td>外科系 1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>診療時間</td>
<td></td>
<td>9時～5時</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1日平均受診者数</td>
<td>50人</td>
<td>9人</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>内科系</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外科系</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>休日夜間診療所</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>診療日</td>
<td>日曜・祭日</td>
<td>日曜・祭日</td>
<td>日曜・祭日</td>
<td></td>
<td>中止されて</td>
</tr>
<tr>
<td>診療科</td>
<td>内科系</td>
<td>内科系</td>
<td>内科系</td>
<td>中止されて</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>診療時間</td>
<td>年末年始</td>
<td>年末年始</td>
<td>年末年始</td>
<td>いる</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1日平均受診者数</td>
<td>9人</td>
<td>3.4人</td>
<td>10時～7時</td>
<td>2.8人</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>内科系</td>
<td></td>
<td></td>
<td>10時～7時</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外科系</td>
<td></td>
<td></td>
<td>10時</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>68人</td>
<td>11人</td>
<td>2.8人</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

*問題点*

(1) 住民は一次救急体制の充実は望んでいるか

佐倉は住民が充実を望んでいると考えているが、市は財政の問題で積極的でないようだと推察している。

成田では住民は救急の充実を望んでいるが、一次救急体制の充実を市の一次救急体制に望んでいるのか、或いは成田赤十字病院に望んでいるのか不明です。成田市は日曜、休日の昼間の内科系診療を行えば約30名ほど救急を望むと考えています。是非実行していただきたい。四街道は、内科小児科以外の先生にもお願いしているが、90％は内科小児科の患者です。しかし、利用者が少ないため、何回も同じ面会をされれば、患者の負担が大きいと考え、診療を週1回行うことが望ましい。

(2) 一次救急診療所はどのような体制が望ましいか

診療科
内科系、外科系、歯科が必要か

佐倉市はこの3科を整えている

成田市は2.3年に保険医療福祉センターとして総合福祉センターが開設される。そのときには、この3科で救急にあたる。

診療日
日曜・祭日・盆

成田市では、昼間診療をしているのが外科系、歯科で、内科系の診療が行われていない。土曜
日の診療も必要でしょう。
平日夜間の診療も考慮されるべきです。

診療内容 一次救急として、医療設備が最低限のものでしかなく、また医師 1人 看護婦 1人では対応できる医療も限られてくる。
成田市では、この程度の診療内容では日赤病院の救急外来の軽減にならないと医師会員、日赤病院も考えている。

当番医 高齢者の問題を考慮する時期にきている
日赤病院、大学病院医師の協力を期待したい。

二次病院 転送先の病院の協力を図る。基幹病院との連携を実践的にする。

(2) 二次救急体制
＊救急病院輪番制
北部と南部に二分して、輪番制をとっていく。
取り扱い患者数については、別添の通りである。

四街道、八街地区には、基幹病院がないため、成田赤十字病院、東邦大佐倉病院、日本医大千葉北総病院が補完している。
受診者は10,000人を越えている、今後増加するものと考えている。日本医大千葉北総病院と東邦大佐倉病院は地域のセンター病院として機能していることが良く示されている。
＊成田赤十字病院
取り扱い患者数は年々増加しているのは、別添の通りである。年間30,000名で

す。
1日の外来患者数が1,700名であるので自家製の救急患者数はどのくらいの割合になるのか検討されるべきでしょう。しかし、この救急患者数の削減の為に医師会も協力すべきです。

病院医師は以前には、医師会の一次救急体制では患者数の削減にならないと一次救急体制には批判的で、それよりも補助金をもらって全国面倒を見たほうが病院経営に貢献すると考えていた。最近は病院連携の立場から、軽症者は医師会側で診療してもらいたいと考えているようですね。

(3) 今後の課題
＊一次救急体制の充実
住民の病院指向との係わりについて考えると、診療内容をどの程度にすべきか。
一次救急体制の必要性について検討されるべきでしょう。また診療内容のレベルアップが可能かも検討していきたい。

印西地区と八街市では、一次救急体制が中止されている。利用者が少なく、その存続の意義について疑問が出たこと、或いは15年前と比べると病院が進出してきて、住民もそちらに受診するので一次救急体制の意義を失った。
また会員の高齢化、自治体の財政的な負担のない援助が期待できなかったことなどがこの一次救急に対する熱意を失わせたと思う。

しかし、現在医師会員の若手が増えてきているので住民の意向を確認して一次救急体制について検討をすす時期にきていると考える。この点について自治体との協力をはかかる。
印旛市駅前病院内で3箇所一次救急診療所を置くことが望まれる。現在佐倉、成田、四街道にあるが地域に偏りがあるので、八街と印西地区の受診者対策を検討すべきでしょう。

医師会員の高齢化を考慮して、基幹病院の医師の協力を頼む。平日夜間の診療も考慮するとききました。住民のニーズを的確に捉えて対策を練ること。

転送先の病院を、2次輪番病院で受け持ってもらう。

しかし、一次救急患者の大部分を占める小児救急についてみると、住民は小児科専門医に受診したいと願っている。現実には県下どの地域でもこれに対応できている所はない。小児救急患者は外来処置や入院の必要な患者が多いことなどを考慮すると一次救急体制のレベルアップをどの程度図るべきか、はいは小児救急専門センターに任せるべきなのかどうか。いちいち検討すべきことが多いようです。

成田赤十字病院小児科部長の窪山和徳先生が「成田赤十字病院誌」で、下記のように述べられています。11年度の救急患者数は8,642人で、外来患者数の26.3%を占めている。その内入院患者数は482人（5.6%）外来処置必要数2,761人（28.6%）紹介患者数200人（2.3%）です。小児救急医療の問題点について次のように述べています。

1）軽傷者が多いが入院や処置を要する患者も少なくない
2）育児に不安を持つ母親の増加
3）小児専門の医療を希望する養育者が増加している。

4）開業小児科医による時間外初期治療の崩壊
5）夜間、休日救急診療所の設置が十分ではない
6）一般病院で救急医療を連日行っている施設が少ない
7）小児科医の減少
8）救急救命センター、こども病院、大学付属病院での救急医療への積極的な参加が少ない

9）小児科医療の経済的不採算

小児救急の問題点は正に一次救急体制をどのように構築すべきかという問題になります。住民の希望に応える救急体制は一次救急医療のレベルアップだけでは解決できないようです。

＊二次救急体制について

輪番制二次救急病院の当番表を、各医療機関に提示して住民に周知徹底を図る。

輪番制病院と一次救急診療所との連携を密にする。

輪番制の病院があったとしても、地域の医療機関に受診したいという住民の要望があるので、日赤病院や大学病院への受診者がおおくなっている。その点からも、八街地区、四街道市の対策を検討したい。

印旛市駅前病院内の救急医療体制は、成田赤十字病院、日本医大千葉北総病院、東邦大佐倉病院を三つの核とする救急医療体制を構築することが現実的な対策でしょう。

輪番制病院と成田赤十字病院、大学病院との病病連携を図る

寝たきり老人や末期癌患者の終末期の医療についても、その収容病院について検討したい。
看護学校担当理事報告

椎名芳男

＜平成12年度学事報告＞

4月10日 各論実習（9月8日まで）、生徒定期検診
12日 役員会

5月6日 2年生スポーツ大会（ボンベルタ・ポーリング）
8日 前校長・副校長歓迎会
9日 役員会
12日 運営委員会

6月6日 役員会
7日 会計監査

7月6日 保護者会

8月31日 県庁医療整備課訪問（会長、校長、副校長、教務主任）
9月6日 役員会
10月10日 役員会
11日 将来等検討委員会

16～26日 特別養護老人ホームと精神科見学実習
26日 看護学校長連絡会議

11月2～4日 修学旅行（沖縄）
8日 役員会
30日 看護婦養成所指定取り消しの提出

12月8日 千葉県立看護高等学校生徒事例学習発表会
13日 役員会・忘年会
1月5日 閉校式・記念誌の打ち合わせ会
9日 役員会
23日 千葉県医療整備課課長・看護学校担当者の学校訪問

2月13日 役員会
14日 運営委員会
25日 検定試験（36名受験）

3月1日 卒業式（進学コース13名）
6日 役員会
7日  会計監査
7日  運営委員会
9日  看護婦学校指定取消受理報告
15日 検定試験合格発表（3名合格）
15日 閉校式
25日 職員歓送会
31日 学校教職員退職辞令

4月2日 学校事務より医師会事務へ鍵・備品・書類の引継

＜平成13年度事業計画＞

学校関係

4月に千葉県へ財産処分報告書の提出
10月以降千葉県担当者の旧校舎現状視察訪問

旧校舎の整備と再利用

警備保障会社との契約
後かたづけの臨時職員採用

1階部分の成田社会福祉協議会への貸し出し
2階教室（奥の半分）への災害救急使用時の備品の搬入

同所への学校備品の搬入整理

2階教室（手前）を会議室として利用するための整理
図書室と和室を繋げ、図書室兼小会議室に改装

3階実習室の災害時患者一時収容の準備整理
学術担当理事報告

岩井力

1. 平成12年度地区医師会生涯教育担当理事連絡協議会
   ・平成12年6月14日 千葉県医療センターにて

2. 千葉県医師会医学運営委員会
   ・平成12年9月20日 千葉京成ホテルにて
   千葉県医師会医学委員会について協議され、
   平成12年11月25日に第1回千葉県医師会医学委員会創設記念大会が行われた。

3. 千葉県医師会生涯教育委員会
   ・平成13年1月25日 ホテルニューツカモトにて
   平成12年度千葉県医師会学術奨励賞に柏地区の宮地直丸先生と松戸地区の北野邦孝先生が
   受賞された。
   また、日本医師会生涯教育制度申告率の上昇を目的に自動一括申告制度になった。

4. 印旛市郡医師生涯教育委員会
   ・平成12年6月9日 成田看護学校にて
   市郡医師会学術講演会は月に1回の頻度で行っていく予定であり多科の先生方関心をもって
   もらえる演題を選んでいく事などが協議された

5. 印旛市郡学術講演会の司会
   月に1回の頻度で高血圧症、高脂血症、慢性肝炎、消化管運動機能異常、アレルギー性鼻炎
   などの講演会を行った。また、11月に保険適応となったビロリ菌の除菌治療および実施
   医家からの要望の高いインフルエンザの講演を1月に臨時に行った。
福祉担当理事報告
岩井力

1. 県医師会互助会委員会
   平成12年9月7日と平成13年1月18日の2回行われた。今まででいくと赤字になるのは
   必至の状態で、今後も互助会を存続させていくためには弔慰金は減額せざるを得ないという
   結論に達した。
   弔慰金の額が20年以上100万円に減額され遺児養育資金および奨学金は1人につき120万円
   に増額された。

2. 印旛郡医師会旅行（平成12年9月23日～9月24日）
   7人の先生が参加され、四国・高知・松山・道後温泉の旅。

3. 税務講習会（平成13年2月1日）
   成田税務署の職員の方を講師に迎え、会員の税務対策の講演をしていただいた。

4. 懇親会の司会
   市郡医師会主催の各会の懇親会の司会。
公衆衛生・予防接種・学校保険担当理事報告
柴 田 敦 夫

＜平成12年度活動報告＞

1. 成人に対するポリオワクチンの個別接種について
   5月16日に厚生省よりポリオワクチンの予防接種実施見合わせの通知があり、それに関連し、成人に対するポリオワクチン個別接種の個別接種の影響は、関係市町が実施すべきであるという原則を再確認し、今後、市町村より協力の依頼があった時は、あらためて協議することに決めました。

2. 予防接種事故対策委員会について
   「健康被害」と「接種事故」を分けて考えることが必要という認識に立ち、実際に事故が起こった際、関係者と速やかに連絡がとれるよう、各市町村と協議しておくことになりました。

3. 予防接種についての契約書の統一
   印旛市商務会が各市町村と交わしている契約書の表現に差異が生じているため、その統一をはかりました。特に事故処理の段階で市町村によっては「故意または過失がない限り」となっている箇所を「故意または重大な過失がない限り」と、統一するようにしました。

4. 小児生活習慣病の早期発見と予防
   各市町村の取り組みがまだ足並みがそろっていなかったため、学校保健会長の委員会で検査項目を次のようにそろえました。
   コレステロール検査：血圧・肥満度・総コレステロール・HDL
   貧血検査：RBC・Hb・Ht・Fe

5. 感染症についての速報
   ① 9月に佐倉保健所管内で発生したO - 157について、ファックスにて各地区へ速報しました。
   ② 3月に県医療センターで公衆衛生担当理事、健康基準管理対策委員会合同協議会が開催され、そこで、当県の今冬のインフルエンザ発生状況が、例年と大きく異なる傾向を示していることが報告されたため、ファックスにて各地区へ速報しました。

＜平成13年度活動計画＞

1. 第32回全国学校保健・学校医大会への取り組み
2. 小児生活習慣病の事後処置
3. 予防接種（とくに麻疹）の接種率向上
4. 学校保健会及び校医の役割
病院・二次救急輪番制担当理事報告

藤倉 国 男

印旛郡市第二次救急医療協議会

平成12年6月8日、印旛郡市第二次救急医療協議会委員の名簿を作成（資料1）。平成12年7月28日、平成12年度印旛郡市第二次救急医療協議会を佐倉市健康管理センターにて開催。副会長の改選の件について、医療機関を代表して佐倉中央病院理事長安村氏、市町村を代表して佐倉市保健予防課伊佐本氏、消防本部を代表して成田市消防本部宇野勝洋氏をそれぞれ会長指名として決定した。

運営上の諸問題について、特別の問題点は提出されてなかった。

平成12年11月27日、平成13年度印旛郡市第二次救急医療運営事業の委託料について決定。委託期間は平成13年4月1日～平成14年3月31日（休日72日、休暇365日）、委託料は資料2参照

東邦大学佐倉病院連絡協議会

平成12年11月7日、ウィシュトンホテルニューカリにて開催された。出席者は東邦大学佐倉病院8名、印旛郡市医師会8名。

東邦大学佐倉病院の現状について説明があり、増床（約200床）の予定であることが発表された。また、検査のオープン化について説明があり、平成13年2月を予定しているとのこと。

病診連携については、糖尿病患者対策と

日本医科大学千葉北総病院連絡協議会

平成12年12月5日、成田全日空ホテルにて開催された。出席者は北総病院5名、印旛市郡医師会12名。

日本医科大学千葉北総病院の現状について説明があり、眼科及びICU部長が新任になった相談があった。

議事内容は主として病診連携に関し、糖尿病患者に対して、地域医療機関の協力を得たいとの要望があった。また、インフルエンザ、胃潰瘍について大学病院としての対応に質問があり、今後の協力体制を話し合った。

成田赤十字病院連絡協議会

平成13年1月19日、ホテルレッツ成田にて開催された。出席者は成田赤十字病院11名、印旛郡市医師会10名。

双方挨拶の後、成田赤十字病院の業務状況、救急患者の動向、今後の病院連携についての考え方、検診等の報告があり、逆紹介を推進して行きたいとの話があった。医師会側も積極的に協力体制を整備することで話し合った。
<table>
<thead>
<tr>
<th>団体名</th>
<th>職名</th>
<th>氏名</th>
<th>住所</th>
<th>TEL</th>
<th>FAX</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>社団法人印旛郡医師会</td>
<td>会長</td>
<td>進川孝雄</td>
<td>成田市加良部3-17-2</td>
<td>0476-27-0168</td>
<td>0476-27-0169</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>理事</td>
<td>藤倉国男</td>
<td>成田市上町503</td>
<td>0476-22-1151</td>
<td>0476-22-2301</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人風生会藤倉病院</td>
<td>院長</td>
<td>藤倉國男</td>
<td>成田市幸町483</td>
<td>0476-22-1158</td>
<td>0476-24-1008</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>副院長</td>
<td>坂野啓也</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>日吉台病院</td>
<td>院長</td>
<td>今村正成</td>
<td>印旛郡富里町日吉台1-6-2</td>
<td>0476-92-0001</td>
<td>0476-92-0707</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人社団育誠会北松栄病院</td>
<td>理事長</td>
<td>大坪健二</td>
<td>印旛郡栄町安食田中2421</td>
<td>0476-95-6811</td>
<td>0476-95-6815</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人社団東光会北松白井病院</td>
<td>副院長</td>
<td>小木曽実</td>
<td>印旛郡白井町根325-2-1</td>
<td>047-492-1001</td>
<td>047-491-1122</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印西病院</td>
<td>副院長</td>
<td>山室美砂子</td>
<td>印西市大森2550-10</td>
<td>0476-42-5011</td>
<td>0476-42-4080</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>講師</td>
<td>横井公良</td>
<td>印旛郡印旛村柳1715</td>
<td>0476-99-1111</td>
<td>0476-99-1904</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人社団愛信会佐倉中央病院</td>
<td>理事長</td>
<td>長島健治</td>
<td>佐倉市栄町20-4</td>
<td>043-486-1311</td>
<td>043-486-1314</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>東邦大学医学部附属佐倉病院</td>
<td>院長</td>
<td>小屋二六</td>
<td>佐倉市下志津564-1</td>
<td>院長秘書室</td>
<td>043-462-8811</td>
<td>043-462-8820</td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人社団光清会大日病院</td>
<td>理事長</td>
<td>高木謙有</td>
<td>四街道市大日933</td>
<td>043-422-1255</td>
<td>043-422-6788</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人社団威徳会栗山中央病院</td>
<td>院長</td>
<td>藤平威夫</td>
<td>四街道市栗山字荒山906-1</td>
<td>043-421-0007</td>
<td>043-421-0460</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人三矢会八街綜合病院</td>
<td>院長</td>
<td>吉永正承</td>
<td>八街市八街137-1</td>
<td>043-443-7311</td>
<td>043-443-7320</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医療法人甲辰会海保病院</td>
<td>院長</td>
<td>海保允</td>
<td>八街市八街386</td>
<td>043-443-1101</td>
<td>043-442-4649</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>千葉県佐倉保健所</td>
<td>保健士</td>
<td>植野勇</td>
<td>佐倉市錦水仲田町8-1</td>
<td>043-486-1322</td>
<td>043-486-2777</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>成田市健康管理課</td>
<td>課長</td>
<td>泽本博幸</td>
<td>成田市加良部3-3-1</td>
<td>0476-27-1111</td>
<td>0476-27-1114</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉市保健予防課</td>
<td>課長</td>
<td>伊佐幹</td>
<td>佐倉市江原台2-27</td>
<td>043-485-6711</td>
<td>043-485-6714</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四街道市健康増進課</td>
<td>課長</td>
<td>林田邦男</td>
<td>四街道市鹿渡無番地</td>
<td>043-421-2111</td>
<td>043-421-2125</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>団体名/部・課</td>
<td>職名</td>
<td>氏名</td>
<td>住所</td>
<td>TEL</td>
<td>FAX</td>
<td>備考</td>
</tr>
<tr>
<td>--------------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>-----</td>
<td>-----</td>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>八戸市総合保健センター</td>
<td>事務局長</td>
<td>加藤 多久美</td>
<td>8戸市八戸市3-5-29</td>
<td>043-443-1111</td>
<td>内線4130, 043-443-1742</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印西市健康管理課</td>
<td>課長</td>
<td>杉本 昭夫</td>
<td>印西市大森2356-3</td>
<td>0476-42-8503</td>
<td>0473-42-5514</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>酒々井町健康管理課</td>
<td>課長</td>
<td>岡田 昌夫</td>
<td>酒々井町中央4-10-1酒々井町保健センター</td>
<td>043-496-0090</td>
<td>043-496-8453</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富里町保健センター</td>
<td>所長</td>
<td>布田原 秀雄</td>
<td>富里町富士町7栄652-1</td>
<td>0476-93-4121</td>
<td>0476-93-2422</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印旛村保健福祉課</td>
<td>課長</td>
<td>横井 健治</td>
<td>印旛村印旛村瀬戸554-1</td>
<td>0476-98-1111</td>
<td>内線170, 0476-98-3023</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>白井町健康課</td>
<td>課長</td>
<td>佐藤 隆司</td>
<td>白井町白井町1458-1白井町保健センター</td>
<td>047-491-0166</td>
<td>047-498-4234</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>本埜村環境保険課</td>
<td>課長</td>
<td>篠塚 俊雄</td>
<td>本埜村本埜村2587</td>
<td>0476-97-1111</td>
<td>0476-97-3205</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>栄町健康課</td>
<td>課長</td>
<td>小林 一</td>
<td>栄町栄町1502</td>
<td>0476-95-1111</td>
<td>0476-95-4274</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>成田市消防本部警防課</td>
<td>課長</td>
<td>宇野 輝洋</td>
<td>成田市花崎町760</td>
<td>0476-20-1592</td>
<td>0476-24-4368</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四街道市消防本部警防課</td>
<td>課長</td>
<td>海保 光良</td>
<td>四街道市港町934-5</td>
<td>043-422-2442</td>
<td>043-423-7050</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>富里町消防本部総務課</td>
<td>課長</td>
<td>阿部 右武</td>
<td>富里町富里町栄735-2</td>
<td>0476-92-1311</td>
<td>0476-93-8837</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>栄町消防本部消防課</td>
<td>課長</td>
<td>関谷 伸一</td>
<td>栄町栄町1502</td>
<td>0476-95-0119</td>
<td>0476-95-7630</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉市八戸市酒々井町消防組合警防課</td>
<td>課長</td>
<td>白鳥 直木</td>
<td>佐倉市角来1730</td>
<td>043-484-1051</td>
<td>043-484-2502</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印西地区消防組合警防課</td>
<td>課長</td>
<td>日暮 昌明</td>
<td>印西市大塚1-4-1</td>
<td>0476-46-4321</td>
<td>0476-46-4441</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（資料2）平成13年度印旛都市第二次救急医療機関運営事業（病院郡輪番制方式）委託料

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>委託料</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>13</td>
<td>38,674,500円（88,500円/日×437日=38,674,500円）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 日数 437日（休日72日、夜間365日）
- 補助基準額 73,320円（見込み）
  （73,320円/日×437日×2/3=21,360,560円）
- 県補助金 21,360,560円
- 組合負担額 17,313,940円
診療情報提供担当理事報告

小 林 英 夫

＜平成12年度実績報告＞
5月24日（水）
第１回診療情報提供委員会開催
ポスターの作成、相談窓口の開設について検討された。
6月19日（月）
患者からの苦情相談に対応
6月29日（木）
地区医師会診療情報理事連絡協議会（千葉県医師会）に出席
7月16日（日）
患者の安全に関するセミナー（日本医師会）に出席
8月2日（水）
第２回診療情報提供委員会開催
ポスターの配布、相談窓口の具体的運営について検討された。
10月2日（月）
患者からの苦情相談に対応
10月11日（水）
患者からの苦情相談に対応
10月
会員へ「患者さんへ」のポスター配布

＜平成13年度事業目標＞
○定款改訂委員会の開催
・看護学校閉校に伴う関係各条の改訂
・入会金会費規定の改訂
・財務委員会との連携
○相談窓口に対する診療情報委員会の対応
○医事紛争に対する対応、啓蒙活動
産業保健担当理事報告

池克志

＜平成12年度事業内容＞
・平成12年6月8日
  第1回 印鑑・香取地域産業保健センター運営協議会開催
・平成12年6月29日
  日医認定産業医研修会開催
・平成12年8月23日
  全国労働安全衛生週間説明会参加
・平成12年9月8日
  東金労働基準監督署主催の講習会における講演
・平成12年9月14日
  産業医部会開催
・平成12年9月30日
  産業医学振興財団主催の講習会に出席
・平成12年12月6日
  第2回 印鑑・香取地域産業保健センター運営協議会開催
・平成13年3月17日
  日医認定産業医研修会開催
・平成13年3月21日
  第3回 印鑑・香取地域産業保健センター運営協議会
・平成13年3月29日
  産業保健担当理事・産業保健センターコーディネーター合同会議出席

＜平成13年度事業目標＞
・印鑑・香取産業保健センターの円滑な運営
  佐倉市での相談窓口の開設
  労働基準監督署との連携
・日医認定産業医講習会の開催
・産業医部会の支援と活性化
救急・三郡空対・地域医療担当理事報告

担当委員 後藤 良顕

＜平成12年度実績報告＞
1. 4月8日、千葉県救急医療研究会出席（於ザ・マンハッタン）
2. 6月6日より出動装備品の再チェックを行い、新人会員5人に装備品送付
3. 7月上旬より航空機事故消火救難総合訓練の参加者名簿及び編成表作成のための連絡を開始し、名簿を作成し当番医師会の佐原、布施先生に送付。
4. 救急連絡及び出動訓練のための成田地区の電話連絡網を作り直す。
5. 7月29日、第一回千葉県災害医療セミナー出席（於旭中央病院）
6. 12月9日、平成12年度千葉県医師会防災医療研修会出席（於県医療センター）
7. 9月6日に実施された電話連絡網による緊急連絡及び出動訓練について以下で報告。
   1）平成13年2月26日
       京葉地区地域医療連絡懇談会
       （於クリスタルホテル津田沼）
   2）平成13年4月7日 第四回千葉県救急医療研究会（於ザ・マンハッタン）

＜平成13年度事業目標＞
1. 電話連絡網による緊急連絡及び出動訓練（第二回）。成田地区での電話連絡網の整備（1班の人数を5〜6名に）。
2. 第二十回航空機事故消火救難総合訓練のための参加者名簿及び編成表の作成。
介護保険・経理 担当理事報告
遠山正博

＜平成12年度活動報告＞
●介護保険
印旛市郡医師会介護保険委員会開催
介護保険専門員指導：実務研修会指導
現任研修会指導
千葉県介護保険支援専門員協議会：代議員
サポート委員会委員長
主治医研修会開催
みななし指定法人集団指導講演
千葉県介護保険担当理事連絡協議会出席
都道府県介護保険担当理事連絡会出席
千葉県医療圈シンポジウム出席
日本医師会医療政策シンポジウム出席
●経理
各月経理チェック
決算・予算
●千葉県医師会勤務医問題等検討委員
勤務医問題等検討委員会出席

＜平成13年度活動目標＞
●介護保険の円滑な運営
主治医意見書・認定審査会
ケアマネジャーの育成
●公益法人会計の理解修得
保険担当理事報告

担当理事 鈴木直人

●医療保険（平成12年4月〜平成13年3月）

・医療保険講習会
  平成13年1月25日に行いました。
  毎年医療機関に対する集団指導が行われている県も多い中で、千葉県では行われていません。千葉県の医療機関が保険医としての自覚を診療に関わっていることもその一因ですが、集団指導のためには医療講習会を行っているのも実情です。しかし医療情勢が厳しい中で、療養保険的なルールを学習することなしに保険診療のルールを学習することなしに保険診療はできません。

千葉社会保険事務局 保険課指導医療官
佐々木徳秀先生、千葉社会保険事務局保険課医療事務指導官 今増純孝先生、千葉県医師会 医療保険担当理事の井上雄元先生の三人を講師にお迎えして開催しました。昨年よりも今年は多くの先生方が出席なさりました。今後はさらに出来る限り多くの先生方がご出席なさることが非常に大切なことと存じます。

・個々の医師会員へのサービス
  個々の医師会員が考えている保険診療に関する疑義に応えるサービスを行いました。今後も続けていきたいと思います。

・個別医療指導
  本年指導対象になった印旛郡医師会に所属する医療機関は2件あり、半日休診を

て、指導の場に出席しました。平成13年2月、3月にありました。保険医療について
先生方が知らない部分が多くあり、そのために保険請求上誤りを生じていることが多
く見受けました。指導の際にはカルテをに保険医療の基本的な考え方や、保険
保険のルールを学習することなしに保険診療はできません。

・保険保険事務講習
  平成12年12月26日に開催しました。
  平成12年12月20日県医師会主催の講習会
  では、県医師会の井上雄元先生による保険
  改正に関する説明が、3時間半にわたって
  行われました。内容が多く、質問する時間
  も削除されるほどでした。

  この講習会の内容に基づいて私が医療保
  険の改正点について印旛郡医師会主催の
  保険事務講習会の場で説明させていただき
  ました。お集まりいただいた方々は約400
  人にのぼり、皆様の医療への真剣に取り組
  む姿に心にお、厳しい医療状況を反映
  しているように思いました。

・保険研究委員会
  本年度は開催されました。今年度

び医療保険審査委員の方々にお集まりいただき、保険医療研究会を開催し、現在および将来の保険診療に関する種々の情報を集約し、会員への啓発を図りたいと考えます。

・新旧保険審査委員の交替

社会保険審査委員（内科系）として平成12年12月7日より内田朝彦先生から蜂谷公敏先生に代わりました。国民健康保険審査員（内科系）として平成13年1月より佐藤信博先生から鈴木直人先生に代わりました。国保の審査員は、思っていた通り重労働でした。始めてみてその責任の重さと、保険医療療養担当跡を診断報酬点数表に関する学習の重要性を改めて感じました。国保審査員として先輩である遠山正博先生にオーパーソナレーションおよびご教示いただきながら3月までの担当分を処理してきました。また審査員のうち10数名の先生が友人、知人であったことで教わられました。

●三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）

会長・副会長、三師会担当者が平成11年12月に集まり、医師会が作成した規約の原案をたたき台として三師会が合意案を決定しました。4月までに各師会で承認を得ました。三師会の会長は追川先生が就任されました。第1回の三師会を平成12年5月19日に、第2回を平成12年12月25日に開催しました。各師会から意見のない意見が出て有意義な会になっています。各師会の窓口として各師会より一名ずつ選出し、医師会の窓口は黒田先生になりました。

●印旛山武郡地域保健医療圈医薬分業推進協議会（佐倉保険所が主催）

平成11年度第1回会合（平成12年3月15日）
佐倉保険所
1. 会長・副会長の選出
2. 印旛山武郡地域保健医療圈医薬分業推進協議会設置要綱の承認
平成12年度第1回会合（平成12年9月14日）
佐倉保険所
1. 医薬分業の現状について
2. 推進施策について
3. その他
平成12年度第2回会合（平成13年3月1日）
東金保険所
1. 推進施策について
2. 委員の改選について
3. その他
理事会（平成13年3月）にて、平成13年度以降当面2年間は鈴木が引き続き委員を務めることになった。
推進施策として当面、一般市民の方々の本協議会への参加を促し、一般市民への啓発につとめるとともに反省しつつ前向きに医薬分業の推進に努める。
体日・夜間・年末年始における対応を次第に充実する方向に向かって努力する。
広報・医療システム担当理事報告

湯澤晃雄

1. 広報委員会

平成12年度は、印旛市郡医師会報第26号と27号を発行した。
また、印旛市郡医師会のインターネットにおけるホームページを立ち上げた。
平成13年度は成田高等専修看護学校の閉校に伴い記念誌の発行と印旛市郡医師会報第28号の発行を予定している。
インターネットは、林企画に校正を頼み更新をする頻回にする予定である。

2. 医療システム委員会

医療システム委員会は
① 医師会員のために花の花ネットを作り
会員同士の意見交換の場を作り、情報の流通をはかった。
② 地区医師会のためにhomepage から情報
提供を行い、リアルタイムな通信をはかった。
③ 医療情報の公開について、電子カルテ
について、ORCA（進化型オンラインレセアトコンピューターシステム）について各々検討を始めた。
来年度は現在の検討課題を具体化してゆく。
印旛市郡医師会ホームページ作成記

広報委員 京 増 勝 則

小泉首相のメールマガジンも登録者数100万人を突破し、世界一のメールマガジンになったそうです。あっという間に日本もインターネット時代となり、医療現場でもインターネットの波が押し寄せました。そのような時に、追川先生から印旛市郡医師会のホームページを作るよう依頼され、気軽に引き受けていたのが運の尽きでした。湯澤先生に医師会館（旧看護学校）の写真をデジカメで撮ってもらい（しかも電柱・電線を消す修正付き）、会報の記事を原稿にし、表紙の写真を拝絵にして、自作してみたものの何ともあか抜けなくていけません。なんといっても、印旛市郡医師会が11市町村の連合体であることから、各地区会の情報ももちろなく載せるとなれば、他の医師会ホームページの数倍の情報量になります。取扱いがつかなくなっています。最初から想定していませんが、後回しにして、医師会としての姿勢や業績を紹介することになりました。観覧者である一般市民の方々に理解され共感を持たれるようなホームページにしたいと考えております。さらに第二弾として、会員のページを導入し、諸先生方の情報交換の場として活用していきたいと考えております（平成14年オープン予定）。この度NTTの松さんの協力を得て、ホームページ作成スタッフを導入し、リニューアルしたホームページを公開することが出来ました。下記ホームページですので是非ご覧ください。ご意見を賜れば幸いです。

http://www5.ocn.ne.jp/~inba/
現在佐倉地区においては、国立佐倉病院の統廃合が最大の問題です。これまでの歴史的関係や地区会員への影響を考えると、現状のまま国立病院として存続してくれることが最善と考えますが、度重なる厚生省との話し合いにおいても存続の可能性は皆無です。存続を議会で議決していた佐倉市も、既に存続要求をあきらめ後療法についての検討を始めております。

我々医師会としても、国立佐倉病院が現在存在している意義をもう一度検討し、後療法の何たるかを根本から考え直し、今後の方向性を見極めて行きたいと考えております。

平成12年度には佐倉地区の顔ともいえた4人の大先輩がご逝去されました。一方、新入会員も6名がいえ、6月現在では82施設、122名の大所帯となりました。先輩たちの築いてきた歴史を守りながら、若い先生方がもっと積極的に参加できるような医師会にしたいと考えております。兼坂・長鳥両先生の先生方をはじめ地区会員の先生方のますますのご協力をお願いします。

（池 克志）
四街道地区

平成13年度に入って、当地区の常会は２時間、ときには３時間の長丁場となっています。1次救急体制をめぐっての議論が毎回続いています。

現在、当地区では市が休日夜間急病診療所を開設し、医師会員（内科・外科・整形外科・耳鼻科・精神科）が輪番制で協力しています。この診療所は、昭和48年に町営休日診療所として県下で初めて開設され、以降諸先輩方のご苦労とご努力で支えられてきたという歴史をもっています。

しかし、最近になって会員から次のような意見が強く出されるようになり、今日の議論に至っています。すなわち、「専門でない自分たちが生後数カ月の乳児を含めて診療にあたるのは大変不安であり責任がもてない」というものです。その理由として、受診者の半分が小児（15才以下）であり、その70％が5歳以下の幼児であるという現状があります。

また、受診者の側の「最初から児科医に診療してもらいたい」というニーズの高まりも無視できません。

いずれにしても、一筋縄ではいかない問題であり、さらに時間をかけて議論し、なんらかの改善策を見い出そうと努力している最中です。

（柴田敦雄）
【学術】
平成12年9月30日に日本医大千葉北総病院リハビリテーション科の北村純一先生の御尽力により、印西地区主催の印西市郡医師会術講演会を行なった。
太平洋リハビリテーション病院副院長のSUNGYUL KIM先生を講師にお招きし、ハワイのリハビリテーションの実際の演題にて、御講義を英語にて受けるという画期的なものであった。
また、11月30日には地区常会の後、高根台メンタルクリニックの赤川和弘先生をお招きして、老人性痴呆の勉強会を行った。
アルツハイマー性痴呆と脳血管性痴呆との鑑別や、介護保険の主治医意見書の記述法など意義ある講義を受けることができた。
今後も日常診療の有用な生涯学習が続けられることが望まれる。

【病診連携】
当地区にある日本医大千葉北総病院との病診連携が順調に深まってきている。特に脳外科のある脳卒中ホットラインは実地医家にとってはたのしいシステムである。

12月には、小林先生の御尽力により、脳卒中勉強会が開催され、TIA等の講義を受け、「軽微な症状を見逃さずに、疑いあらばホットラインを利用していただきたい。」と強調されていた。
また、平成13年1月16日は小児科の藤野先生を講師にお招きし、インフルエンザの診断と治療の講演を予定しています。
今後も、さらに日本医大千葉北総病院との勉強会を活発に行なっていくことが、実地医家にも患者さんにも有益なことだと考えています。

【医師会事務所】
事務所で仕事をしている石川さんと麻生さん、ご苦労様です。
右も左もわからない理事の仕事を優しくサポートしてくれて、大変感謝しています。
当地区は、今後も若い先生が理事に就任していく予定ですので、今後もその「優しさ」よろしくお願いいたします。

（岩井 力）
当八街地区は、会員総数25名の小さな地区でありますし、隣地区の成田、佐倉などで勉強会がしばしば開かれます故、今まで地区勉強会なるものがなかったのは、至極當然の流れだったのかもしれません。しかし、各地区ごとに勉強会を開くように同様な通達により、当地区でも勉強会を開くこととなりました。しかし、少人数のため各科にまたがった話題で、しかも各会員が聞きたいと思うような、話題を見つけることが悩みの種でした。

そこでまず、外来患者の10％をしめるという、身体所見を訴える神経学的異常について会を開こうと思第1回目を「心身症」（成田地区、国保先生）、第2回目を「内科からみたうつ」（日大、村上先生）と題して勉強会を開きました。幸いなことに、出席をしていた会員からは、好評だったようで、一応の反響がありました。しかしこれからどのようなテーマを持っていければいいのか、また悩んでいます。できれば細々と長く続けてゆければと思っています。各地区の先生方もぜひ御出席ください。
成田市では、現在2002年ワールドカップサッカー立候補地として誘致活動をしております。中台運動公園、市内の道路、その他の環境も整備されつつあります。それに伴ない成田看護高等専修学校の使用可能となる様です。サッカー誘致実現しましたら、各地区の先生方にも御協力のほどお願いいたします。

成田地区医師会では、毎月第4火曜日に成田看護高等専修学校を使用して地区集会を行って来ました。平成13年3月、長い歴史をもった成田看護高等専修学校が廃校となりました。本会誌記念特集号にて御報告しておりますが、なのか淋しい思いを抱きながら、医師会館となった旧校舎に、各先生方は足をお運びになり、お集まりになられるかと思います。

（石原輝英・京增芳則）
<table>
<thead>
<tr>
<th>地区</th>
<th>会員名</th>
<th>勧開</th>
<th>出身校</th>
<th>卒業年</th>
<th>自己の診療科</th>
<th>医療機関名</th>
<th>所在地</th>
<th>電話番号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>藤田英俊</td>
<td>1</td>
<td>佐治大学</td>
<td>H1 3/30</td>
<td>内</td>
<td>医</td>
<td>社団法人極楽寺病院</td>
<td>佐治市松山町</td>
<td>043-866-0121</td>
</tr>
<tr>
<td>藤田英俊</td>
<td>2</td>
<td>佐治大学</td>
<td>S3 3/30</td>
<td>外</td>
<td>医</td>
<td>社団法人極楽寺病院</td>
<td>佐治市松山町</td>
<td>043-866-0121</td>
</tr>
<tr>
<td>佐治英俊</td>
<td>3</td>
<td>佐治大学</td>
<td>S4 3/30</td>
<td>内</td>
<td>医</td>
<td>社団法人極楽寺病院</td>
<td>佐治市松山町</td>
<td>043-866-0121</td>
</tr>
<tr>
<td>佐治英俊</td>
<td>4</td>
<td>佐治大学</td>
<td>S5 3/30</td>
<td>外</td>
<td>医</td>
<td>社団法人極楽寺病院</td>
<td>佐治市松山町</td>
<td>043-866-0121</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ 1. 開業医
2. 勤務医

平成13年6月25日現在

118
入退会記録

○退会

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区</th>
<th>会員名</th>
<th>医療機関名</th>
<th>退会年月日</th>
<th>理由</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>成田</td>
<td>栗敷原賢一</td>
<td>富里中央クリニック</td>
<td>H12.06.30</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>四街道</td>
<td>三好武美</td>
<td>医輔団風会栃木中央病院</td>
<td>H12.12.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>印西</td>
<td>北村純一</td>
<td>日本医科大学附属千葉北総病院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>印西</td>
<td>西村泰司</td>
<td>日本医科大学附属千葉北総病院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>転勤</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>小屋二六</td>
<td>東邦大学医学部附属佐倉病院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>内田康美</td>
<td>東邦大学医学部附属佐倉病院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>竹内忍</td>
<td>東邦大学医学部附属佐倉病院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>佐倉</td>
<td>高田輝雄</td>
<td>佐倉ゆうゆうの里診療所</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>成田</td>
<td>日下部茂樹</td>
<td>医薬病会セントマリアクリニック</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>退職</td>
</tr>
<tr>
<td>成田</td>
<td>二宮もと</td>
<td>二宮医院</td>
<td>H13.03.31</td>
<td>廃業</td>
</tr>
</tbody>
</table>

会員の訃報
謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

平成12年6月23日
野中 武先生（成田）

平成12年6月30日
石原 靜雄先生（成田）

平成12年9月18日
杉山トミ子先生（四街道）

平成12年12月11日
中村 晃二先生（佐倉）

平成13年1月29日
渡辺増子雄先生（佐倉）

平成13年2月1日
山本 勝美先生（佐倉）

平成13年2月26日
藤倉 靜雄先生（成田）
今年の夏は例年にくす酷暑でありました。成田でも市街地では、アスファルトの熱気で窓を開けても入ってくるのは熱風ばかり、おまけに最近は窓を開けたまま寝るのも物験です。したがって、今まで冷房を嫌っていたお年寄りまでクーラーに頼ることが多くなりました。暑い外で汗をかき、お店や銀行にはいると体が冷える。熱中症や冷房病が例年になく多い夏でした。なんだか寒い冬よりも夏の方が体に過酷な時代になってきたようですね。
これも森林を伐採したり、工業化が進いた地球温暖化の影響なのでしょうか？だとしたら、もう身近まで自然破壊の影響が届いてきているごことはないと感じます。とはいえ、良い天気が続き、夏を満喫でき、今号の表紙を飾った成田祇園祭も盛況で良かったのですか……。

京増 芳則
表紙の言葉

成田市で行われる祇園祭に使用される山車の1台で、成田山新勝寺所有の山車であります。山車は全10台で、7月7・8・9日の3日間にかけて市内を練り歩きます。

元々祇園祭は、成田山奥の院の祭礼として数百年前より行われたそうです。現在もその姿を残しているとの事であり、成田市では七夕祭ではなく、祇園祭として今も受け継がれています。

（石原 輝英）

<table>
<thead>
<tr>
<th>印旛市郡医師会報 第28号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>発行日</td>
</tr>
<tr>
<td>発行人</td>
</tr>
<tr>
<td>発行所</td>
</tr>
<tr>
<td>区団法人 印旛市郡医師会 TEL 0476-27-0168</td>
</tr>
<tr>
<td>編集者</td>
</tr>
<tr>
<td>(担当 菊池尚子)</td>
</tr>
<tr>
<td>印刷所</td>
</tr>
</tbody>
</table>